

令和 6 年能登半島地震被災地等における
全国地震動予測地図の認知度等に関する調査
調査結果報告書

令和 7 年 3 月

本報告書は、文部科学省の請負業務として、株式会社サーベイリサーチセンターが実施した令和6年能登半島地震被災地等における全国地震動予測地図の認知度等に関する調査業務の成果を取りまとめたものです。

目次

I. 調査概要	1
II. 調査結果まとめ	3
III. 調査結果	16
IV. 添付資料	85

I. 調査概要

(1) 調査目的：

地震調査研究推進本部では、国民の地震防災意識の高揚や地方公共団体等における地震防災対策への活用等を目的に、強い地震動に見舞われる確率を全国的に概観できる全国地震動予測地図（確率論的地震動予測地図）を作成・公表している。

しかし、令和6年能登半島地震の際、全国地震動予測地図などの地震調査研究の成果が、被災地となった地域の住民に事前に十分に認知・活用されていなかった可能性があることが課題として挙げられた。

この課題を受け、全国地震動予測地図を中心とした地震調査研究の成果の認知度や利用状況、地震に対する理解度等を把握し、今後の地震調査研究の成果普及方策を検討するための基礎資料を得ることを目的として、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センターの協力を得て、アンケート調査を実施した。

(2) 調査対象：

① 輪島市

1) 一般住宅

鳳至町上町／鳳至町下町／鳳至町袖ヶ浜／鳳至町堂金田／鳳至町畠田／

鳳至町鳳至丁／鳳至町石浦町／鳳至町稻荷町／新橋通／堀町／釜屋谷町／平成町

2) 仮設住宅

② 珠洲市

1) 一般住宅

飯田町／北方／寺社／南方／野々江町／正院町正院／正院町小路

2) 仮設住宅

③ 金沢市

1) 一般住宅

高尾台1丁目／高尾台2丁目／高尾台3丁目／高尾台4丁目

(3) 調査方法：

質問紙調査（郵送配布郵送回収）

(4) 調査期間：

令和6年12月12日～令和7年1月21日

(5) 配布数・回収数：

	全体	輪島市		珠洲市		金沢市	その他	
		一般住宅	仮設住宅	一般住宅	仮設住宅	一般住宅	一般住宅	仮設住宅
調査対象数	6,557 件	1,610 件	827 件	1,632 件	755 件	1,733 件	－	－
実配布数	5,653 件	1,044 件	827 件	1,350 件	755 件	1,677 件	－	－
有効回収数	1,999 件	337 件	411 件	445 件	332 件	443 件	28 件	3 件
有効回収率 ※実配布数ベース	35.4%	32.3%	49.7%	33.0%	44.0%	26.4%	－	－

※「その他」は問2 現在居住地において複数拠点等の回答があったサンプル

(6) 報告書の見方

- ・図表中の n は回答者の基数であり、その質問に回答すべき人数を表す。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・調査数（n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低い
ため、文章中の分析では言及していない。

II. 調査結果まとめ

1. 被害状況と耐震状況の関係

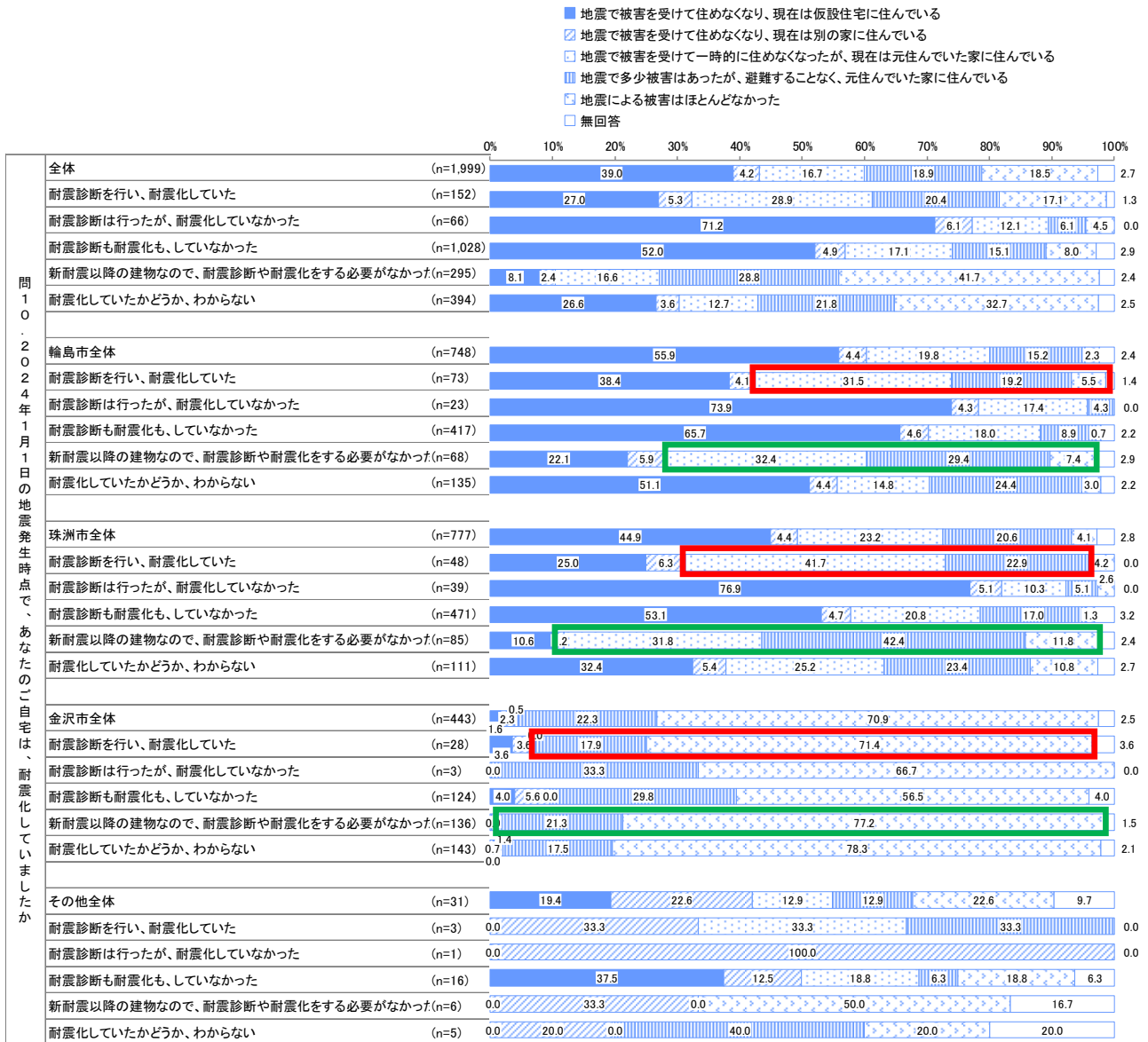
令和 6 年（2024 年）1 月 1 日 16 時 10 分、石川県能登地方においてマグニチュード 7.6 の地震が発生し、石川県の志賀町及び輪島市で震度 7 を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度 6 以上の強い揺れを観測した。

本アンケート調査では、輪島市の一般住宅及び仮設住宅、珠洲市の一般住宅及び仮設住宅、金沢市の一般住宅を対象にアンケート調査票を配布した。その回答から被害状況をみると、自宅が地震で被害を受けて住めなくなった割合は 4 割台半ば、地震発生後も自宅に住んでいる割合は 5 割台半ばとなっている。

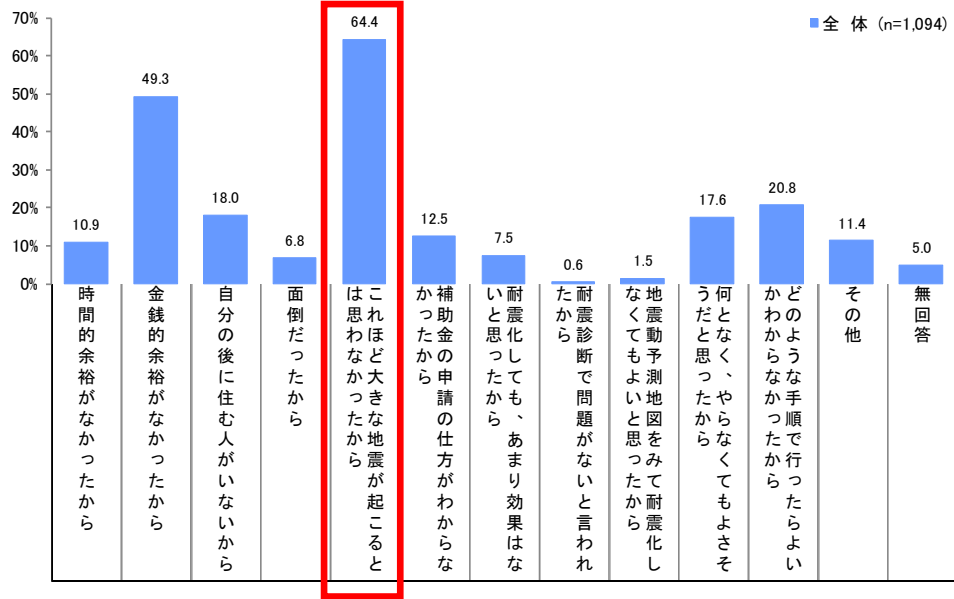
この被害状況（問 4）について、現在の居住地別・耐震化状況別（問 2・問 10）に地震発生後も自宅に住んでいる割合を見てみると、いずれの自治体でも＜耐震診断を行い、耐震化していた＞場合、又は＜新耐震以降の建物なので、耐震診断や耐震化をする必要がなかった＞場合は耐震化していなかった場合と比べて、自宅に住んでいる割合が高い。特に、新耐震以降の建物ではその傾向が強く、今回のような大地震に見舞われた後でも、自宅に住み続けられる可能性が高まることが分かる。

なお、問 10 で自宅について「耐震診断は行ったが、耐震化していなかった」及び「耐震診断も耐震化も、していなかった」人の、自宅を耐震化しなかった理由（附問 10-2）を見ると、「これほど大きな地震が起こると思わなかったから」（64.4%）が最も高く、自宅が大地震に見舞われる可能性を想定していなかった人が多かったことがうかがわれる。また、問 10 で自宅について「耐震診断を行い、耐震化した」人の、自宅を耐震化した理由（附問 10-1）を見ると、「大きな地震（平成 19 年能登半島地震、東日本大震災、熊本地震など）があったから」（17.8%）は一定数いるものの、「過去の地震（平成 19 年能登半島地震や群発地震）で被害を受けて修繕していたから」（34.2%）のように、被害を受けてから、あるいは「地震とは関係なく、リフォームし耐震化も行ったから」（36.2%）のほうが多く、事前に地震のリスクを想定して対応したケースはそれほど多くないと考えられる。耐震化促進に向けては、自宅が大地震に見舞われるリスクについて正しく認識してもらうことが大切である。

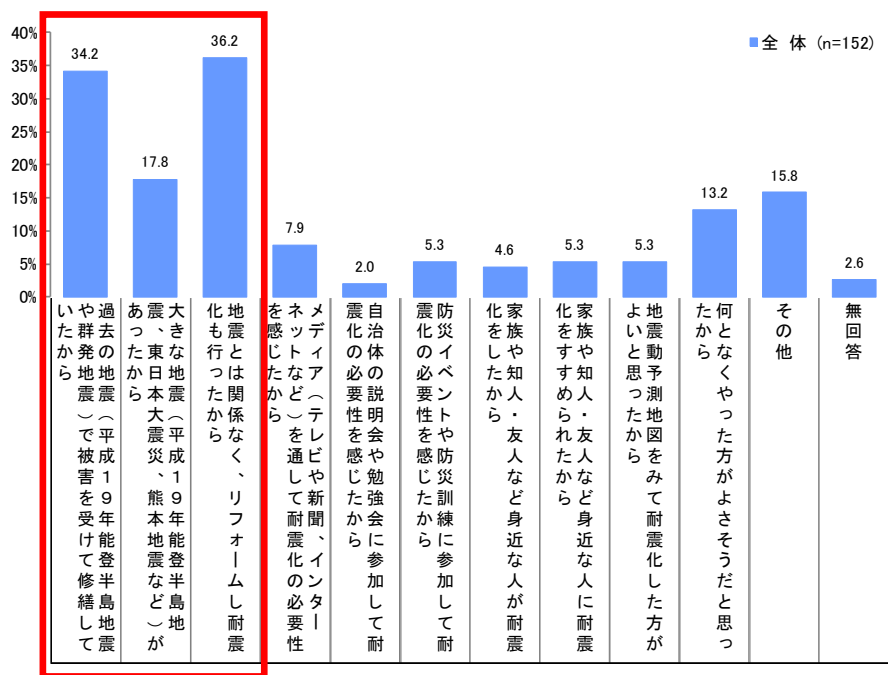
【図表 1-1 令和6年能登半島地震での被害（問4）】



【図表 1-2 自宅を耐震化しなかった理由（附問 10-2）】



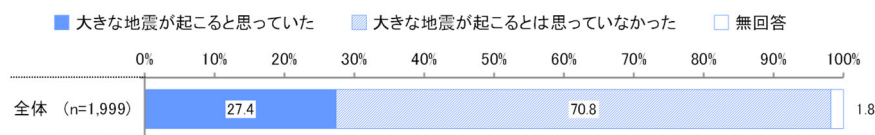
【図表 1-3 自宅を耐震化した理由（附問 10-1）】



2. 大地震発生の可能性に対する認識

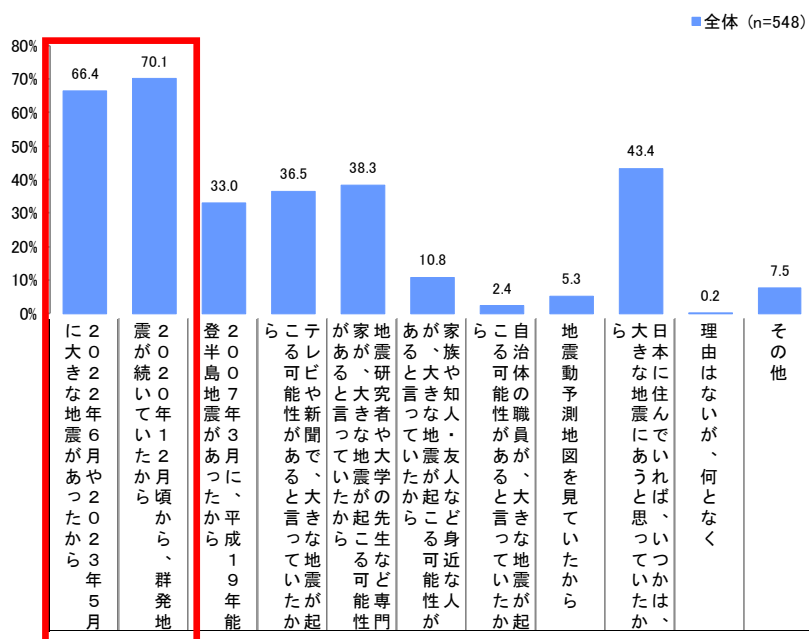
令和6年能登半島地震のような大地震発生の可能性（問6）については、「大きな地震が起こると思っていた」が27.4%である。

【図表 2-1 令和6年能登半島地震のような大地震発生の可能性（問6）】



「大きな地震が起こると思っていた」理由（附問6-1）をみると「2020年12月頃から、群発地震が続いていたから」（70.1%）、「2022年6月や2023年5月に大きな地震があったから」（66.4%）が高く、「大きな地震が起こると思っていた」人の中では、近年同地域で発生している地震の多さから令和6年能登半島地震のような大地震発生の可能性を考えていた人が多く存在していた。

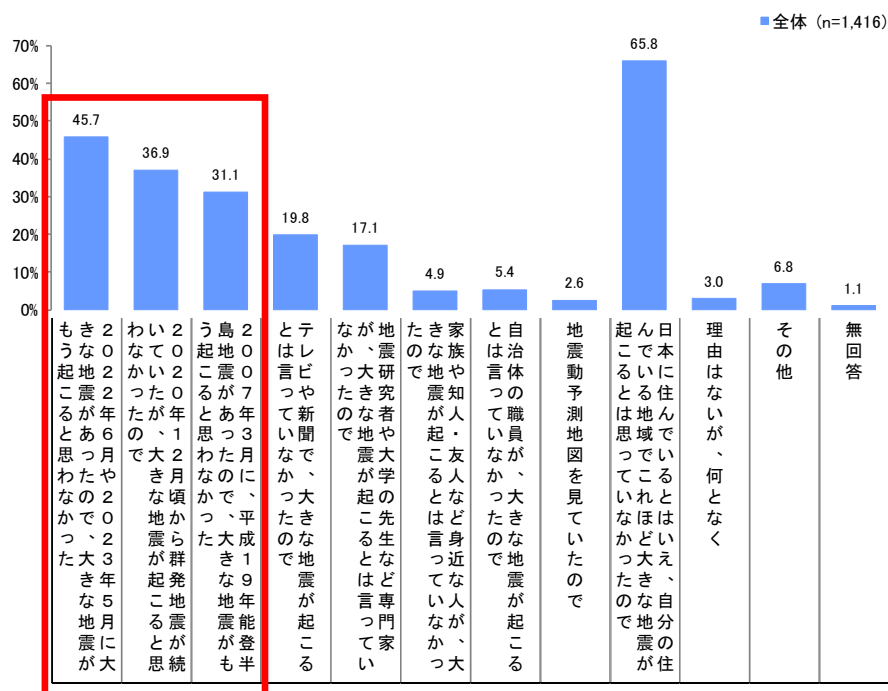
【図表 2-2 「大きな地震が起こると思っていた」理由（附問6-1）】



他方、令和6年能登半島地震のような大地震発生の可能性（問6）について「大きな地震が起こるとは思っていなかった」が70.8%おり、「大きな地震が起こると思っていた」と考えていた人よりも多数となっている。「大きな地震が起こるとは思っていなかった」理由（附問6-2）をみると、「日本に住んでいるとはいえ、自分の住んでいる地域でこれほど大きな地震が起こるとは思っていなかったの」（65.8%）のように、単純に自分の住んでいる地域でこれほどの大地震が起こることを考えていなかったという回答が多いほか、2007年、2020年、2022年、2023年と、大きな地震を経験してい

たために、「もうしばらく大地震は起きないだろう」とかえって安心してしまったと考えられる人たちも多かった。

【図表 2-3 「大きな地震が起こるとは思っていなかった」理由（附問 6-2）】

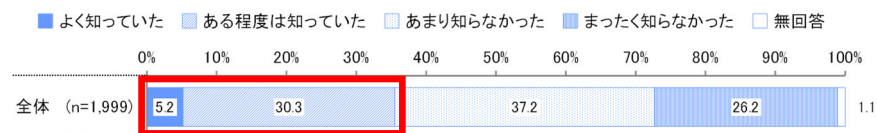


3. 地震調査研究の成果の認知状況・活用状況

本アンケートでは、地震調査研究の成果として、①2021年頃から2024年1月1日の能登半島地震発生前までの期間に地震調査研究推進本部地震調査委員会が行っていた定例記者会見における地震の注意呼びかけの認知状況（問9）と、②確率論的地震動予測地図の認知有無（問15）を尋ねている。

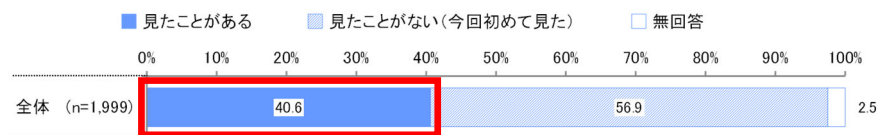
前者について、「よく知っていた」は全体で5.2%であった。「ある程度は知っていた」を合わせても、35.5%にとどまる。

【図表 3-1 地震調査研究推進本部地震調査委員会による地震の注意呼びかけの認知状況（問9）】



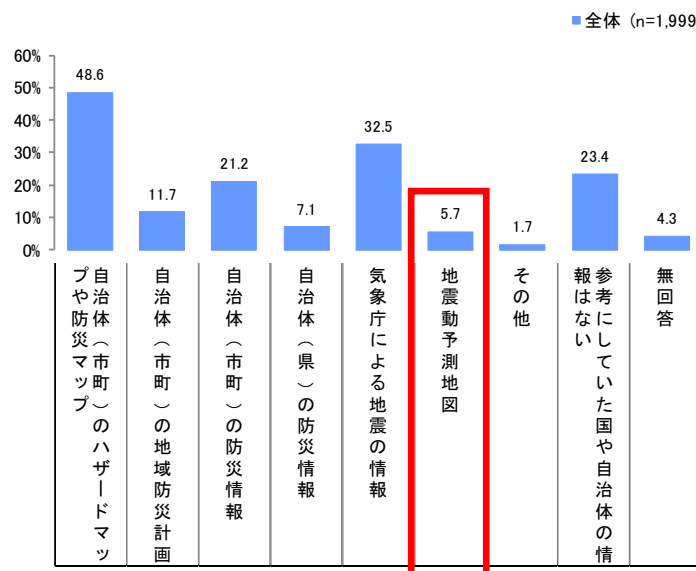
また、後者について、「見たことがある」は40.6%であり、過半数は「見たことがない（今回初めて見た）」と回答している。

【図表 3-2 確率論的地震動予測地図の認知有無（問15）】



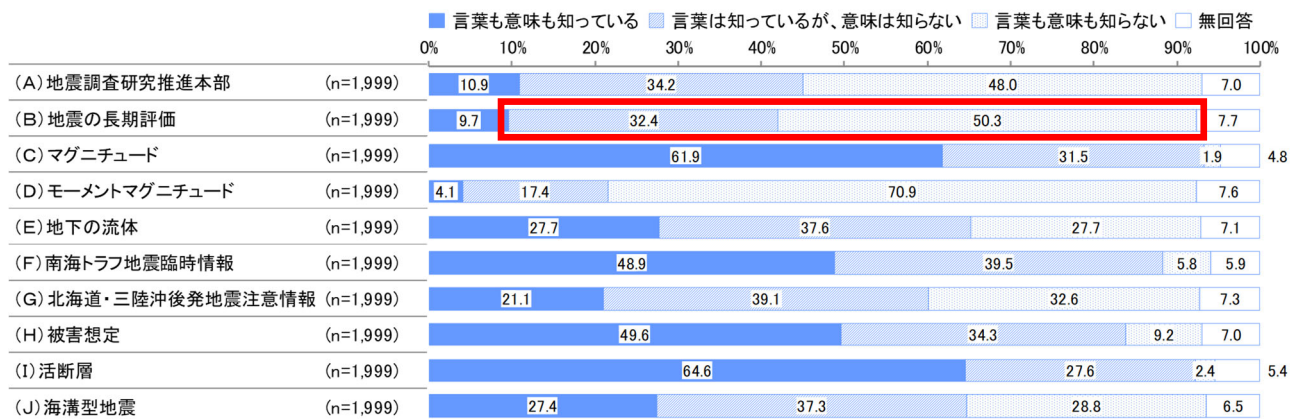
2024年1月1日の地震が発生する前までの時点での、地震や地震対策のことを知るのに参考にしていただいていた国や自治体の情報（問14）をみると、「地震動予測地図」を利用した人は5.7%である。問14で最も利用率の高い「自治体（市町）のハザードマップや防災マップ」（48.6%）と比べると、利用率には大きな差があるといえる。

【図表 3-3 地震や地震対策のことを知るのに参考にしていただいていた国や自治体の情報（問14）】



地震に関連する用語の認知状況（問 25）をみると、＜（B）地震の長期評価＞について「言葉も意味も知っている」は 9.7%、「言葉は知っているが、意味は知らない」は 32.4%であり、8 割以上的人是＜（B）地震の長期評価＞の意味や内容について認識していないと考えられる。なお、地震の長期評価を行っている＜（A）地震調査研究推進本部＞の認知状況も＜（B）地震の長期評価＞とほぼ同様の認知状況であった。

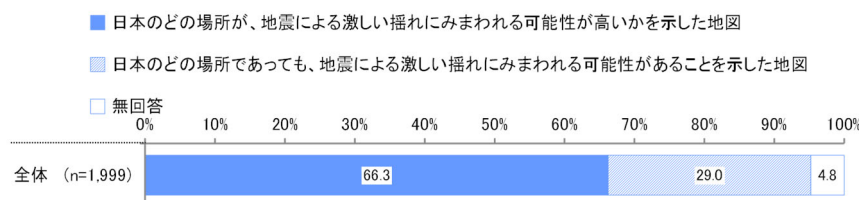
【図表 3-4 地震に関連する用語の認知状況（問 25）】



4. 地震動予測地図を見ての受け止め

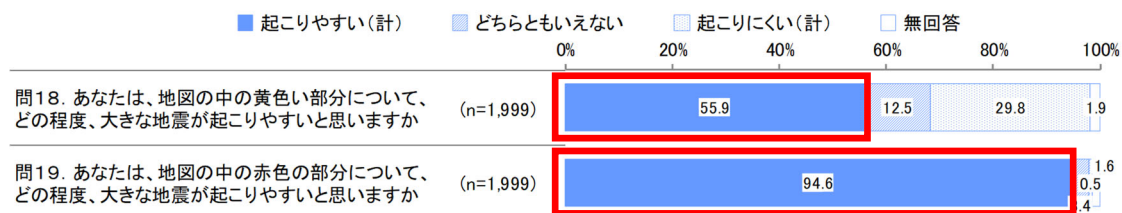
地震動予測地図が何を示した地図であるかについて（問 16）は「日本のどの場所が、地震による激しい揺れにみまわれる可能性が高いかを示した地図」が 66.3%、「日本のどの場所であっても、地震による激しい揺れにみまわれる可能性があることを示した地図」が 29.0%である。

【図表 4-1 地震動予測地図が何を示した地図であるかについて（問 16）】



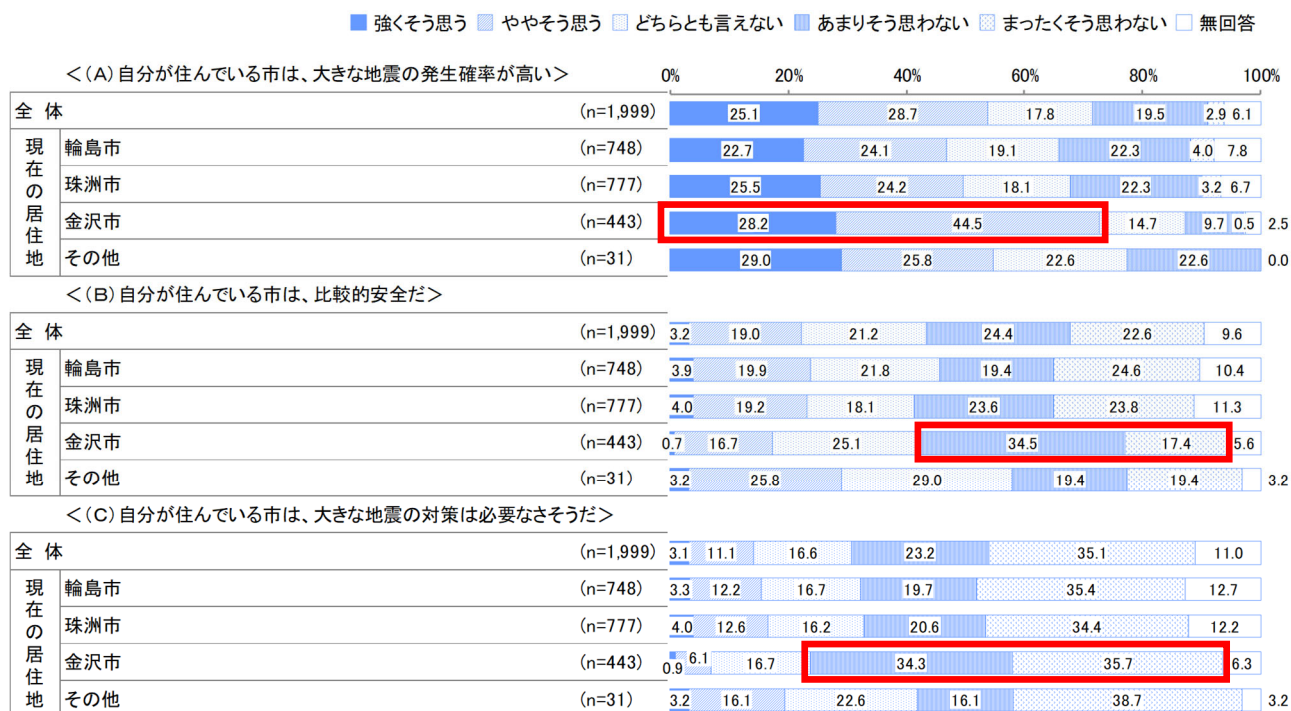
地震動予測地図を見て感じる大地震の発生しやすさ（問 18、問 19）について、「非常に地震が起こりやすい」、「地震が起こりやすい」、「やや地震が起こりやすい」を合わせた『起こりやすい（計）』は、黄色の地域で 55.9%、赤色の地域（※地図上の色分けは赤色と紫色）で 94.6%となっている。

【図表 4-2 地震動予測地図を見て感じる大地震の発生しやすさ（問 18、問 19）】



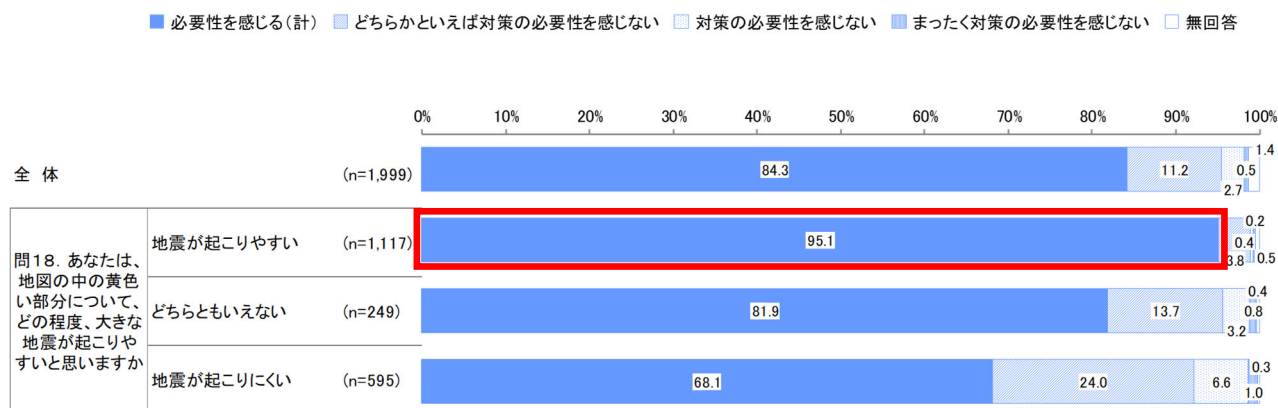
また、地震動予測地図を見ての自分が住んでいる市に対する大地震の起こりやすさ等の認識（問 21）の＜（A）自分が住んでいる市は、大きな地震の発生確率が高い＞をみると、地図上黄色の地域の範囲が広い輪島市や珠洲市よりも赤色の地域の範囲が広い金沢市の住民のほうが、大きな地震の発生可能性を高いと認識している人が多くなっている。逆に、＜（B）自分が住んでいる市は、比較的安全だ＞や＜（C）自分が住んでいる市は、大きな地震の対策は必要なさそう＞では、そう思わない人の割合が輪島市や珠洲市よりも金沢市で高いことから、黄色の地域よりも赤色の地域の人のほうが、より大地震のリスクが高いことを認識していると考えられる。

【図表 4-3 地震動予測地図を見ての自分が住んでいる市に対する大地震の起こりやすさ等の認識（問 21）】



30年以内に震度6弱以上の地震の揺れにみまわれる確率が「0.1～3.0%」であることを踏まえての黄色の地域における地震対策の必要性（問20）について、「非常に対策の必要性を感じる」、「対策の必要性を感じる」、「どちらかといえば対策の必要性を感じる」を合わせた『必要性を感じる（計）』は、全体では84.3%である。これを黄色の地域における地震動予測地図を見て感じる大地震の発生しやすさ（問18）別にみると、地震が起こりやすいと思っている層では『必要性を感じる（計）』は95.1%を占める。

【図表 4-4 30年以内に震度6弱以上の地震の揺れにみまわれる確率を踏まえての黄色の地域における地震対策の必要性（問20）】

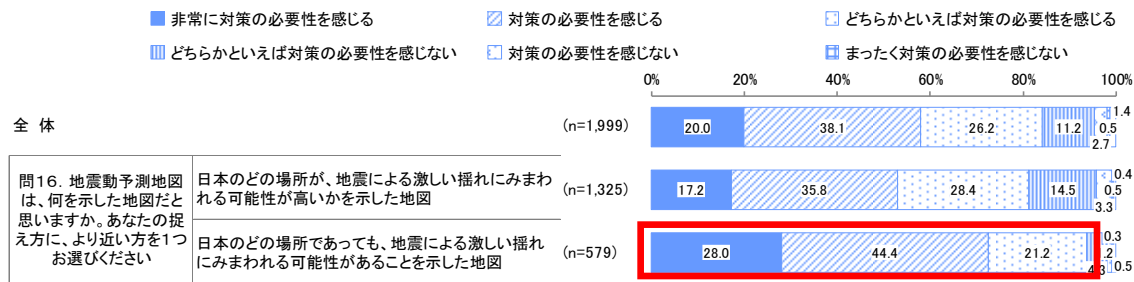


また、地震動予測地図が何を示した地図であるかの認識（問16）別にみると、地震動予測地図が「日本のどの場所が、地震による激しい揺れにみまわれる可能性が高いかを示した地図」と認識している層よりも、「日本のどの場所であっても、地震による激しい揺

れにみまわれる可能性があることを示した地図」と認識している層のほうが、地震対策の必要性を強く感じている結果となっている。

先に見たように、地震動予測地図を見た人に対して、色の違いで大地震のリスク度合いの違いを認識させることができると考えられるが、色の違いに加えて、地震動予測地図そのものを適切に理解してもらうことで、大地震のリスクや対策の必要性を考えてもらうことを促すことにつながると考えられる。

【図表 4-5 30年以内に震度6弱以上の地震の揺れにみまわれる確率を踏まえての黄色の地域における地震対策の必要性（問20）】

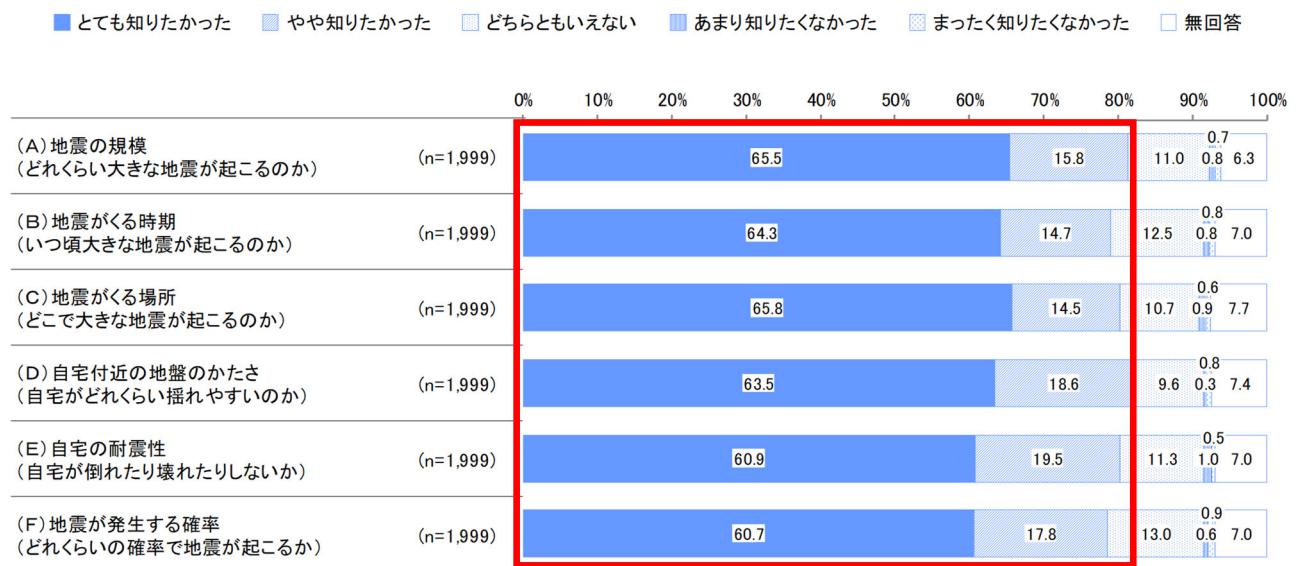


5. 今後の地震調査研究の成果普及展開に向けて

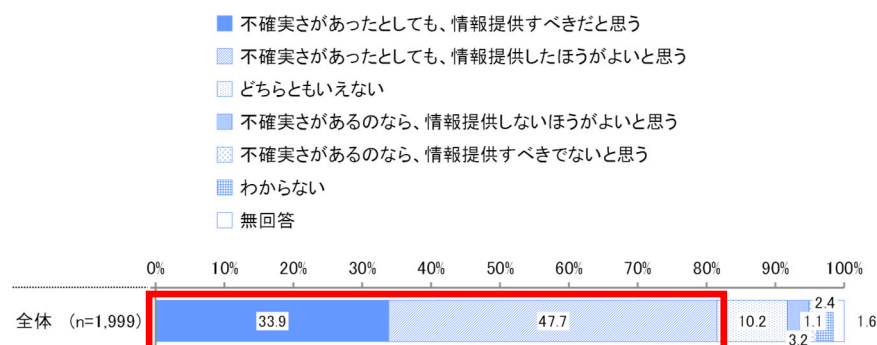
先にみたように、確率論的地震動予測地図を「見たことがある」は40.6%（問15）、地震や地震対策のことを知るのに参考にしていた情報として、「地震動予測地図」を利用していたと回答した人は5.7%であった。この結果は、令和6年能登半島地震発生前に被災地となった地域の住民に十分に認知・活用されていなかった可能性を示すものと言える。

しかしながら、令和6年能登半島地震のような大地震に備え知りたかった情報（問5）をみると、＜（F）地震が発生する確率（どのくらいの確率で地震が起こるのか）＞のニーズは＜（A）地震の規模（どのくらい大きな地震が起こるのか）＞や＜（B）地震が来る時期（いつ頃大きな地震が起こるのか）＞といった情報と大きな差はなく、また不確実さを伴う情報に対して8割以上の人が許容する考えを示している（問23）。

【図表 5-1 令和6年能登半島地震のような大地震に備え知りたかった情報（問5）】



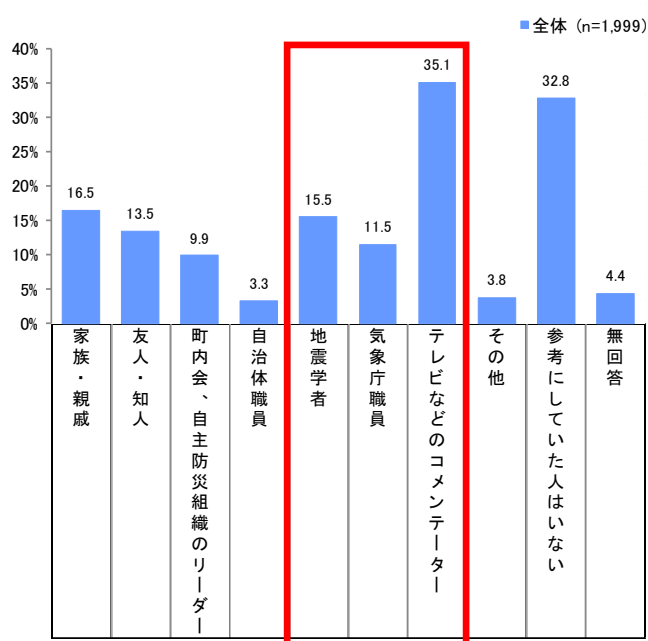
【図表 5-2 不確実さを伴う情報の提供（問23）】



以上から、全国地震動予測地図を中心とした地震調査研究の成果にはニーズはあるものの、国民の認知や理解が進んでいない状況にあると考えられる。

令和6年能登半島地震発生が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに参考に使っていた人（問12）を見ると、「テレビなどのコメンテーター」（35.1%）が最も多いが、「地震学者」（15.5%）、「気象庁職員」（11.5%）といった、地震についての専門知識を有した人からの情報を参考に使っていた人が一定数いることがわかる。また、地震や地震対策のことを知るのに参考に使っていた国や自治体の情報（問14）から、国民が気象庁や自治体が提供する様々な情報を参考としていることがうかがえる。

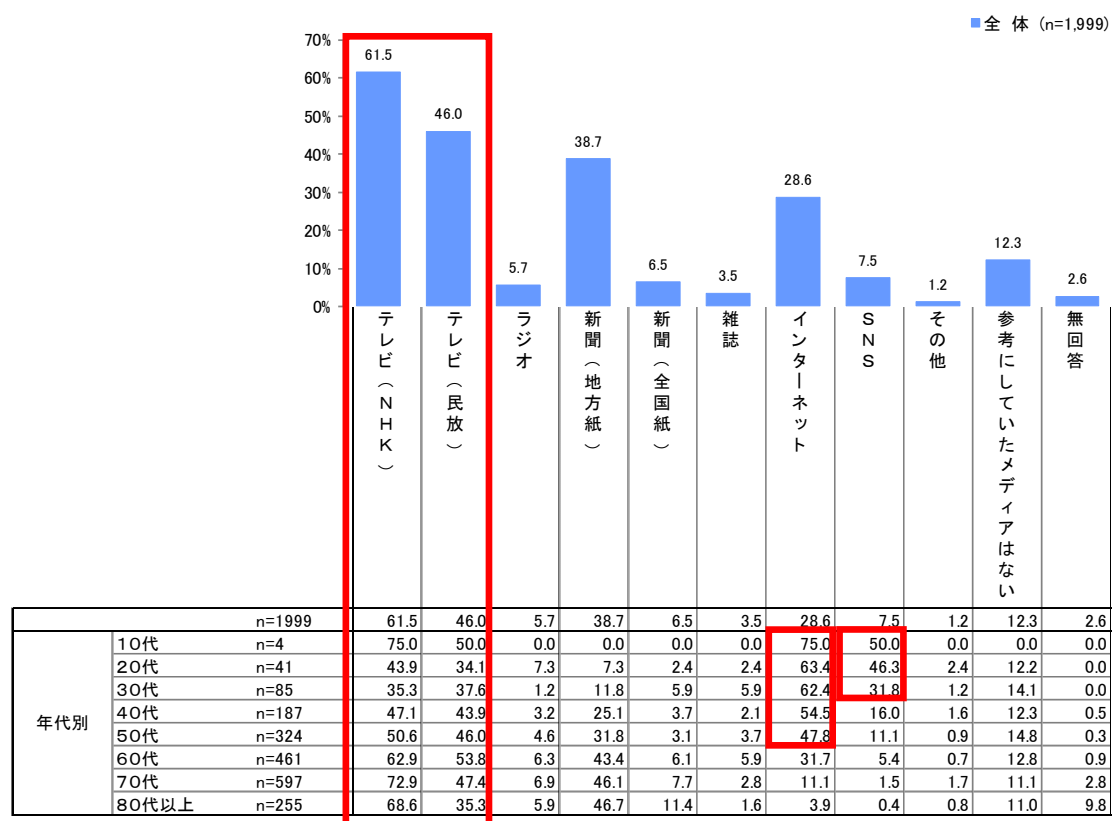
【図表 5-3 地震対策を知るのに参考としていた人（問12）】



令和6年能登半島地震発生が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに参考としていた情報源としては、「テレビ」がトップであった（問13）。また、地震対策を知るのに参考としていた人は「テレビなどのコメンテーター」がトップ（問12）であることから、周知広報の有力な手段としてはテレビが挙げられる。他方、年代が若いほど「インターネット」、また30代以下は「SNS」を情報源としている割合が相対的に高いことにも留意する必要がある。

全国地震動予測地図を中心とした地震調査研究の成果が国民に広く認識され、利用されることに向けては、年代による利用メディアの違いを意識し複数手段を用いて、国や自治体、専門家の連携の下地震調査研究の成果を丁寧に説明し、周知広報していく必要がある。

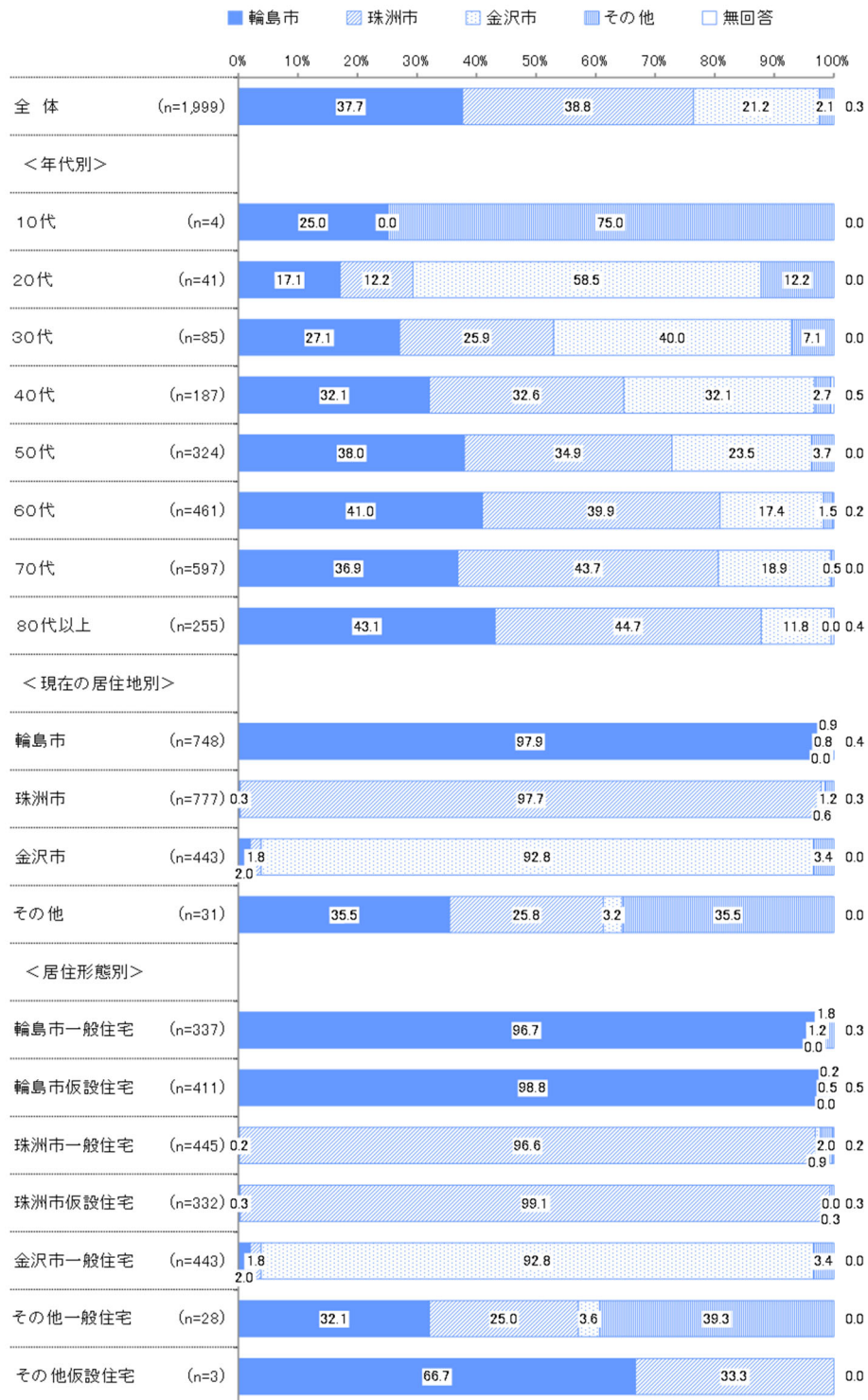
【図表 5-4 地震や地震対策のことを知るのに参考としていた情報源（問 13）】



III. 調査結果

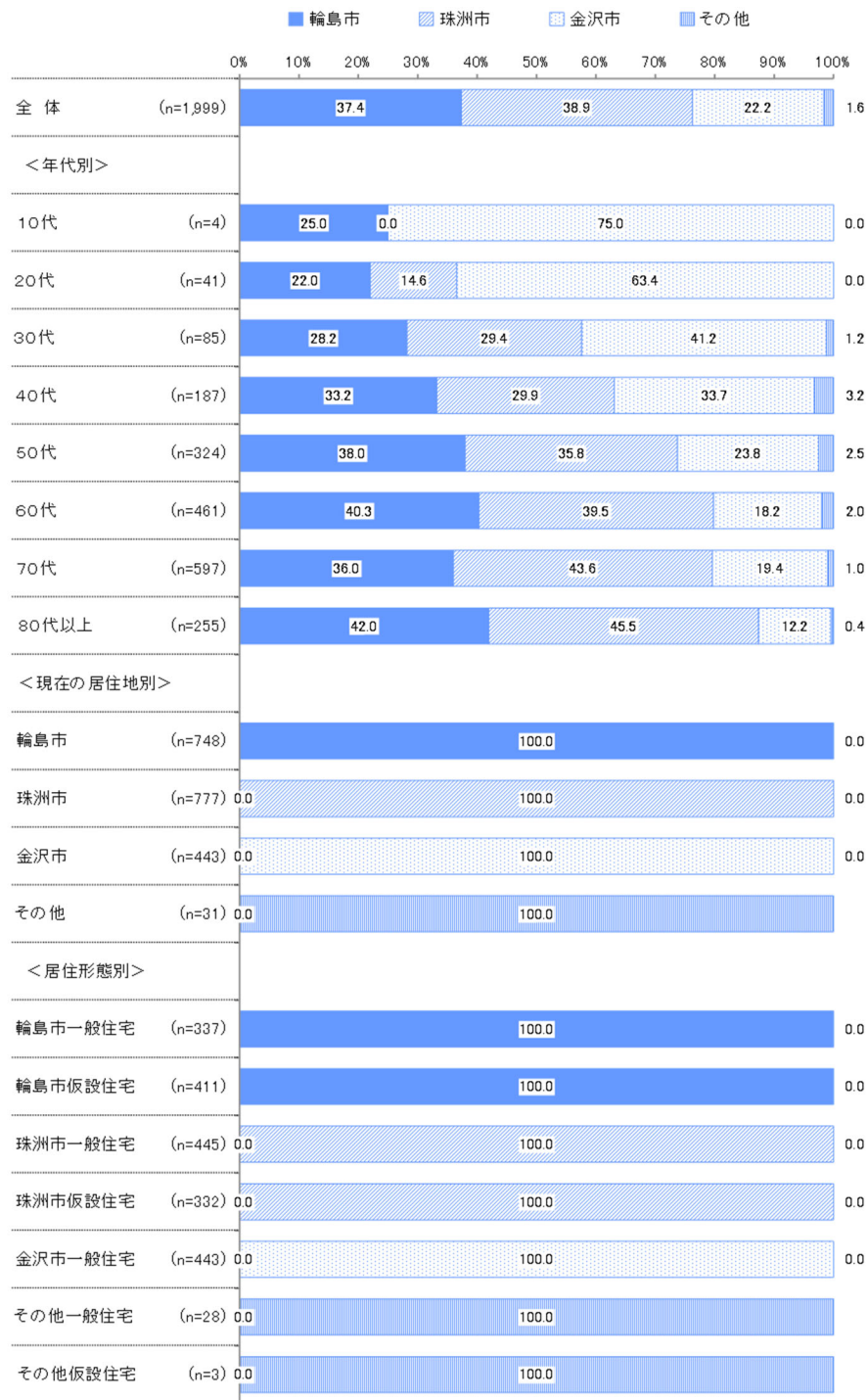
A. 2024年1月1日の能登半島地震についてお聞きします。

問1. あなたの地震発生当時のお住まいはどちらですか



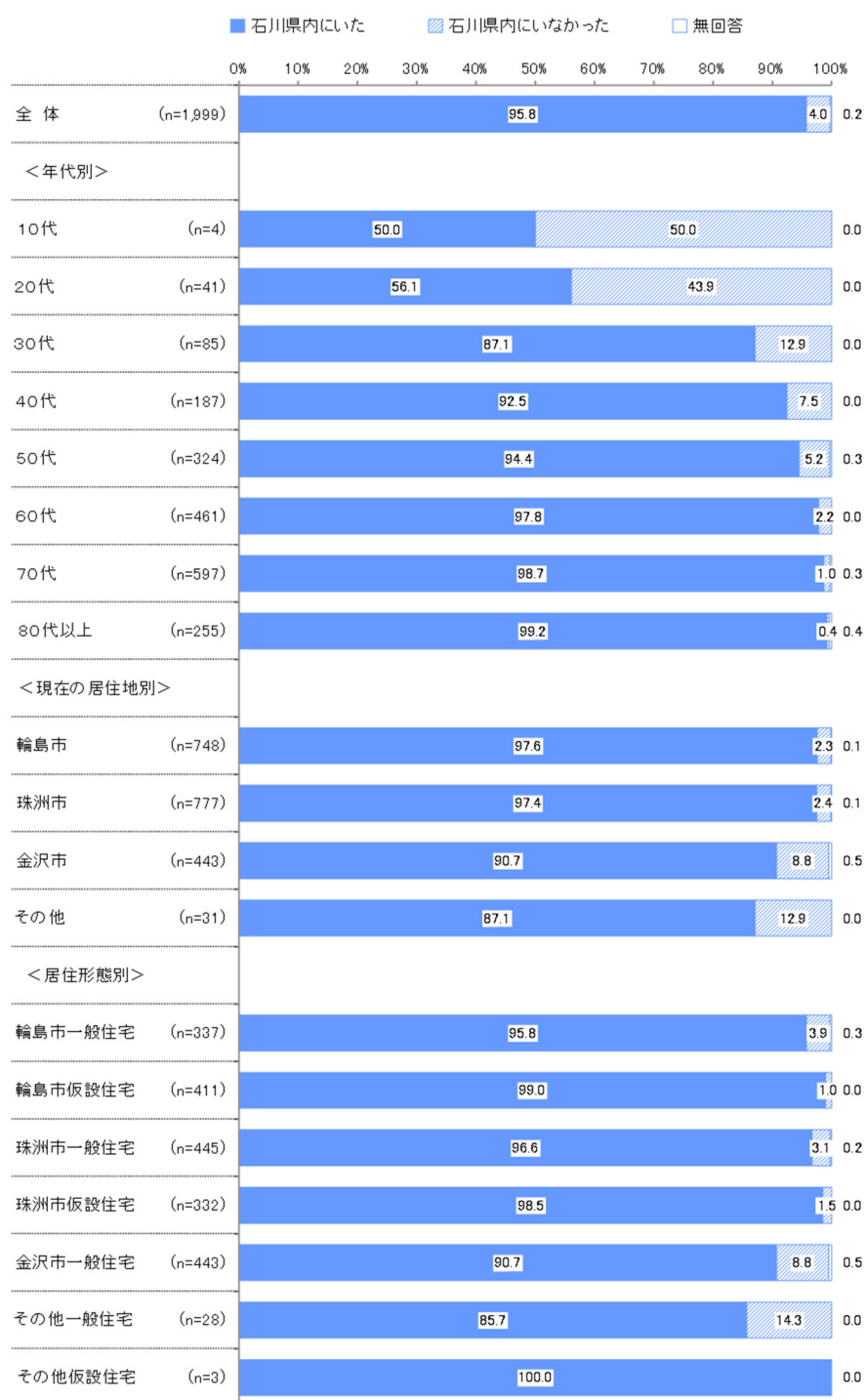
全体では、「輪島市」が37.7%、「珠洲市」が38.8%、「金沢市」が21.2%となっている。

問2. あなたは、現在、どちらで生活されていますか



全体では、「輪島市」が37.4%、「珠洲市」が38.9%、「金沢市」が22.2%となっている。

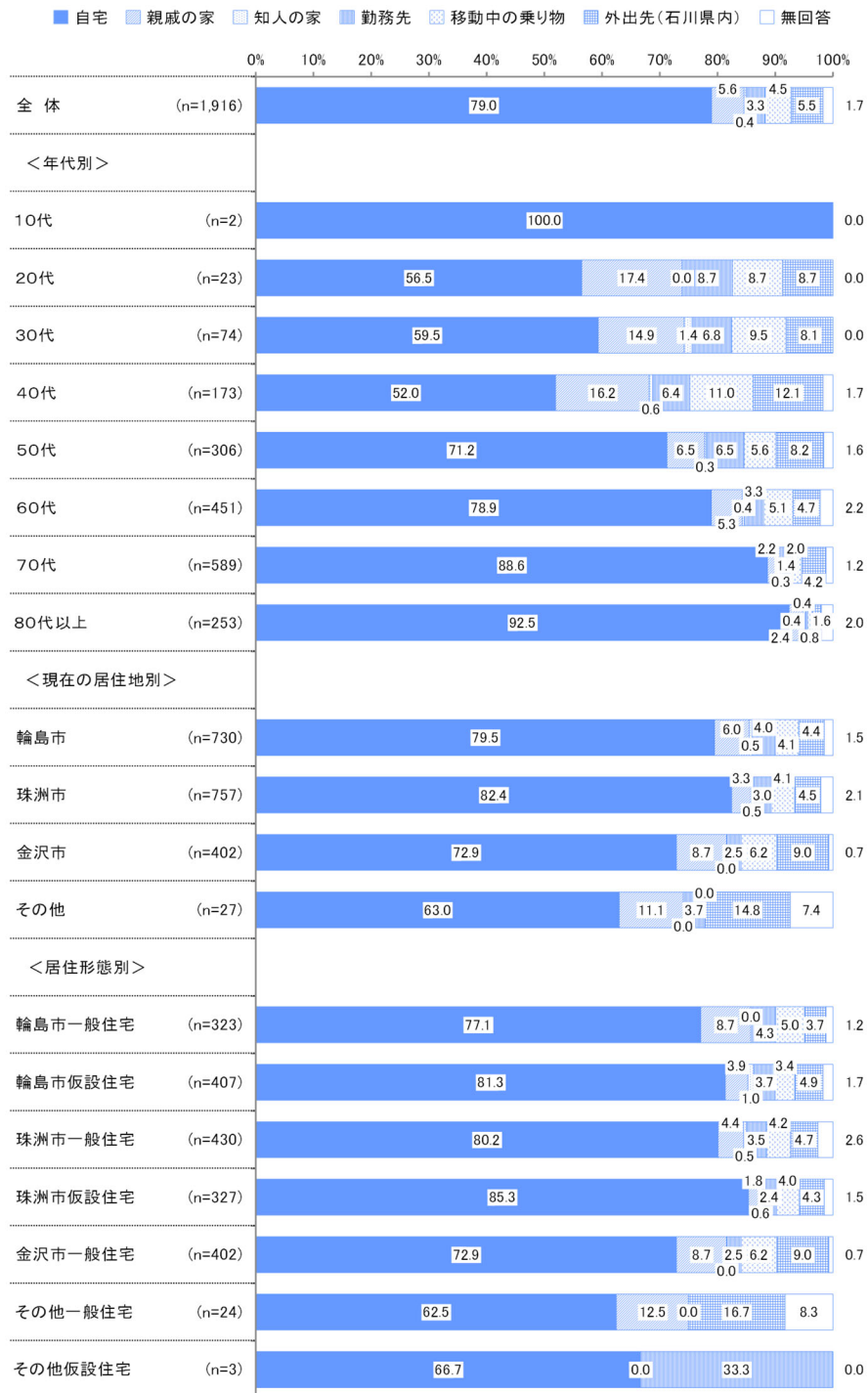
問3. 2024年1月1日の地震発生時、あなたはどこにいましたか



全体では、「石川県内にいた」が95.8%、「石川県内にいなかった」が4.0%となっている。

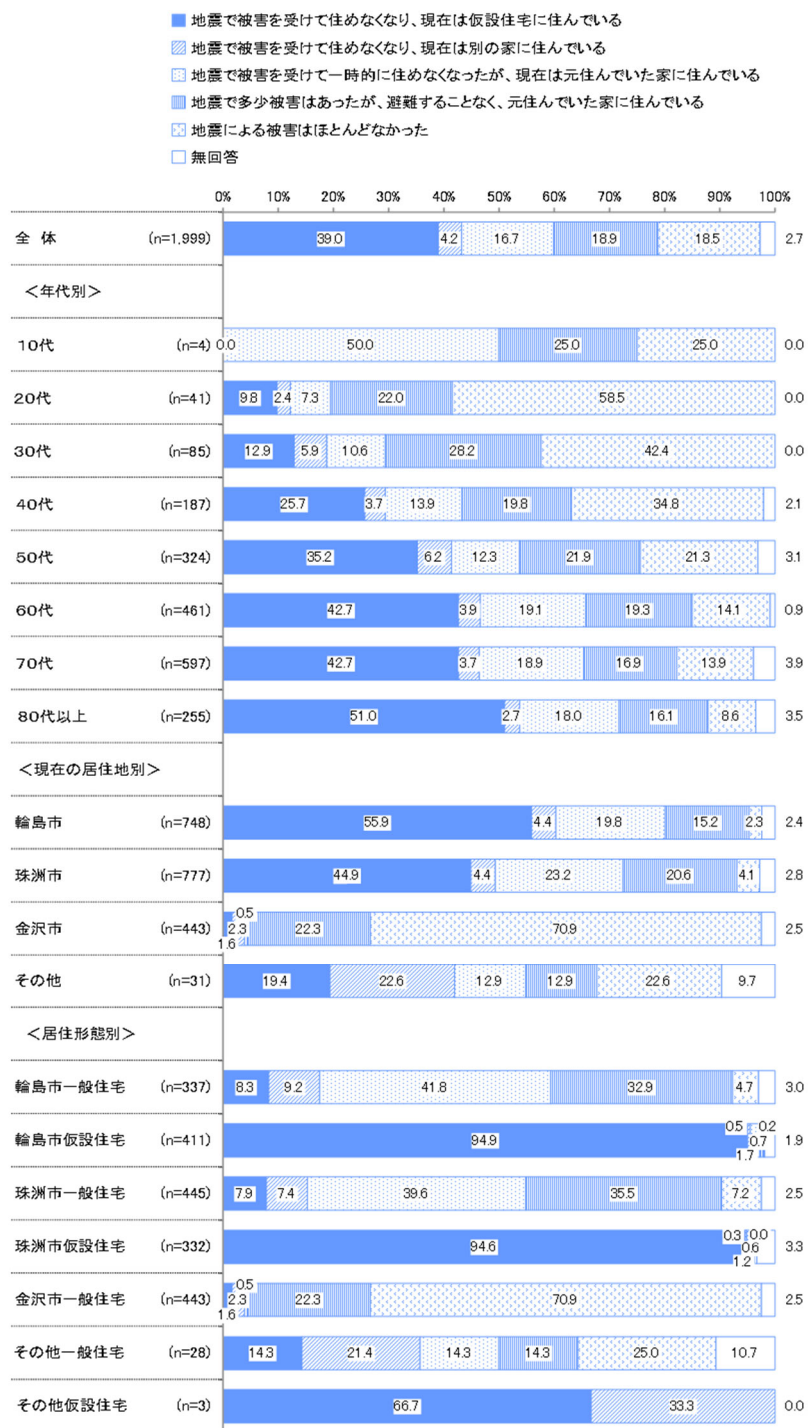
【問3で「1. 石川県内にいた」と回答した方へのご質問です】

附問3-1 石川県内のどこにいましたか。



全体では、「自宅」が 79.0%で最も高く、次いで「親戚の家」が 5.6%、「外出先(石川県内)」が 5.5%となっている。

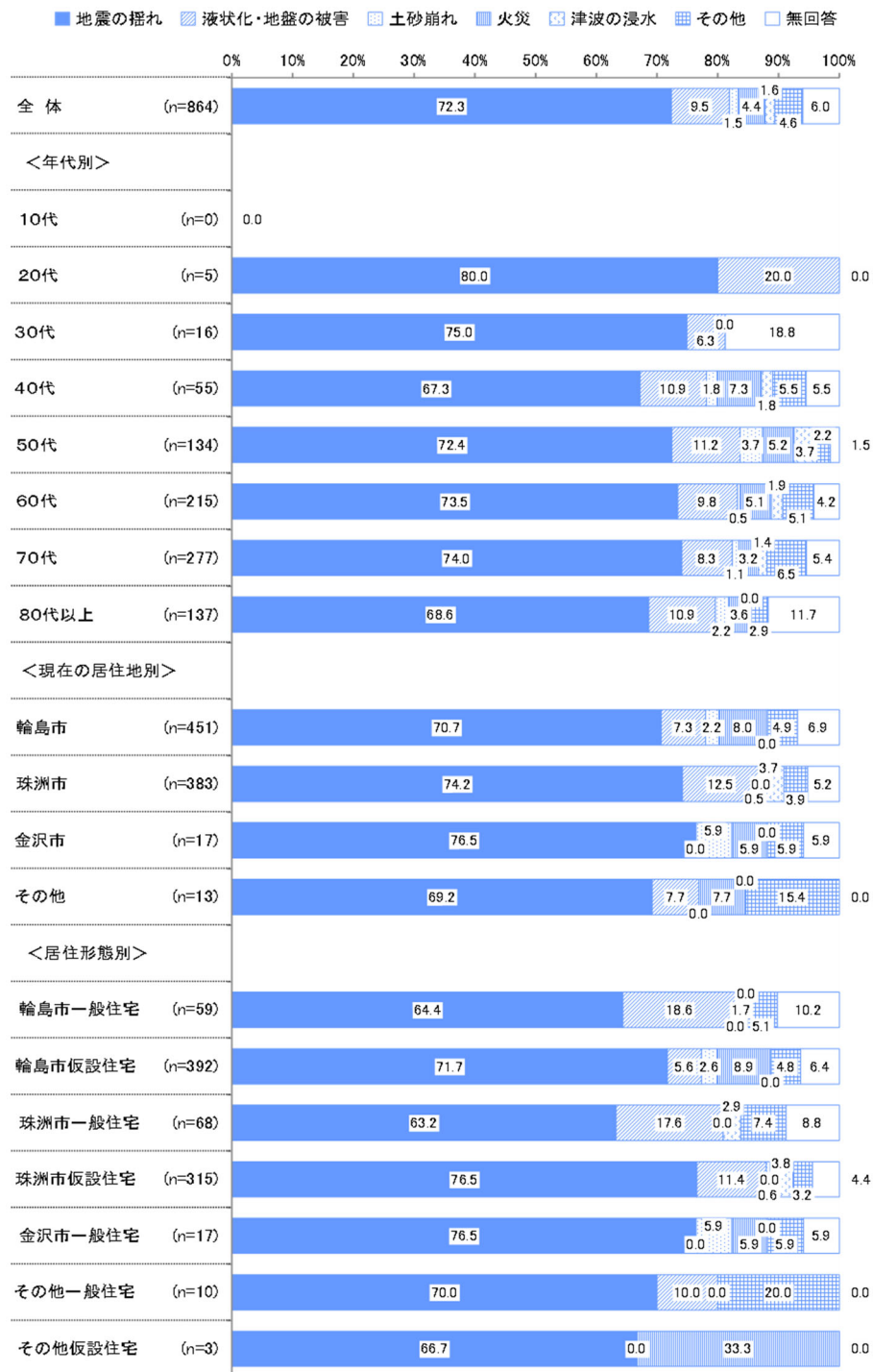
問4. あなたのお住まいは、2024年1月1日の地震で被害がありましたか



全体では、「地震で被害を受けて住めなくなり、現在は仮設住宅に住んでいる」が 39.0%で最も高く、次いで「地震で多少被害はあったが、避難することなく、元住んでいた家に住んでいる」が 18.9%、「地震による被害はほとんどなかった」が 18.5%となっている。

【問４で「１．地震で被害を受けて住めなくなり、現在は仮設住宅に住んでいる」「２．地震で被害を受けて住めなくなり、現在は別の家に住んでいる」と回答した方へのご質問です】

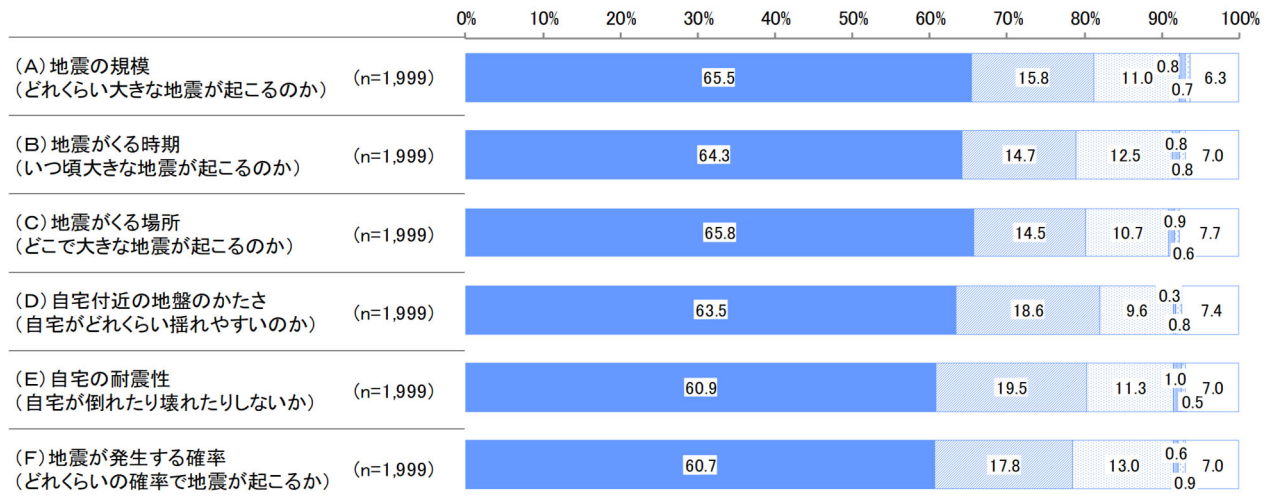
附問４－１ 被害で住めなくなった原因は主に何によるものですか。（１つだけ○）



全体では、「地震の揺れ」が72.3%で最も高く、次いで「液状化・地盤の被害」が9.5%、「火災」が4.4%となっている。

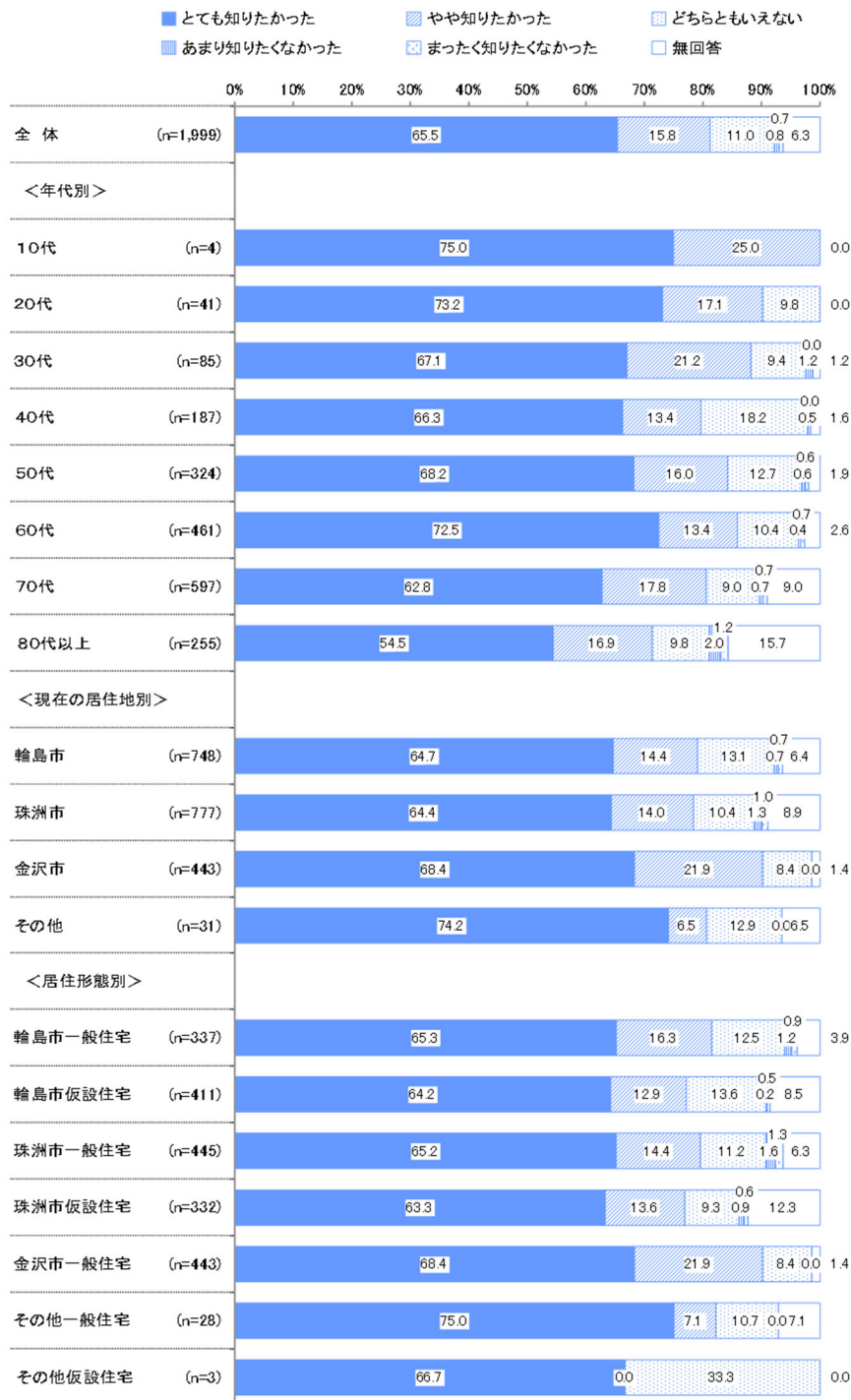
問5. 2024年1月1日のような大きな地震に備え、事前に以下のような情報を、どの程度知りたかったですか

■ とても知りたかった ■ やや知りたかった ■ どちらともいえない ■ あまり知りたくなかった ■ まったく知りたくなかった ■ 無回答



「とても知りたかった」と「やや知りたかった」を合わせた『知りたかった(計)』は、いずれの項目でも 8 割前後となっている。

【（A）地震の規模（どれくらい大きな地震が起こるのか）】

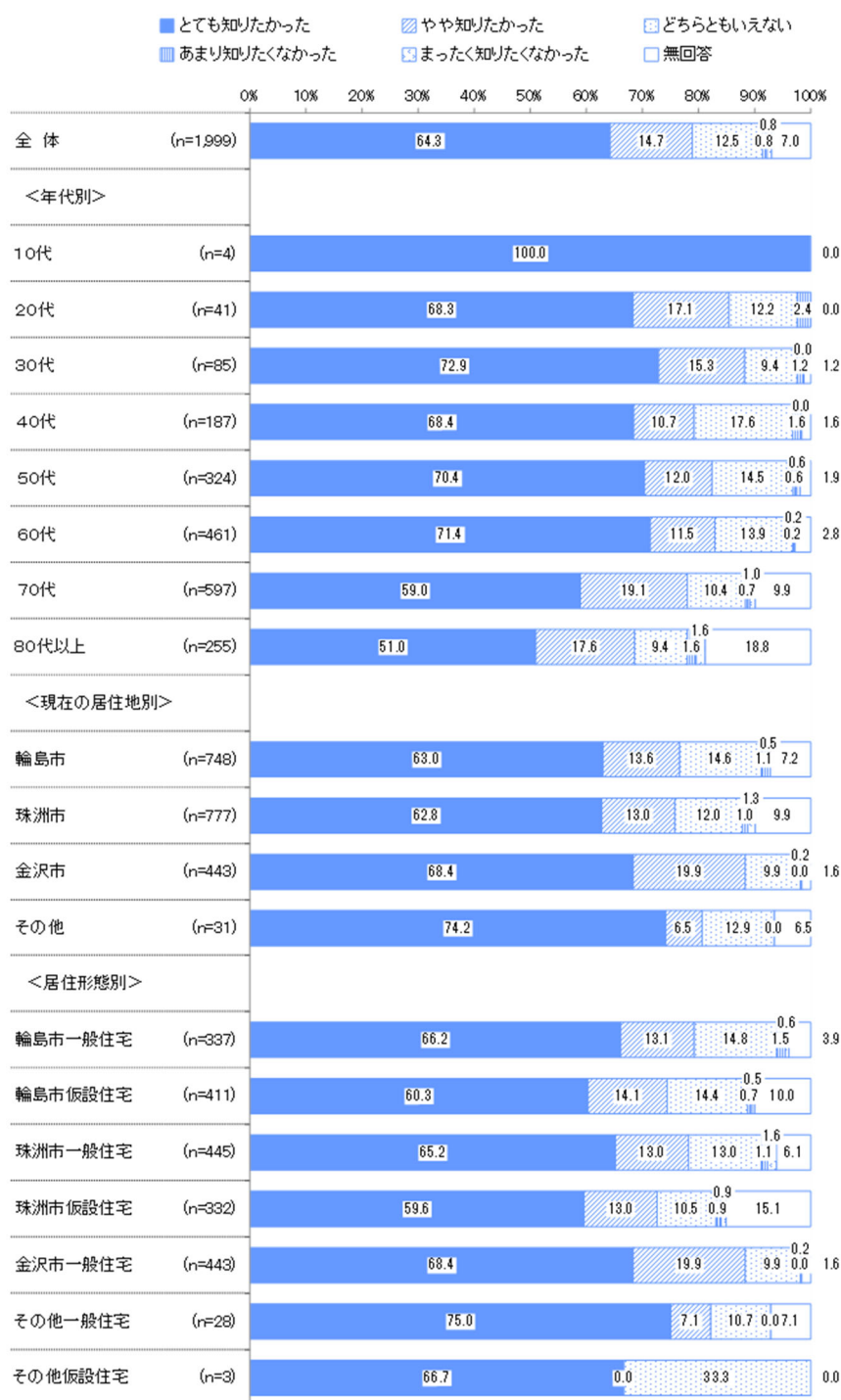


全体では、『知りたかった(計)』は 81.3%となっている。

<年代別>でみると、『知りたかった(計)』は[20代]、[30代]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『知りたかった(計)』は[金沢市]で高い。

【（Ｂ）地震がくる時期（いつ頃大きな地震が起こるのか）】

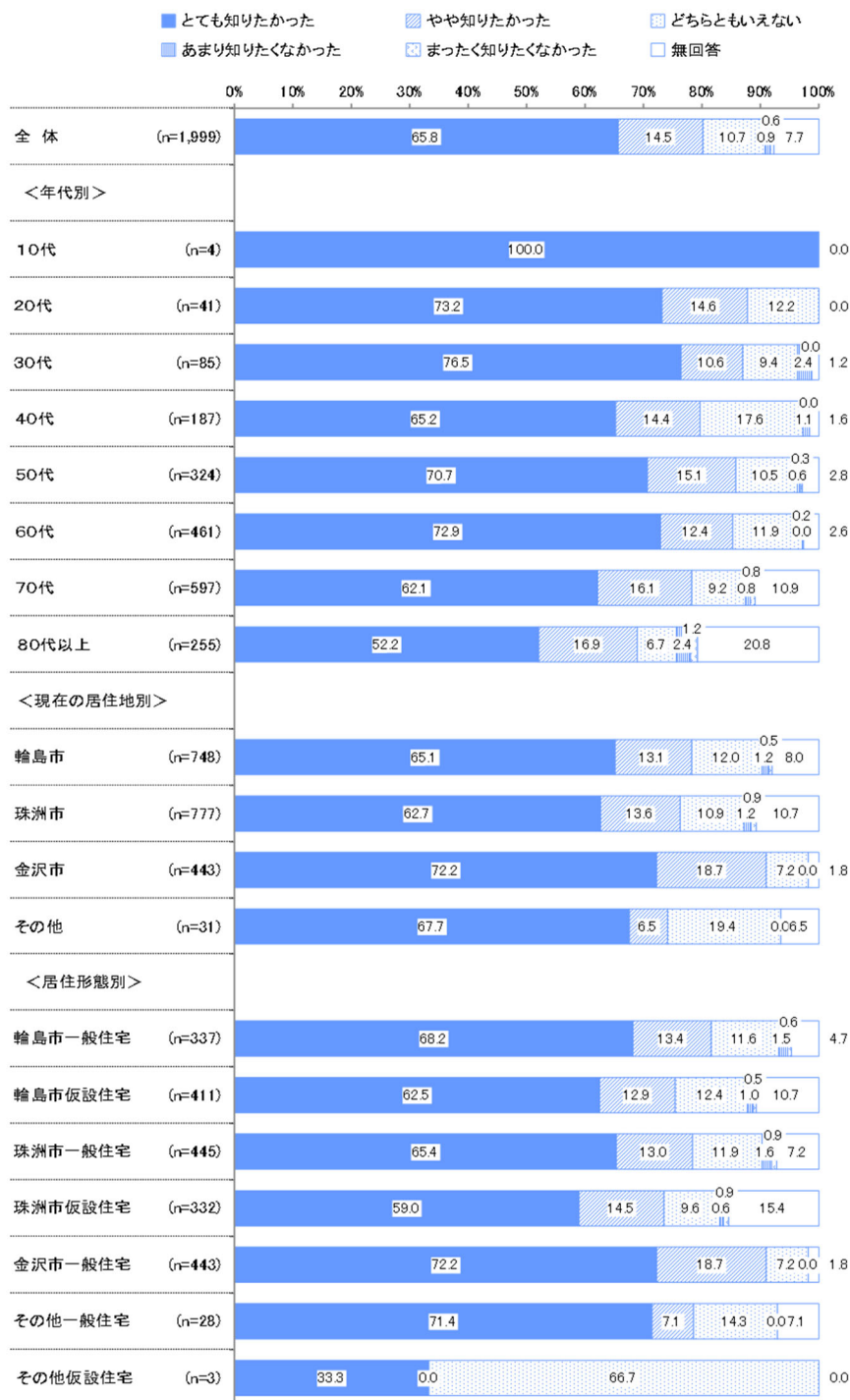


全体では、『知りたかった(計)』は 79.0%となっている。

<年代別>でみると、『知りたかった(計)』は[20代]、[30代]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『知りたかった(計)』は[金沢市]で高い。

【(C) 地震がくる場所（どこで大きな地震が起こるのか）】

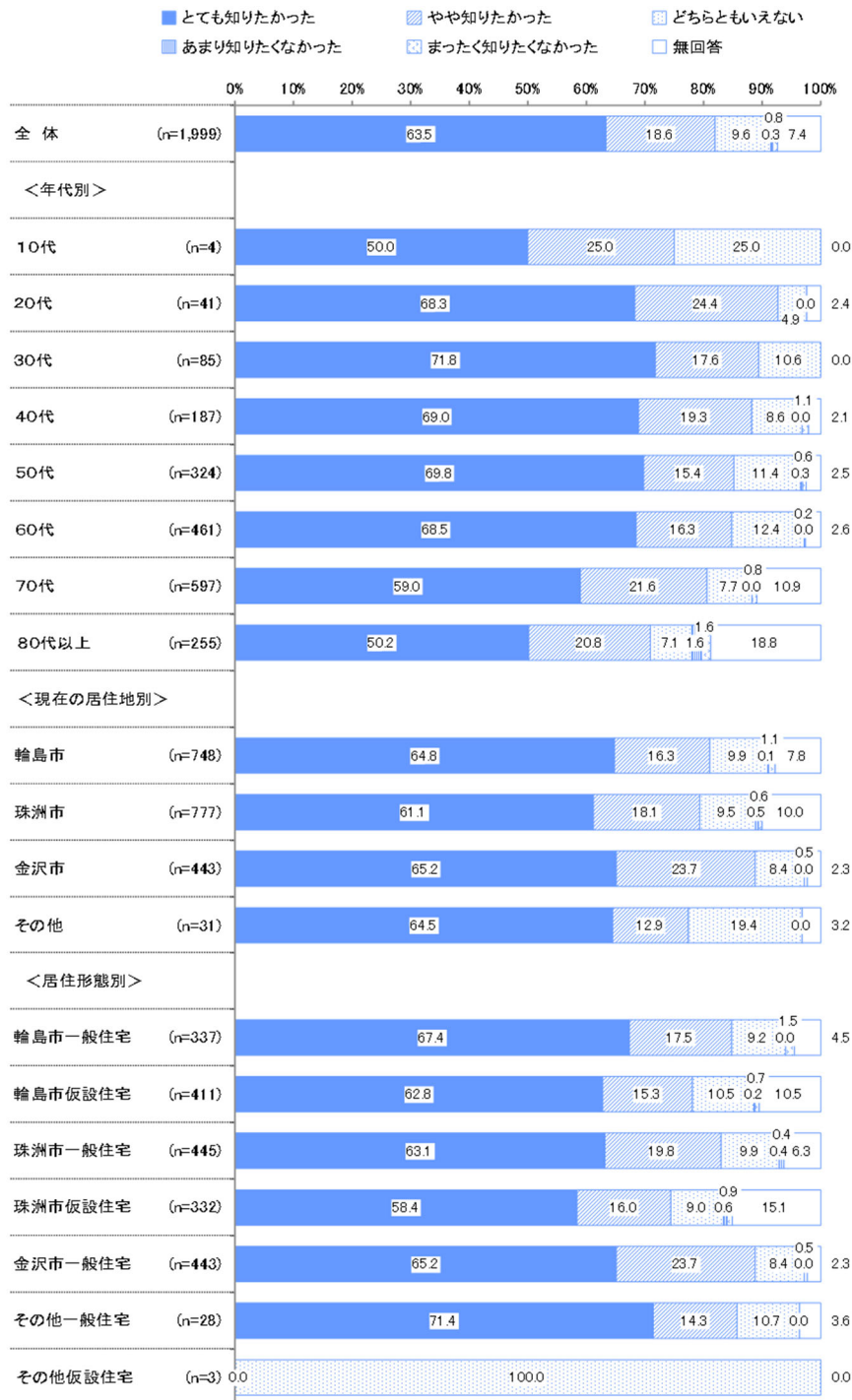


全体では、『知りたかった(計)』は 80.3%となっている。

<年代別>でみると、『知りたかった(計)』は[20代]、[30代]、[50代]、[60代]で高い。

<現在の居住地別>でみると『知りたかった(計)』は[金沢市]で高い。

【(D) 自宅付近の地盤のかたさ（自宅がどれくらい揺れやすいのか）】

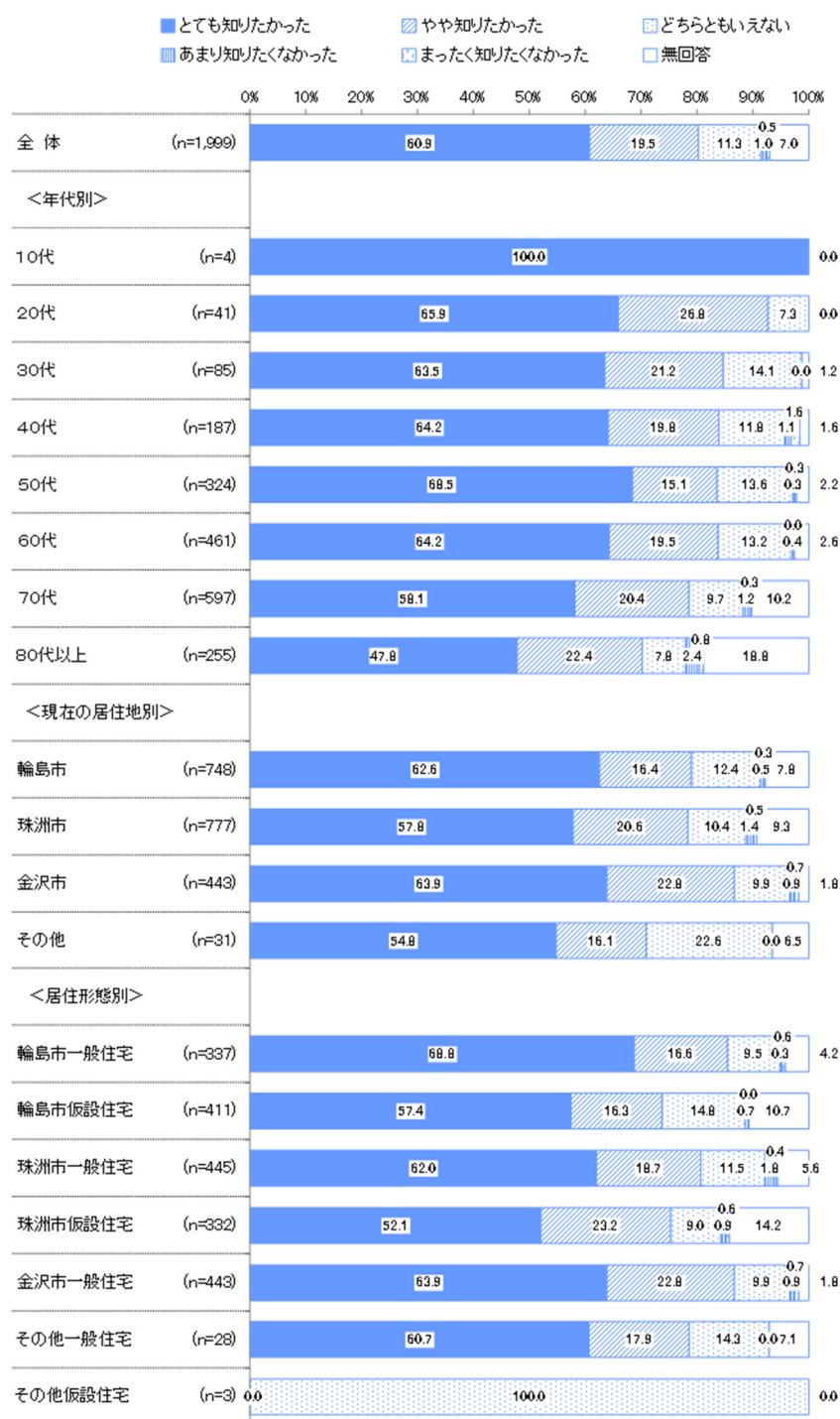


全体では、『知りたかった(計)』は82.1%となっている。

<年代別>でみると『知りたかった(計)』は[20代]、[30代]、[40代]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『知りたかった(計)』は[金沢市]で高い。

【（E）自宅の耐震性（自宅が倒れたり壊れたりしないか）】

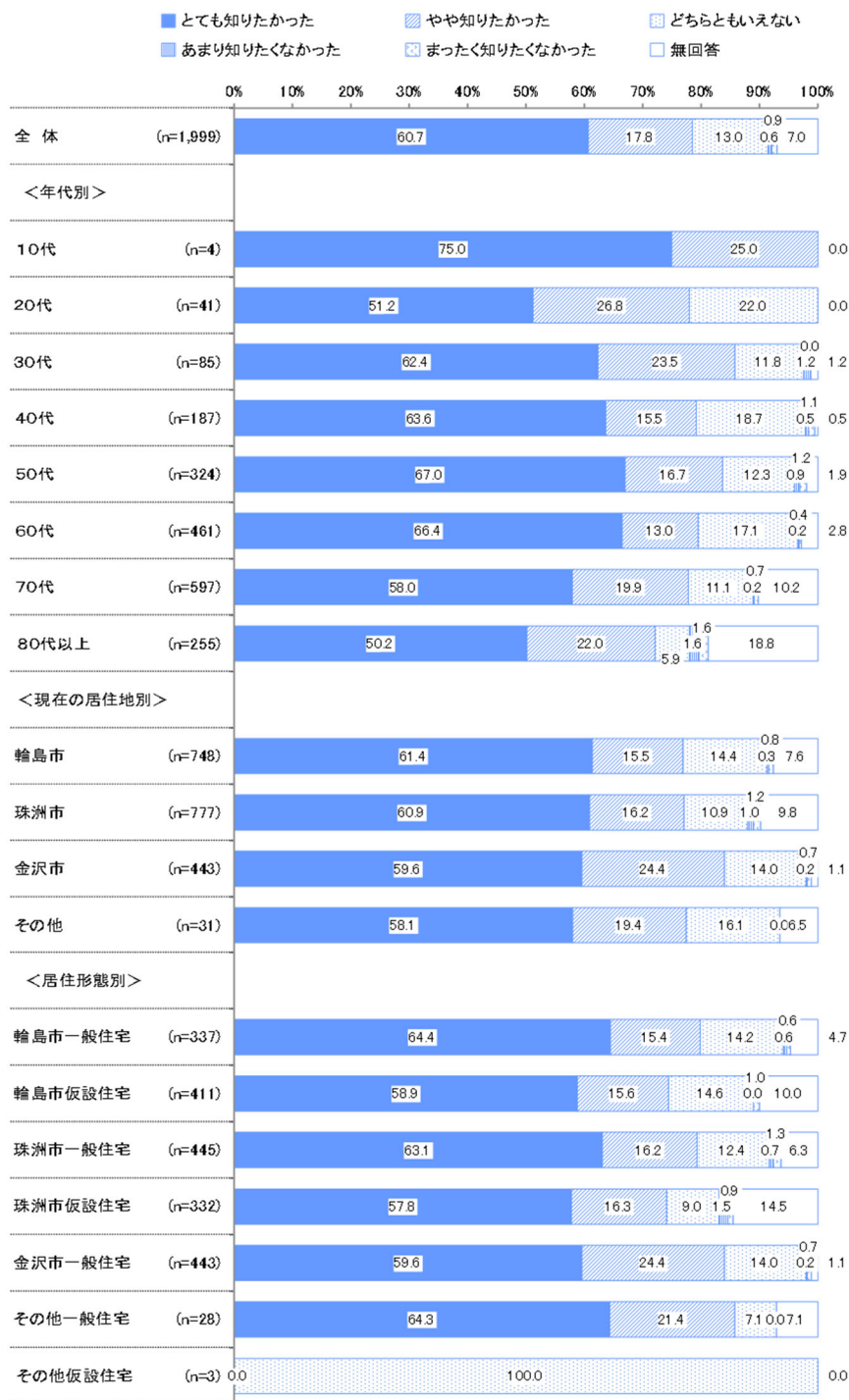


全体では、『知リたかった(計)』は 80.4%となっている。

<年代別>でみると、『知リたかった(計)』は[20代]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『知リたかった(計)』は[金沢市]で高い。

【(F) 地震が発生する確率（どれくらいの確率で地震が起こるか）】

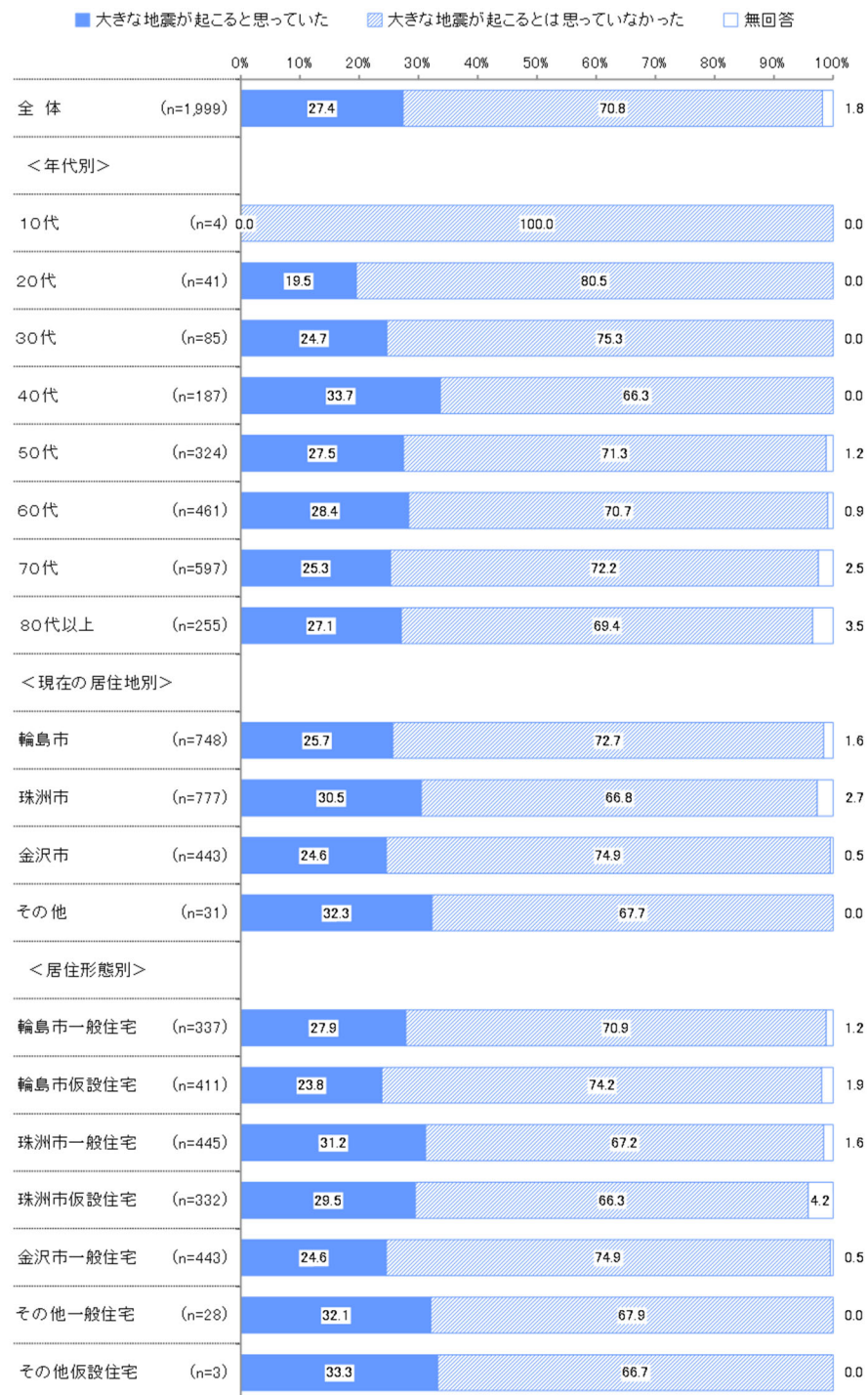


全体では、『知りたかった(計)』は 78.5%となっている。

<年代別>でみると、『知りたかった(計)』は[30代]、[50代]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『知りたかった(計)』は[金沢市]で高い。

問6. あなたは、お住まいの地域で2024年1月1日の能登半島地震のような被害をおよぼす大きな地震が起こると思っていたか

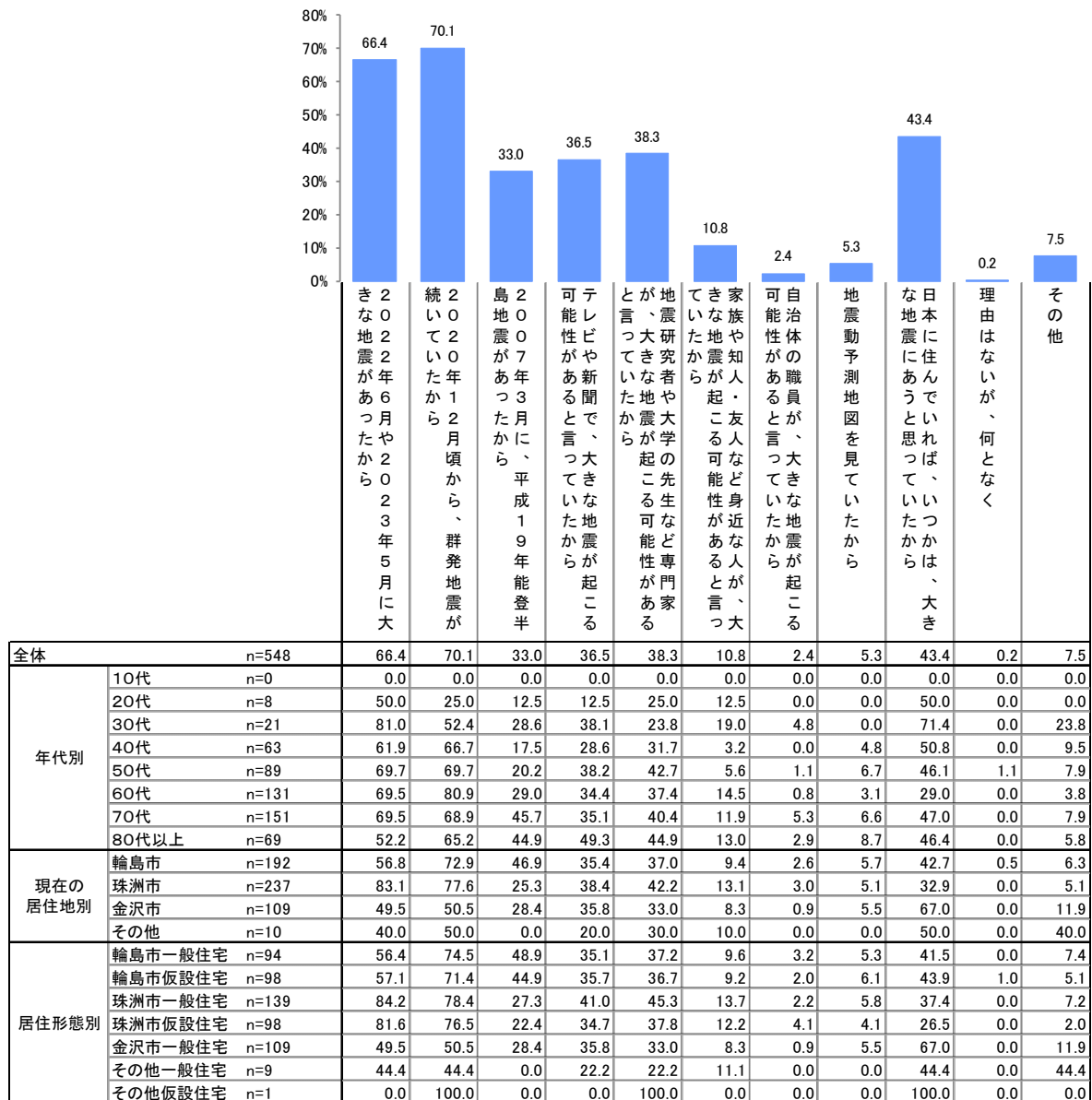


全体では、「大きな地震が起こると思っていた」が27.4%、「大きな地震が起こるとは思っていなかった」が70.8%となっている。

<年代別>でみると、「大きな地震が起こると思っていた」は[40代]で高い。

【問6で「1. 大きな地震が起こると思っていた」と回答した方へのご質問です】

附問6-1. 「大きな地震が起こると思っていた」理由をお聞かせください



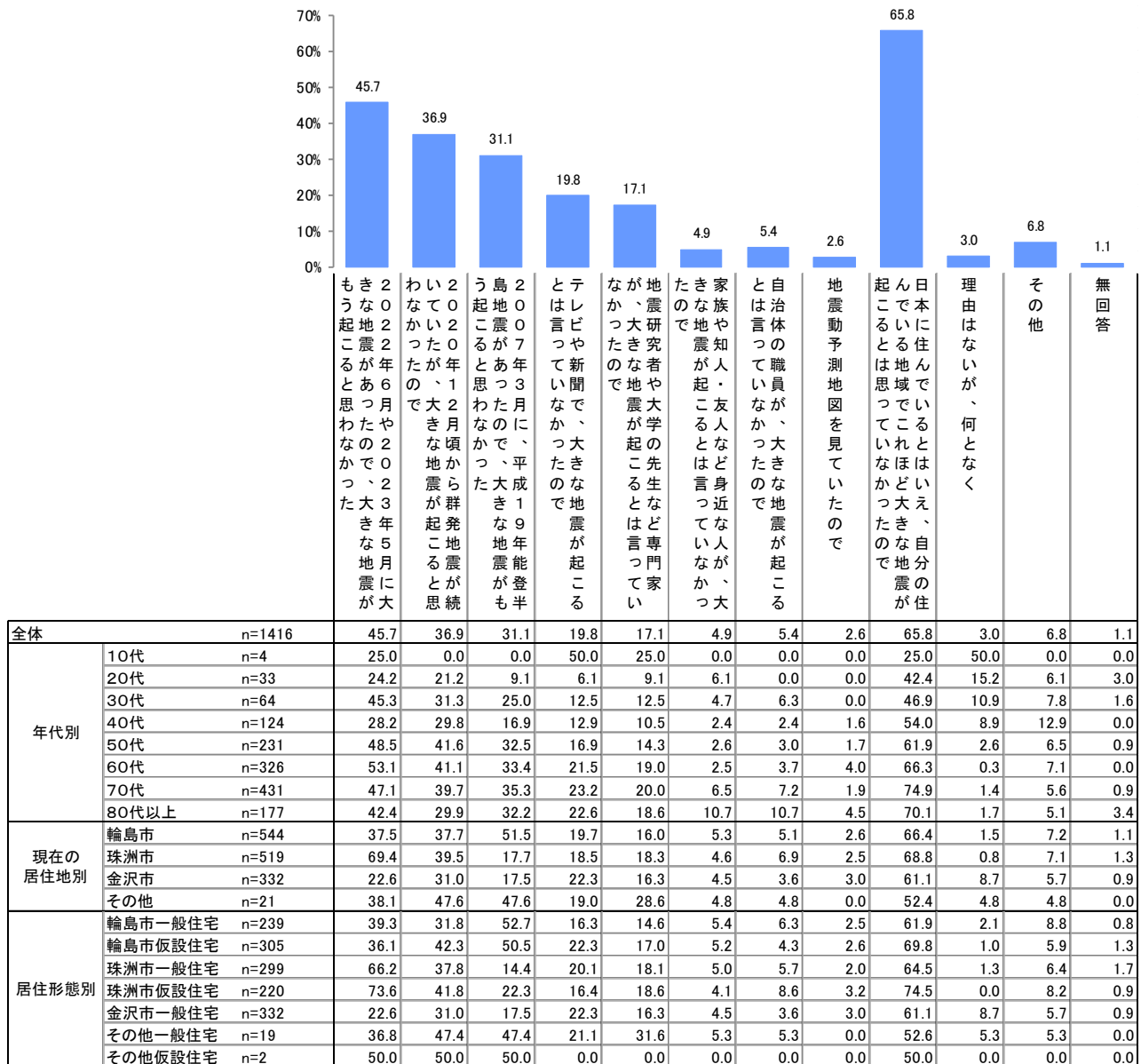
全体では、「2020年12月頃から、群発地震が続いていたから」が70.1%で最も高く、次いで「2022年6月や2023年5月に大きな地震があったから」が66.4%、「日本に住んでいれば、いつかは、大きな地震にあうと思っていたから」が43.4%となっている。

＜年代別＞でみると、「2020年12月頃から、群発地震が続いていたから」は[60代]で高く、「日本に住んでいれば、いつかは、大きな地震にあうと思っていたから」は[30代]で高い。

＜現在の居住地別＞でみると、「2020年12月頃から、群発地震が続いていたから」、「2022年6月や2023年5月に大きな地震があったから」は[珠洲市]で高く、「日本に住んでいれば、いつかは、大きな地震にあうと思っていたから」は[金沢市]で高い。

【問6で「2. 大きな地震が起こるとは思っていなかった」と回答した方へのご質問です】

附問6-2. 「大きな地震が起こるとは思っていなかった」理由をお聞かせください

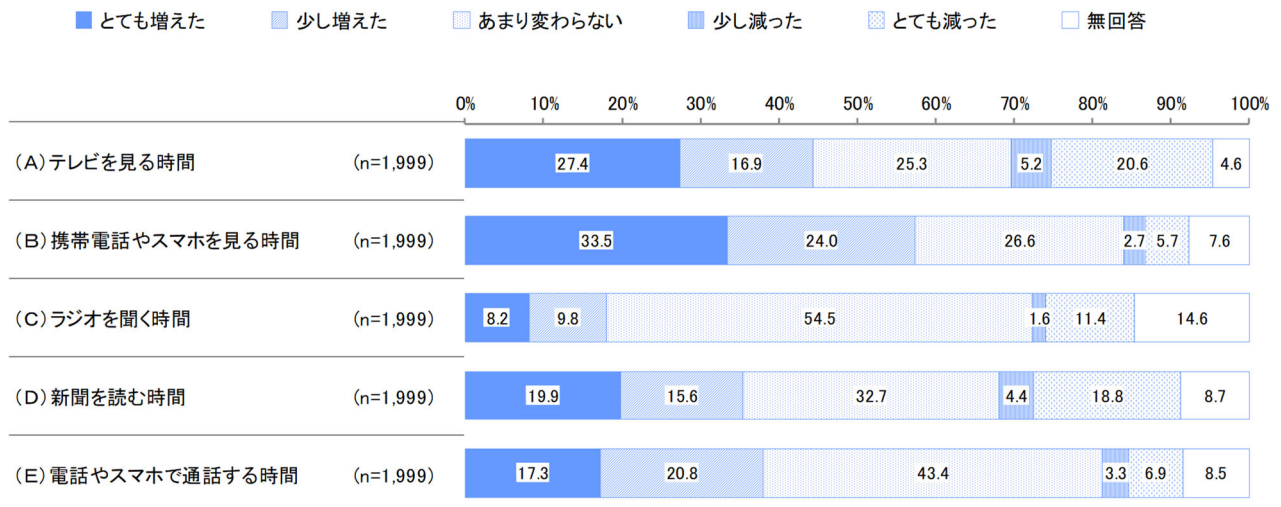


全体では、「日本に住んでいるとはいえ、自分の住んでいる地域でこれほど大きな地震が起こるとは思っていなかったのが」65.8%で最も高く、次いで「2022年6月や2023年5月に大きな地震があったので、大きな地震がもう起こると思わなかった」が45.7%、「2020年12月頃から群発地震が続いていたが、大きな地震が起こると思わなかったのが」36.9%となっている。

＜年代別＞でみると、「日本に住んでいるとはいえ、自分の住んでいる地域でこれほど大きな地震が起こるとは思っていなかったのは」[70代]で高く、「2022年6月や2023年5月に大きな地震があったので、大きな地震がもう起こると思わなかった」は[60代]で高い。

＜現在の居住地別＞でみると、「2022年6月や2023年5月に大きな地震があったので、大きな地震がもう起こると思わなかった」は[珠洲市]で高い。

問7. 2024年1月1日の地震直後の1か月間、以下の時間は、地震発生前と比べて増えましたか。それとも減りましたか



「とても増えた」と「少し増えた」を合わせた『増えた(計)』でみると、【(B)携帯電話やスマホを見る時間】が57.5%で最も高く、次いで【(A)テレビを見る時間】が44.3%となっている。

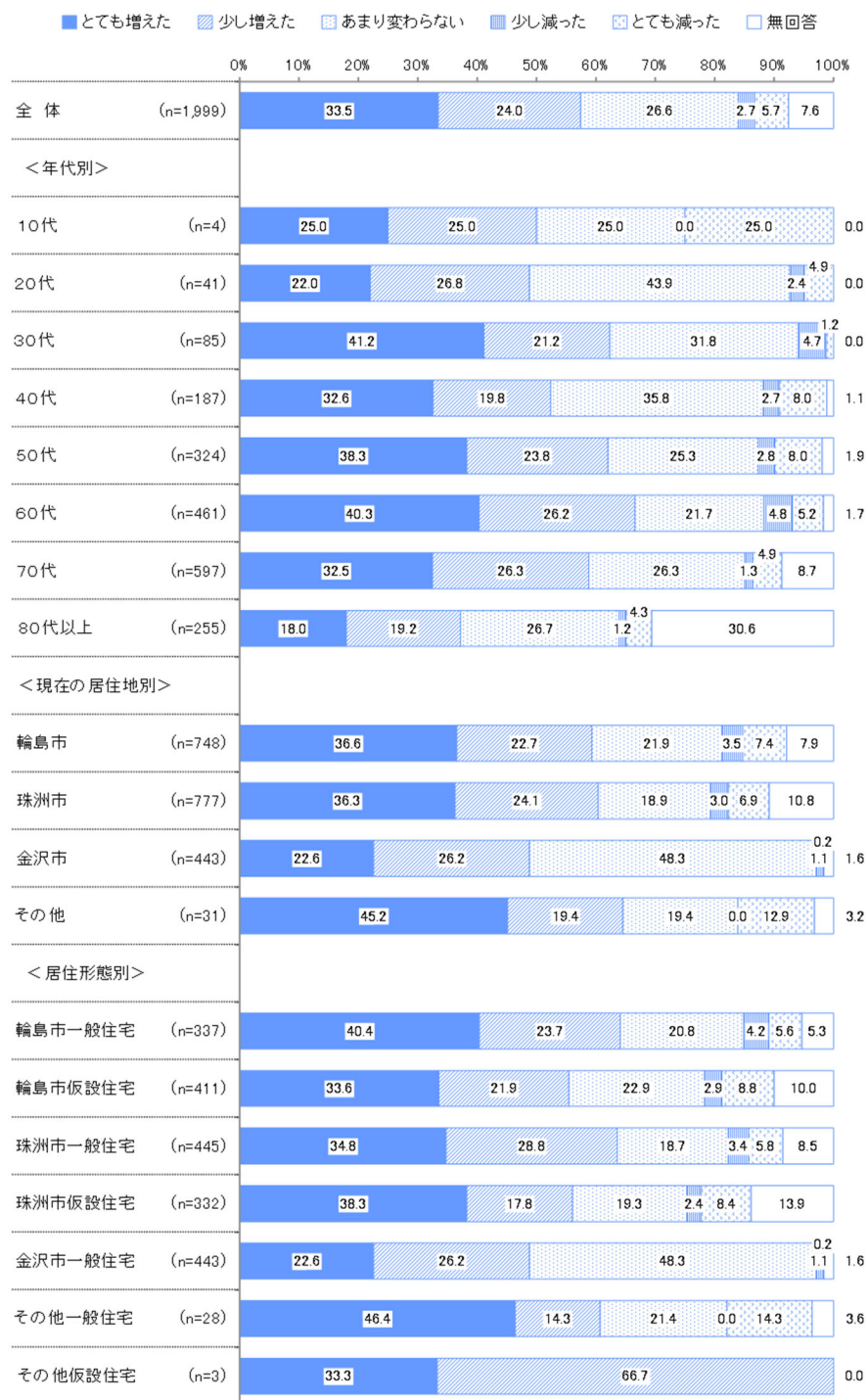
【(A) テレビを見る時間】



全体では、『増えた(計)』は 44.3% となっている。

<年代別>でみると、『増えた(計)』は[70代]、[80代以上]で高い。

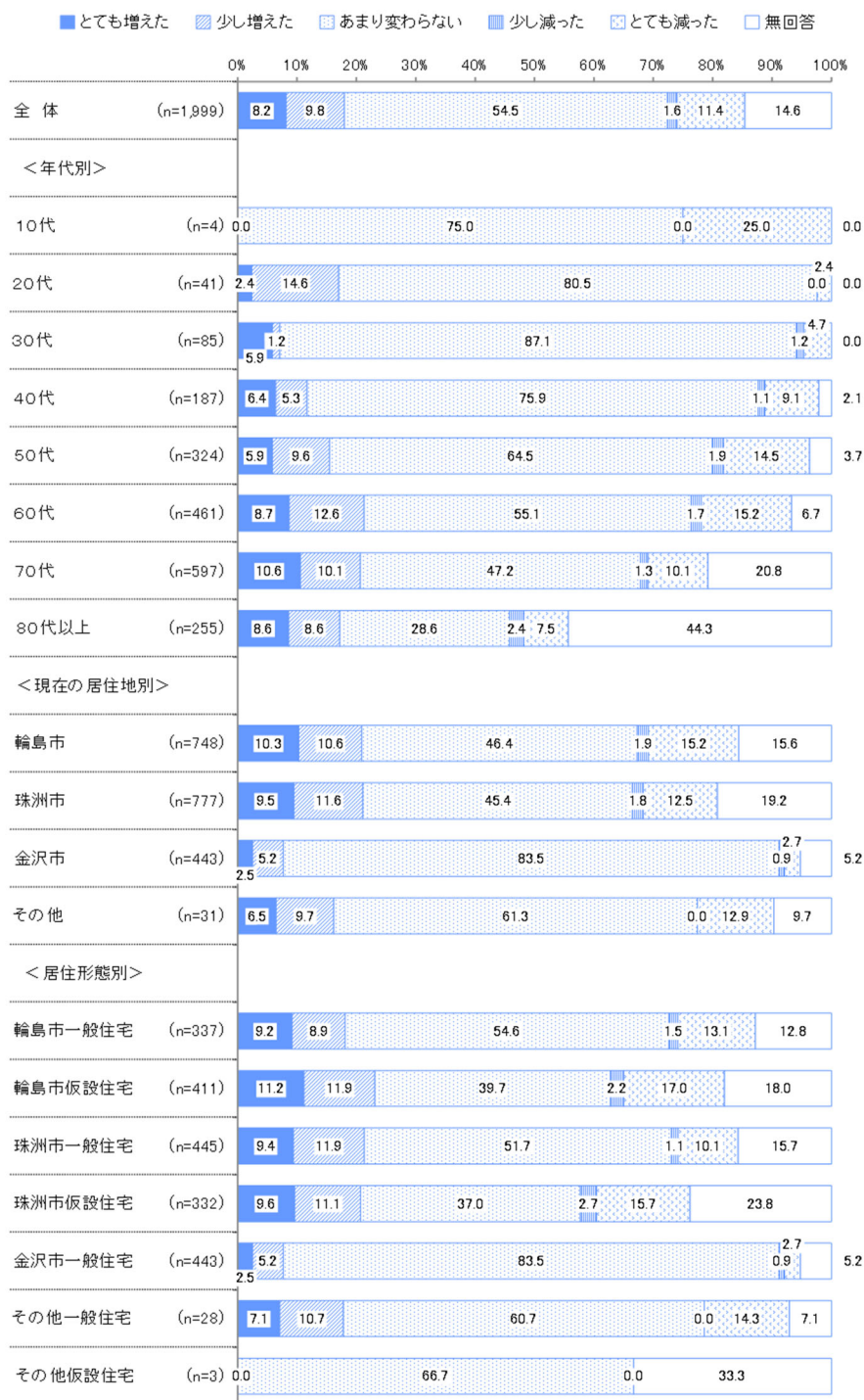
【（Ｂ）携帯電話やスマホを見る時間】



全体では、『増えた(計)』は 57.5%となっている。

<年代別>でみると、『増えた(計)』は[60代]で高い。

【(C) ラジオを聞く時間】



全体では、『増えた(計)』は18.0%となっている。

<年代別>でみると、『増えた(計)』は全体で同様の傾向がみられる。「あまり変わらない」は年代が下がるにつれて高くなる傾向が見られる。

【(D) 新聞を読む時間】

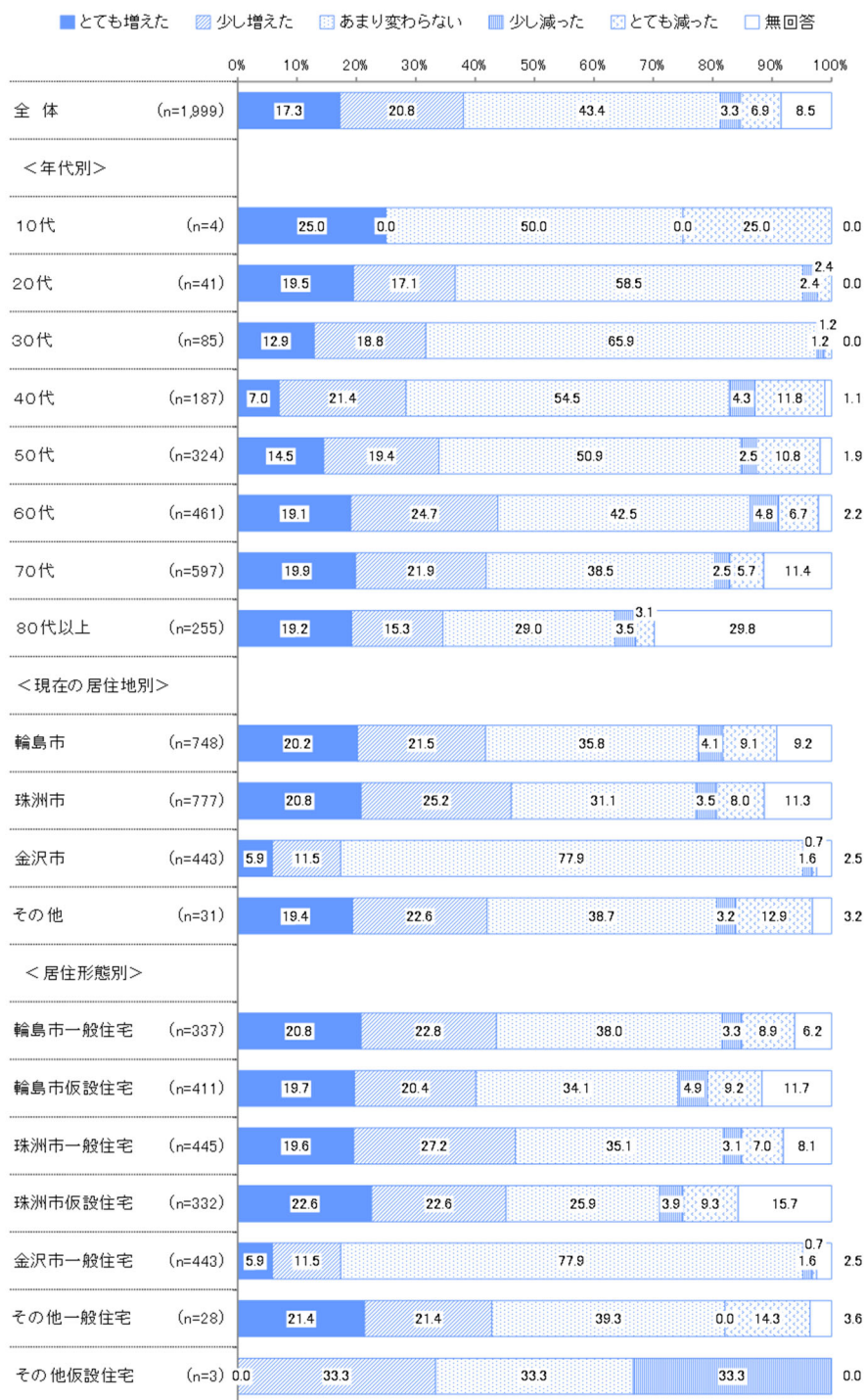


全体では、『増えた(計)』は 35.5%となっている。

<年代別>でみると、『増えた(計)』は[70代]、[80代以上]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『増えた(計)』は[珠洲市]で高い。

【(E) 電話やスマホで通話する時間】



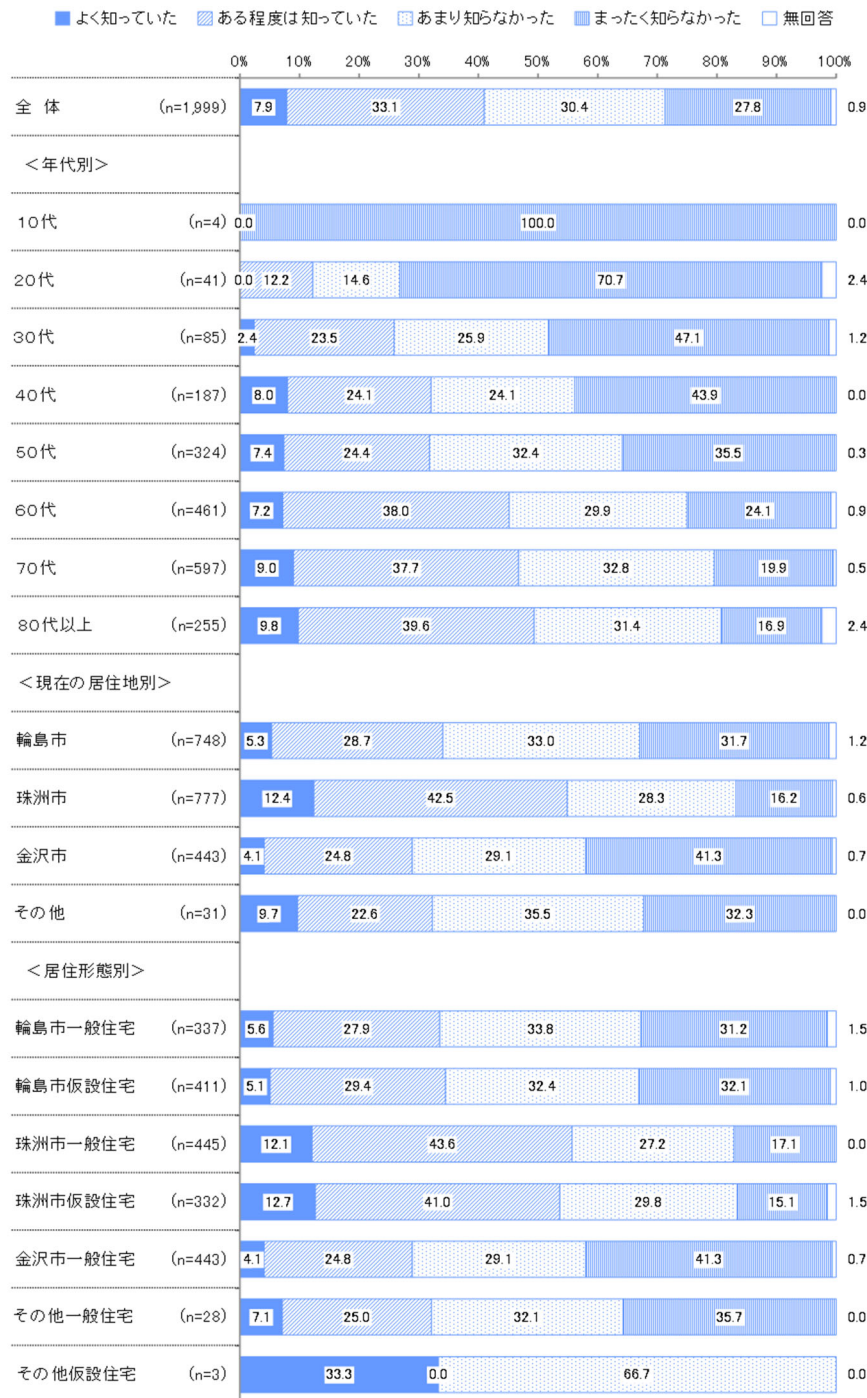
全体では、『増えた(計)』は 38.1%となっている。

<年代別>でみると、『増えた(計)』は[60代]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『増えた(計)』は[珠洲市]で高い。

B. 耐震化や地震対策についてお伺いします。

問8. 2024年1月1日の地震が発生する前、地元にある大学の地震研究者が、能登半島における地震の注意を呼びかけていました。あなたは、このことをご存知でしたか

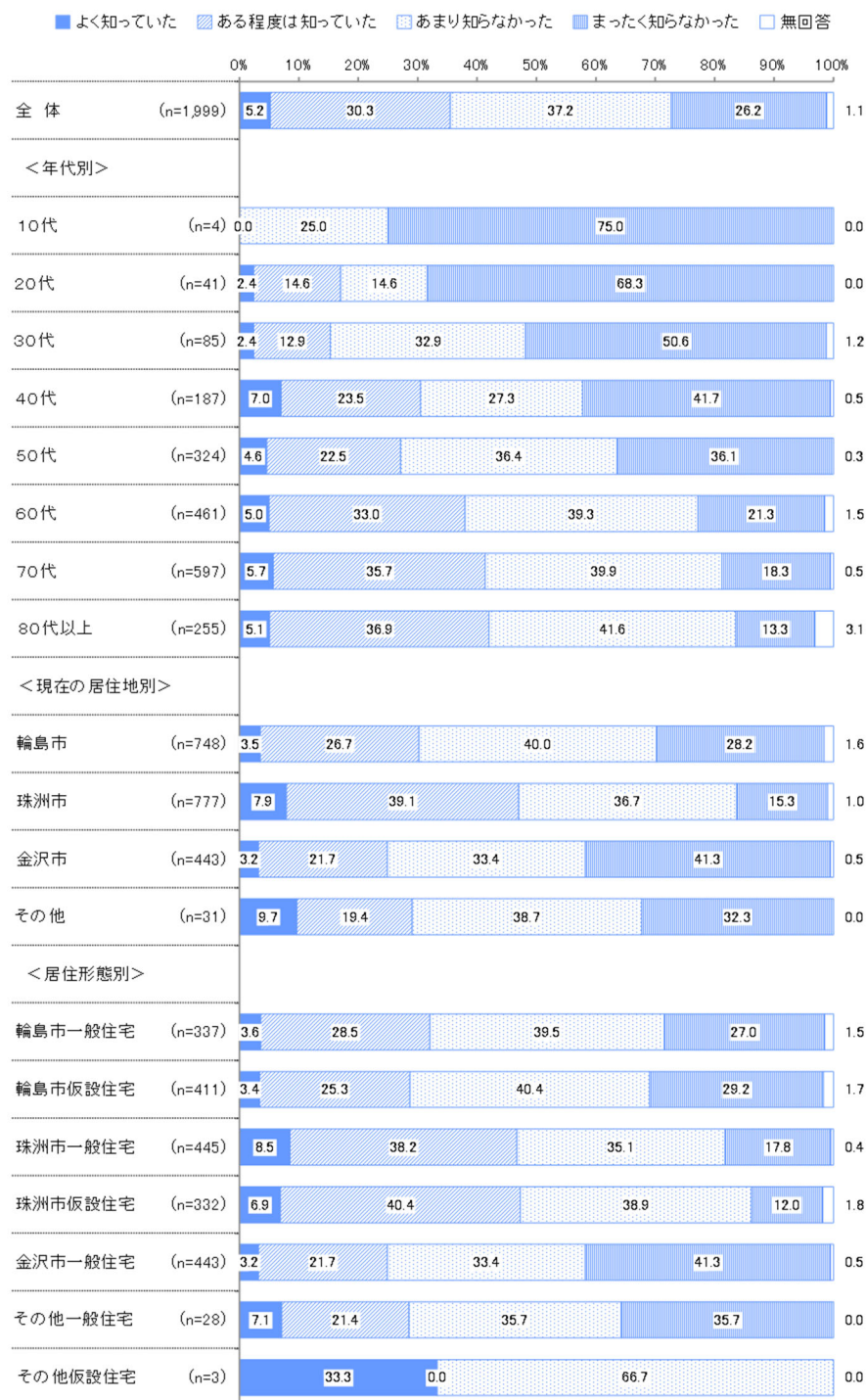


全体では、「よく知っていた」と「ある程度は知っていた」を合わせた『知っていた(計)』が 41.0%となっている。

<年代別>でみると、『知っていた(計)』は年代が上がるにつれて、高くなる傾向が見られる。

<現在の居住地別>でみると、『知っていた(計)』は[珠洲市]で高い。

問9. 2021年頃から2024年1月1日の能登半島地震前まで地震調査研究推進本部地震調査委員会は定例記者会見において地震の注意を呼びかけてきたことをどの程度ご存知でしたか



全体では、「よく知っていた」と「ある程度は知っていた」を合わせた『知っていた(計)』が 35.5%となっている。

<年代別>でみると、『知っていた(計)』は年代が上がるにつれて、高くなる傾向が見られる。

<現在の居住地別>でみると、『知っていた(計)』は[珠洲市]で高い。

問10. 2024年1月1日の地震発生時点で、あなたのご自宅は、耐震化していましたか



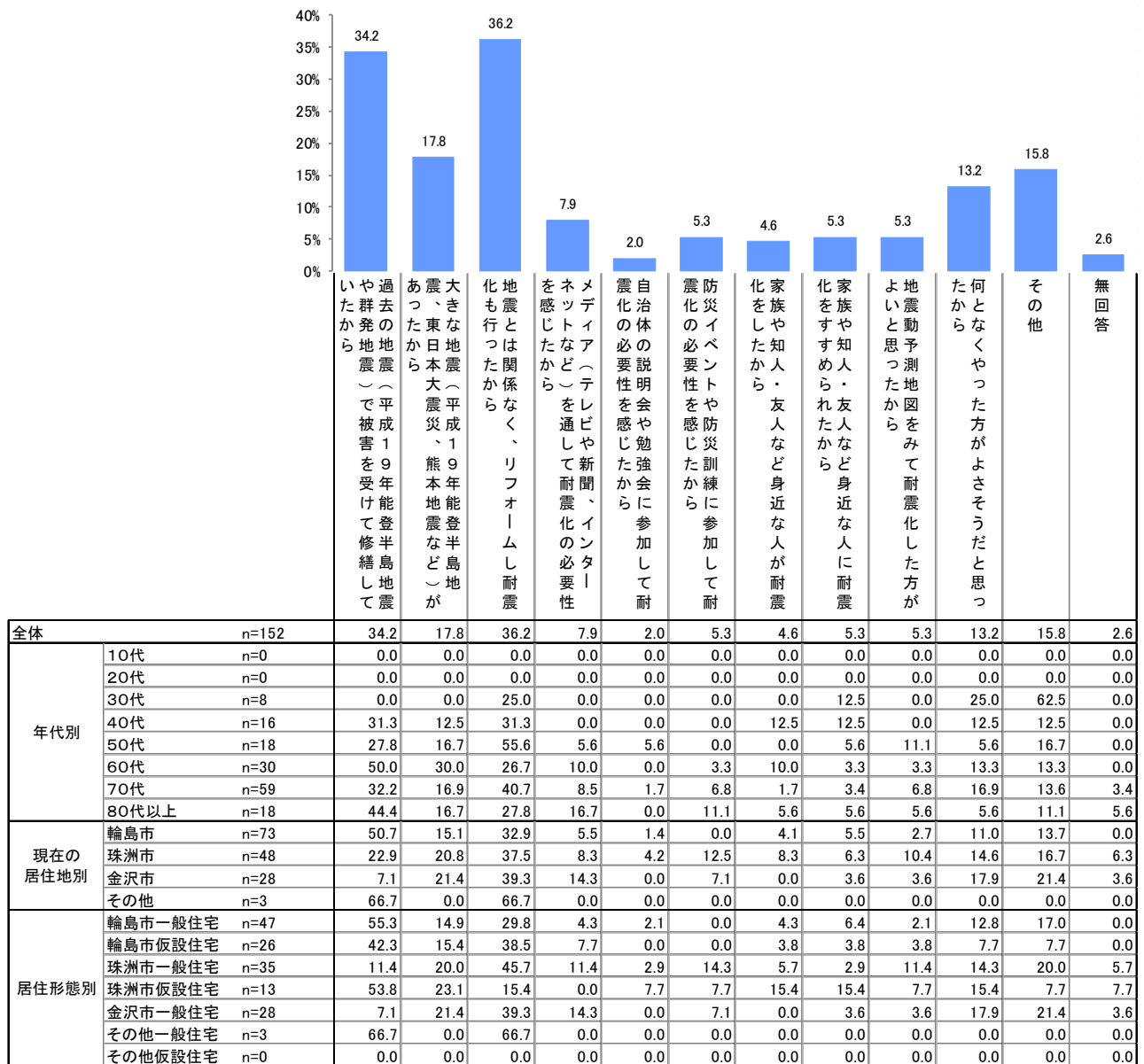
全体では、「耐震診断も耐震化も、していなかった」が 51.4%で最も高く、次いで「耐震化していたかどうかわからない」が19.7%、「新耐震以降の建物なので、耐震診断や耐震化をする必要がなかった」が14.8%となっている。

<年代別>でみると、「耐震診断も耐震化も、していなかった」は年代が上がるにつれて、高くなる傾向が見られる。「耐震化していたかどうか、わからない」は[20代]、[30代]で高く、「新耐震以降の建物なので、耐震診断や耐震化をする必要がなかった」は[30代]、[40代]、[50代]で高い。

<現在の居住地別>でみると、「耐震診断も耐震化も、していなかった」は[珠洲市]で高く、「耐震化していたかどうか、わからない」、「新耐震以降の建物なので、耐震診断や耐震化をする必要がなかった」は[金沢市]で高い。

【問10で「1. 耐震診断を行い、耐震化していた」と回答した方へのご質問です】

附問10-1. ご自宅を耐震化した理由をお聞かせください

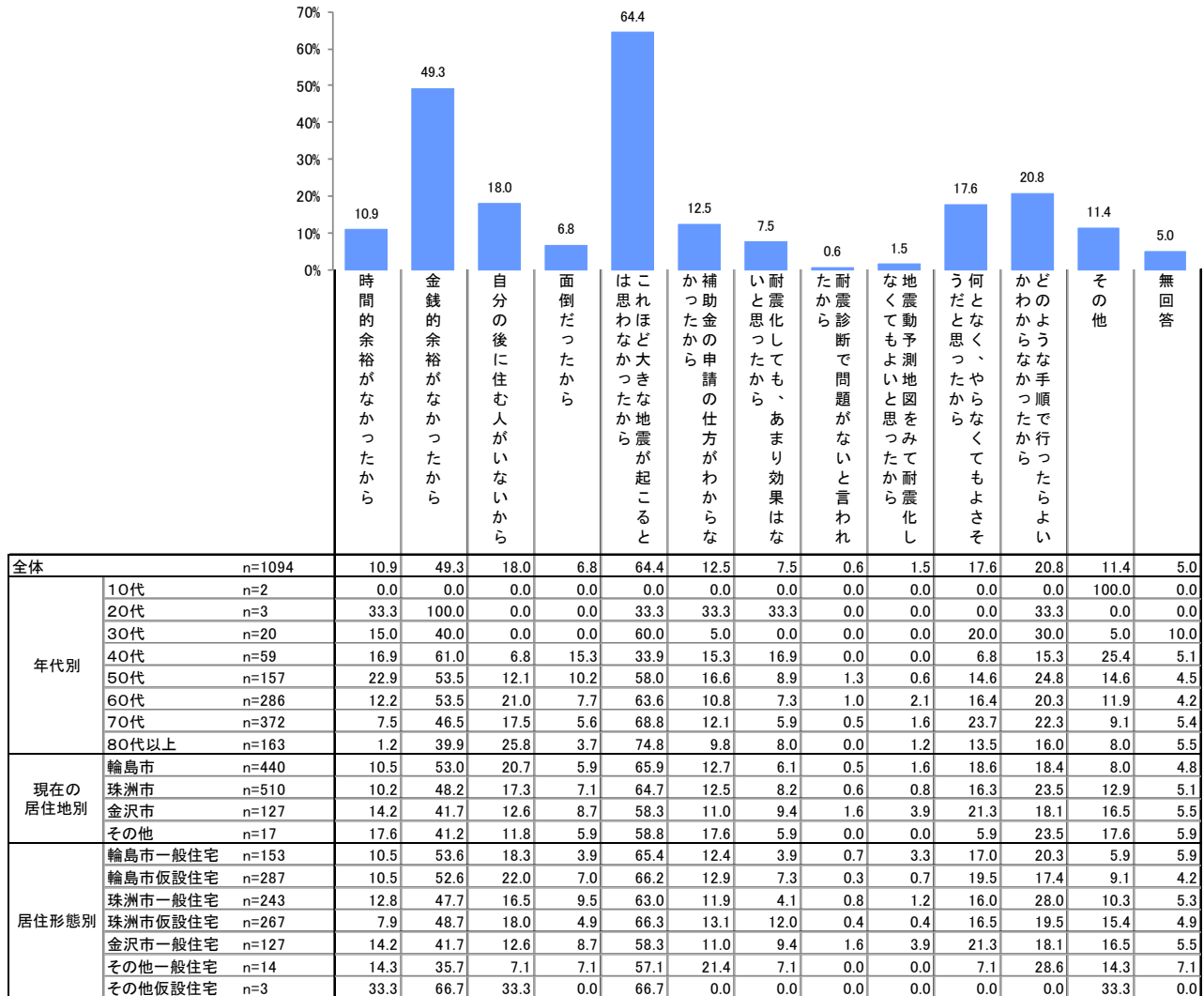


全体では、「地震とは関係なく、リフォームし耐震化も行ったから」が 36.2%で最も高く、次いで「過去の地震(平成19年能登半島地震や群発地震)で被害を受けて修繕していたから」が34.2%、「大きな地震(平成19年能登半島地震、東日本大震災、熊本地震など)があったから」が17.8%となっている。

＜現在の居住地別＞でみると、「過去の地震(平成19年能登半島地震や群発地震)で被害を受けて修繕していたから」は[輪島市]で高い。

【問１０で「２．耐震診断は行ったが、耐震化していなかった」「３．耐震診断も耐震化も、していなかった」と回答した方へのご質問です】

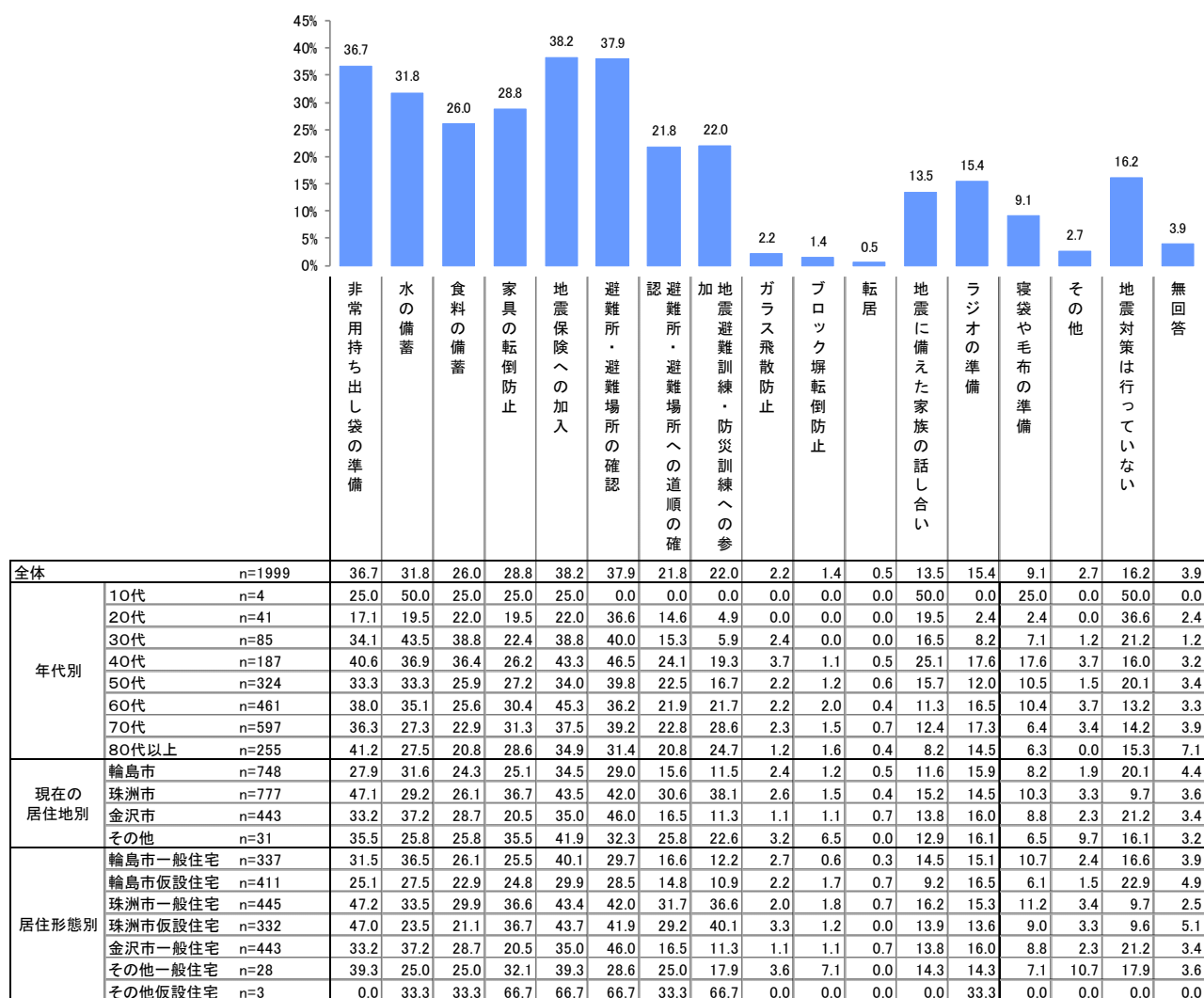
附問１０－２．ご自宅を耐震化しなかった理由をお聞かせください



全体では、「これほど大きな地震が起こると思わなかったから」が64.4%で最も高く、次いで「金銭的余裕がなかったから」が49.3%、「どのような手順で行ったらよいかわからなかったから」が20.8%となっている。

<年代別>でみると、「これほど大きな地震が起こると思わなかったから」は[80代以上]で高く、「金銭的余裕がなかったから」は[40代]で高い。

問 11. 2024年1月1日の地震発生時点で、あなたは耐震化以外の地震対策を行っていましたか



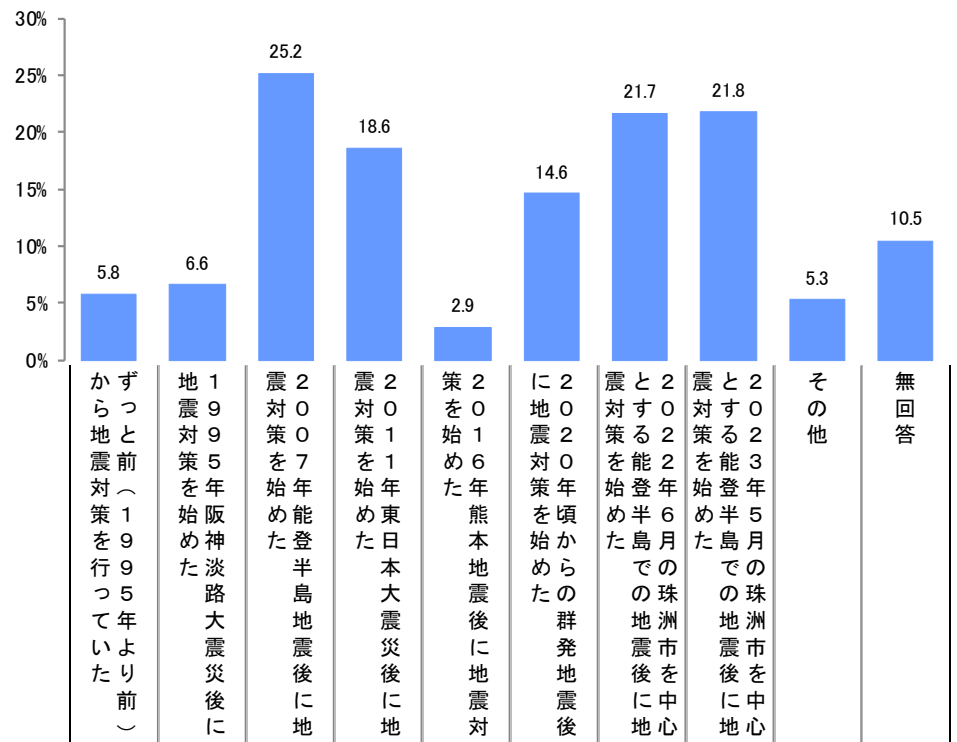
全体では、「地震保険への加入」が 38.2%で最も高く、次いで「避難所・避難場所の確認」が 37.9%、「非常用持ち出し袋の準備」が 36.7%となっている。

＜年代別＞でみると、「地震保険への加入」は[40代]、[60代]で高く、「避難所・避難場所の確認」は[40代]で高い。

＜現在の居住地別＞でみると、「地震保険への加入」、「非常用持ち出し袋の準備」は[珠洲市]で高い。「避難所・避難場所の確認」は[金沢市]で高い。

【問11で、対策を行っていた方（「1」～「15」に1つ以上○がついた方）へのご質問です】

附問11-1. 地震対策を行い始めた時期はいつですか



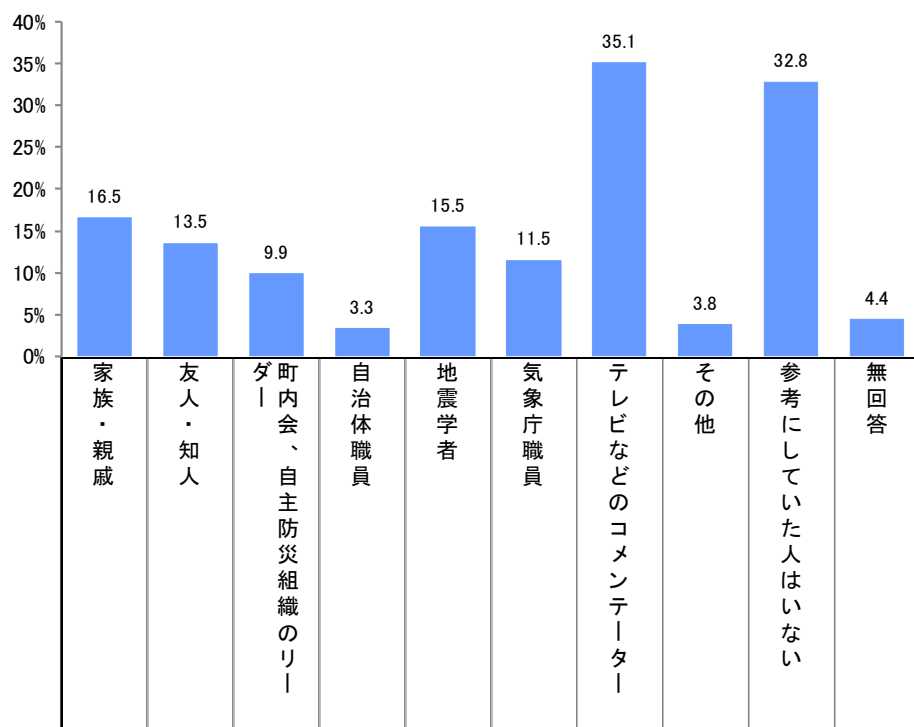
全体		n=1598	5.8	6.6	25.2	18.6	2.9	14.6	21.7	21.8	5.3	10.5
年代別	10代	n=2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	n=25	8.0	0.0	16.0	20.0	0.0	8.0	4.0	32.0	16.0	4.0
	30代	n=66	3.0	0.0	4.5	25.8	1.5	13.6	24.2	25.8	13.6	4.5
	40代	n=151	5.3	3.3	13.2	30.5	7.3	15.2	21.9	12.6	4.6	5.3
	50代	n=248	4.0	4.0	20.2	23.4	1.2	14.5	22.6	23.8	8.1	4.4
	60代	n=385	5.5	7.3	31.2	19.5	2.6	15.6	19.0	21.6	3.9	8.1
	70代	n=489	7.0	8.6	28.0	15.1	3.3	16.4	23.7	22.1	3.5	13.7
	80代以上	n=198	6.6	8.1	29.3	7.6	2.0	9.6	21.7	22.2	6.1	20.7
現在の居住地別	輪島市	n=565	6.0	7.1	42.7	14.7	3.0	12.4	16.6	15.2	4.6	11.5
	珠洲市	n=674	5.5	3.7	18.0	12.5	1.9	19.0	32.3	31.9	4.2	11.7
	金沢市	n=334	6.3	11.1	10.8	37.1	4.8	8.7	8.7	12.0	9.0	6.3
	その他	n=25	0.0	12.0	16.0	24.0	4.0	24.0	24.0	28.0	0.0	8.0
居住形態別	輪島市一般住宅	n=268	7.1	7.8	42.2	17.2	3.7	12.3	16.0	14.2	5.6	7.8
	輪島市仮設住宅	n=297	5.1	6.4	43.1	12.5	2.4	12.5	17.2	16.2	3.7	14.8
	珠洲市一般住宅	n=391	5.1	3.8	17.4	12.5	1.3	16.4	33.0	34.3	2.3	10.2
	珠洲市仮設住宅	n=283	6.0	3.5	18.7	12.4	2.8	22.6	31.4	28.6	6.7	13.8
	金沢市一般住宅	n=334	6.3	11.1	10.8	37.1	4.8	8.7	8.7	12.0	9.0	6.3
	その他一般住宅	n=22	0.0	9.1	13.6	27.3	4.5	27.3	22.7	27.3	0.0	9.1
	その他仮設住宅	n=3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0

全体では、「2007年能登半島地震後に地震対策を始めた」が 25.2%で最も高く、次いで「2023年5月の珠洲市を中心とする能登半島での地震後に地震対策を始めた」が 21.8%、「2022年6月の珠洲市を中心とする能登半島での地震後に地震対策を始めた」が 21.7%となっている。

＜年代別＞でみると、「2007年能登半島地震後に地震対策を始めた」は[60代]で高い。

＜現在の居住地別＞でみると、「2007年能登半島地震後に地震対策を始めた」は[輪島市]で高い。「2023年5月の珠洲市を中心とする能登半島での地震後に地震対策を始めた」、「2022年6月の珠洲市を中心とする能登半島での地震後に地震対策を始めた」は[珠洲市]で高い。

問12. 2024年1月1日の地震が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに参考に使っていた人はいましたか

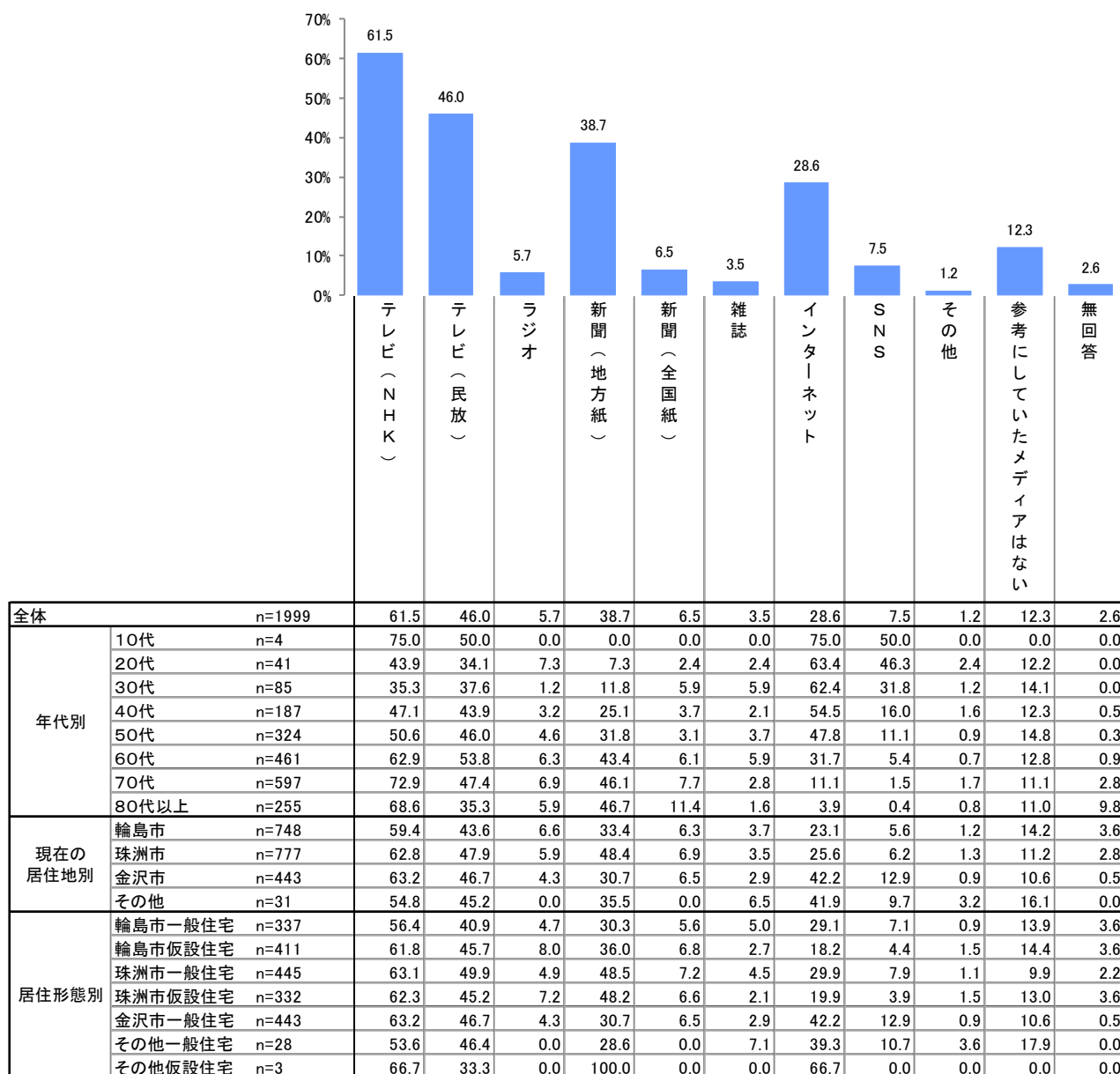


全体			n=1999	16.5	13.5	9.9	3.3	15.5	11.5	35.1	3.8	32.8	4.4
年代別	10代	n=4		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	20代	n=41		24.4	12.2	2.4	9.8	12.2	14.6	22.0	0.0	46.3	0.0
	30代	n=85		16.5	9.4	3.5	5.9	11.8	5.9	31.8	8.2	42.4	0.0
	40代	n=187		15.0	13.4	3.7	3.7	13.4	9.6	31.0	5.3	42.8	0.5
	50代	n=324		14.8	11.1	6.8	4.6	16.4	12.7	33.0	6.2	37.7	0.6
	60代	n=461		14.3	14.3	7.6	2.6	18.0	12.6	39.5	3.5	30.8	2.2
	70代	n=597		17.1	13.9	15.2	1.8	16.1	11.2	37.7	2.5	27.6	6.9
	80代以上	n=255		20.4	16.1	14.5	3.9	12.2	11.0	31.8	1.2	29.4	11.0
現在の居住地別	輪島市	n=748		16.0	13.8	4.7	1.6	11.6	11.2	34.8	2.7	36.1	5.9
	珠洲市	n=777		18.5	14.9	12.7	5.3	19.2	12.2	36.0	3.6	28.2	4.4
	金沢市	n=443		13.8	10.6	13.1	2.7	14.7	11.1	34.8	6.1	35.0	2.0
	その他	n=31		12.9	9.7	16.1	0.0	25.8	6.5	25.8	0.0	38.7	3.2
居住形態別	輪島市一般住宅	n=337		16.3	13.1	4.7	1.2	12.2	10.1	32.6	3.0	38.0	5.9
	輪島市仮設住宅	n=411		15.8	14.4	4.6	1.9	11.2	12.2	36.5	2.4	34.5	5.8
	珠洲市一般住宅	n=445		16.0	13.9	11.5	5.8	22.2	14.2	37.1	4.0	29.4	2.7
	珠洲市仮設住宅	n=332		22.0	16.3	14.5	4.5	15.1	9.6	34.6	3.0	26.5	6.6
	金沢市一般住宅	n=443		13.8	10.6	13.1	2.7	14.7	11.1	34.8	6.1	35.0	2.0
	その他一般住宅	n=28		14.3	10.7	10.7	0.0	25.0	7.1	28.6	0.0	39.3	3.6
	その他仮設住宅	n=3		0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

全体では、「テレビなどのコメンテーター」が 35.1%で最も高く、次いで「参考に使っていた人はいない」が 32.8%、「家族・親戚」が 16.5%となっている。

<年代別>でみると、「参考に使っていた人はいない」は[20代]、[30代]、[40代]で高い。「家族・親戚」は[20代]で高い。

問13. 2024年1月1日の地震が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに情報源として参考にしていたメディアはありましたか

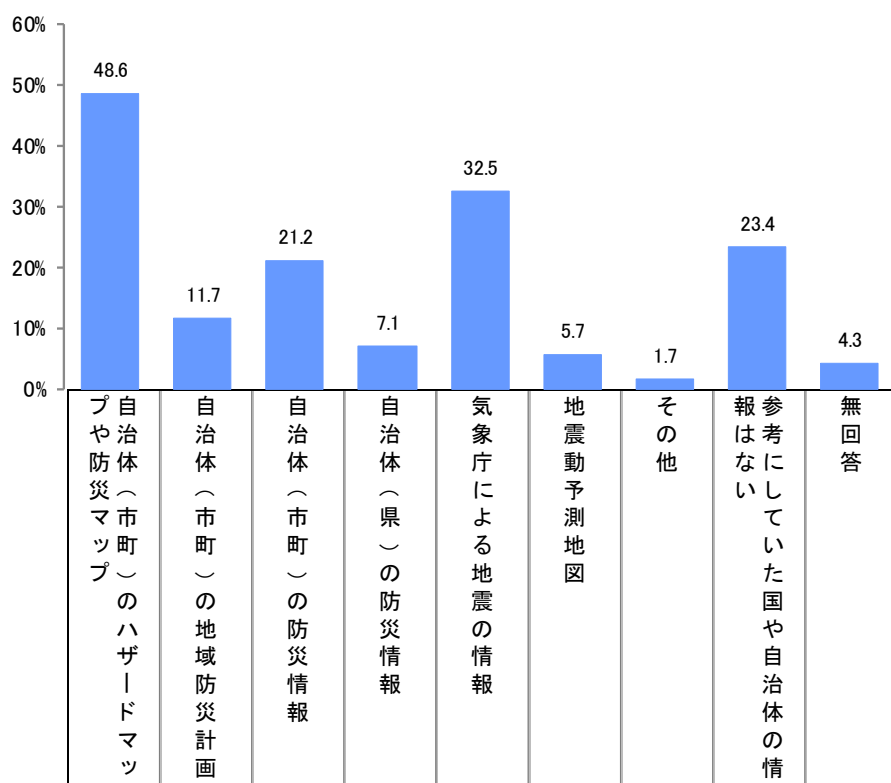


全体では、「テレビ(NHK)」が 61.5%で最も高く、次いで「テレビ(民放)」が 46.0%、「新聞(地方紙)」が 38.7%となっている。

<年代別>でみると、「テレビ(NHK)」は[70代]、[80代以上]で高く、「テレビ(民放)」は[60代]で高い。「新聞(地方紙)」は[70代]、[80代以上]で高い。

<現在の居住地別>でみると、「新聞(地方紙)」は[珠洲市]で高い。

問14. 2024年1月1日の地震が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに参考に使っていた国や自治体の情報はありましたか



全体			n=1999	48.6	11.7	21.2	7.1	32.5	5.7	1.7	23.4	4.3
年代別	10代	n=4		25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20代	n=41		41.5	2.4	7.3	4.9	29.3	4.9	0.0	36.6	2.4
	30代	n=85		54.1	7.1	11.8	4.7	24.7	1.2	3.5	30.6	0.0
	40代	n=187		55.1	7.0	20.9	9.1	30.5	8.0	1.1	28.9	0.5
	50代	n=324		48.5	8.6	15.4	3.7	28.7	3.7	2.2	30.9	0.9
	60代	n=461		51.0	10.0	23.0	5.2	33.4	6.7	0.4	24.1	1.3
	70代	n=597		49.4	14.6	24.1	8.9	34.2	6.0	2.5	17.9	6.7
	80代以上	n=255		40.0	19.6	24.7	10.6	37.3	5.9	2.0	16.1	11.0
現在の居住地別	輪島市	n=748		37.2	6.7	15.6	4.7	34.0	5.6	1.6	28.2	6.3
	珠洲市	n=777		55.2	17.6	28.6	8.4	33.3	6.2	2.2	17.0	4.2
	金沢市	n=443		57.1	9.3	17.2	8.6	28.0	5.0	0.9	25.7	0.9
	その他	n=31		38.7	19.4	25.8	12.9	41.9	3.2	3.2	32.3	3.2
居住形態別	輪島市一般住宅	n=337		41.5	6.2	15.1	3.9	31.8	7.1	0.9	28.5	4.2
	輪島市仮設住宅	n=411		33.6	7.1	16.1	5.4	35.8	4.4	2.2	28.0	8.0
	珠洲市一般住宅	n=445		55.7	17.8	28.8	8.8	33.7	6.5	1.8	18.0	3.1
	珠洲市仮設住宅	n=332		54.5	17.5	28.3	7.8	32.8	5.7	2.7	15.7	5.7
	金沢市一般住宅	n=443		57.1	9.3	17.2	8.6	28.0	5.0	0.9	25.7	0.9
	その他一般住宅	n=28		35.7	17.9	21.4	14.3	39.3	3.6	3.6	35.7	3.6
	その他仮設住宅	n=3		66.7	33.3	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0

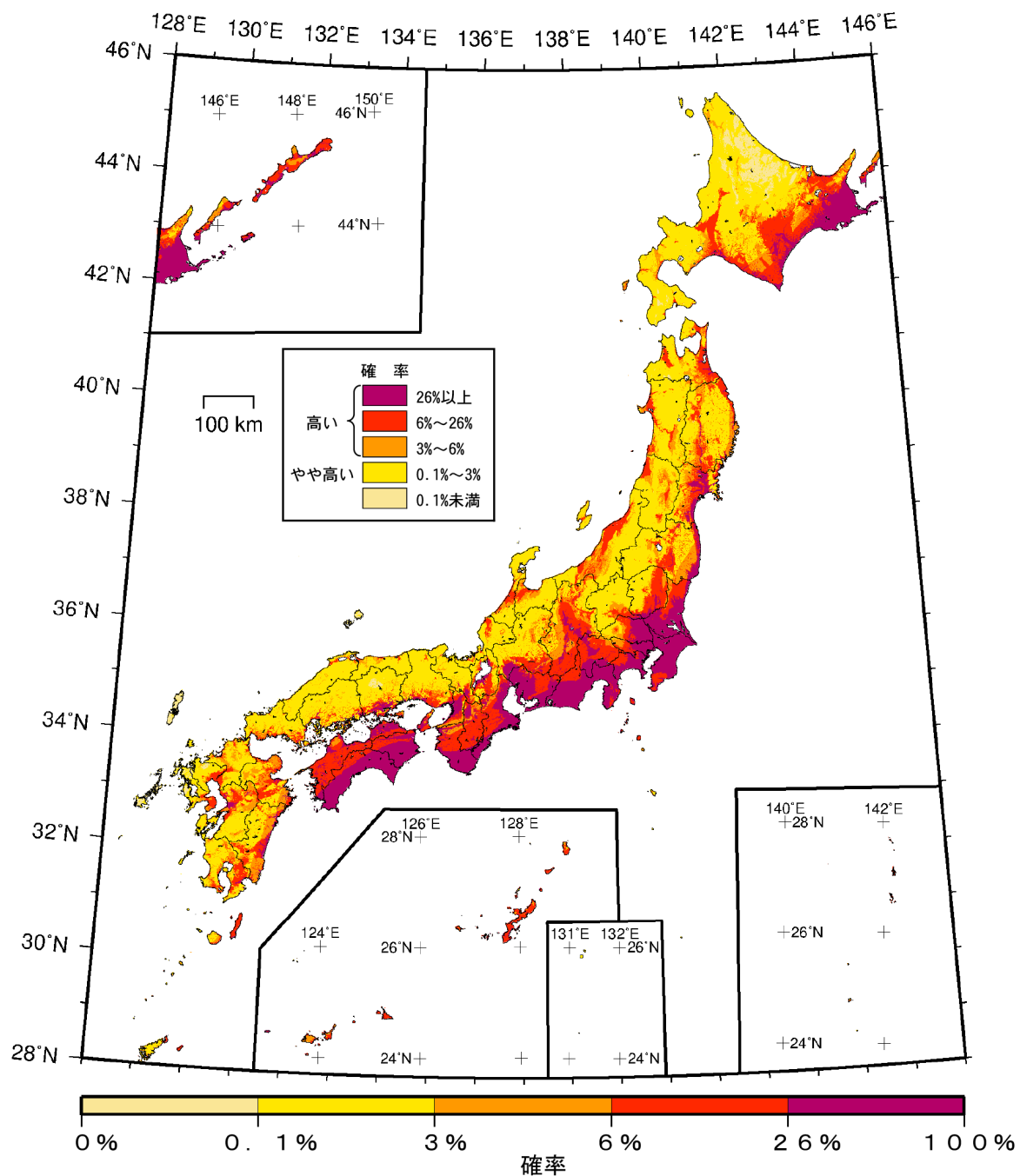
全体では、「自治体(市町)のハザードマップや防災マップ」が 48.6%で最も高く、次いで「気象庁による地震の情報」が 32.5%、「参考に使っていた国や自治体の情報はない」が 23.4%となっている。

<年代別>でみると、「自治体(市町)のハザードマップや防災マップ」は[30代]、[40代]で高く、「参考に使っていた国や自治体の情報はない」は[20代]、[30代]、[40代]、[50代]、で高い。

<現在の居住地別>でみると、「自治体(市町)のハザードマップや防災マップ」は[珠洲市]、[金沢市]で高い。

C. 地震動予測地図（確率論的地震動予測地図）についてお伺いします。

以下は、政府の地震調査研究推進本部が作成した地震動予測地図です。図を見て、質問にお答えください。



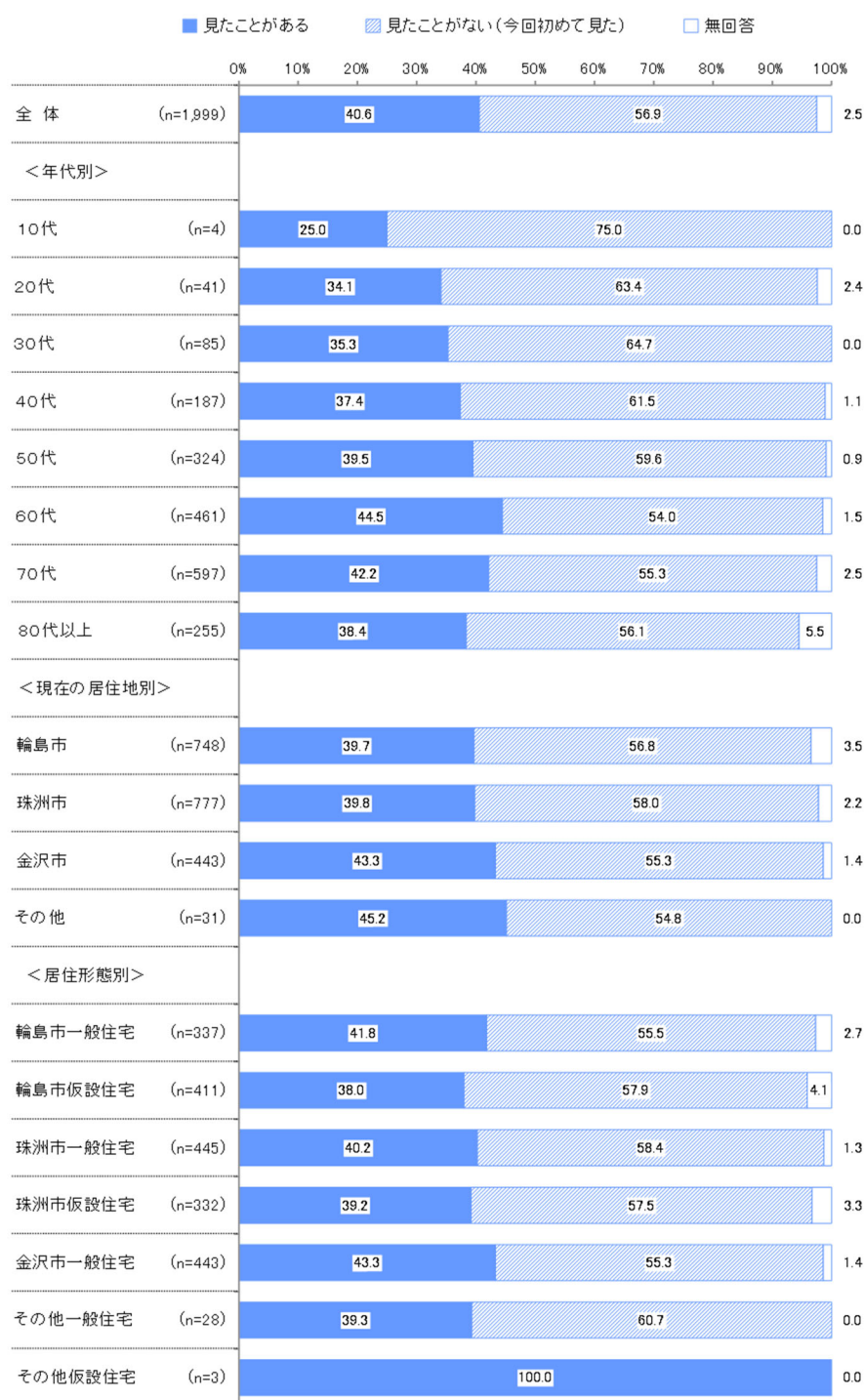
（モデル計算条件により確率ゼロのメッシュは白色表示）

確率論的地震動予測地図

今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

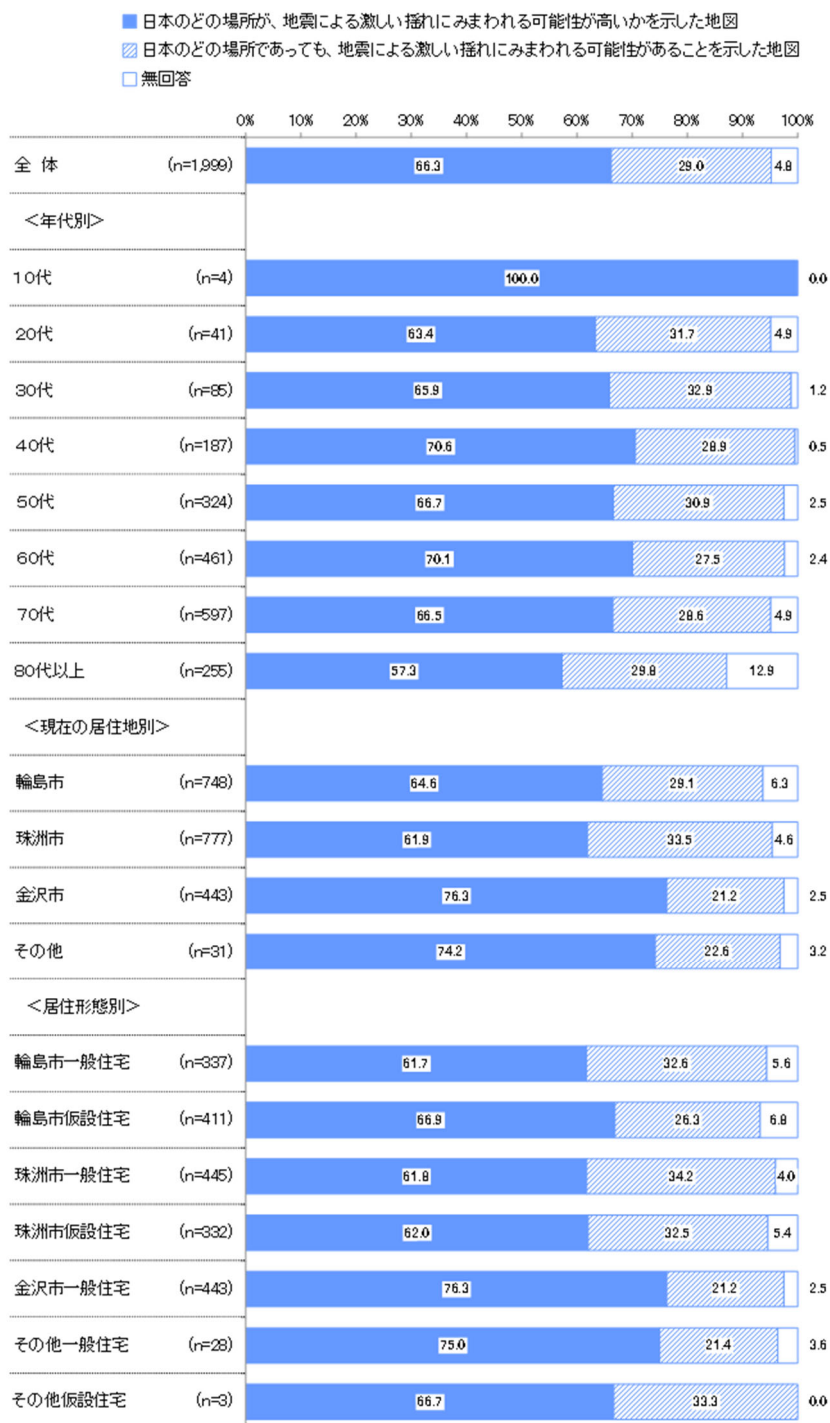
図 地震動予測地図

問15. あなたは、図のような「地震動予測地図」を見たことがありますか



全体では、「見たことがある」が40.6%、「見たことがない(今回初めて見た)」が56.9%となっている。
 <年代別>でみると、「見たことがない(今回初めて見た)」は[20代]、[30代]で高い。

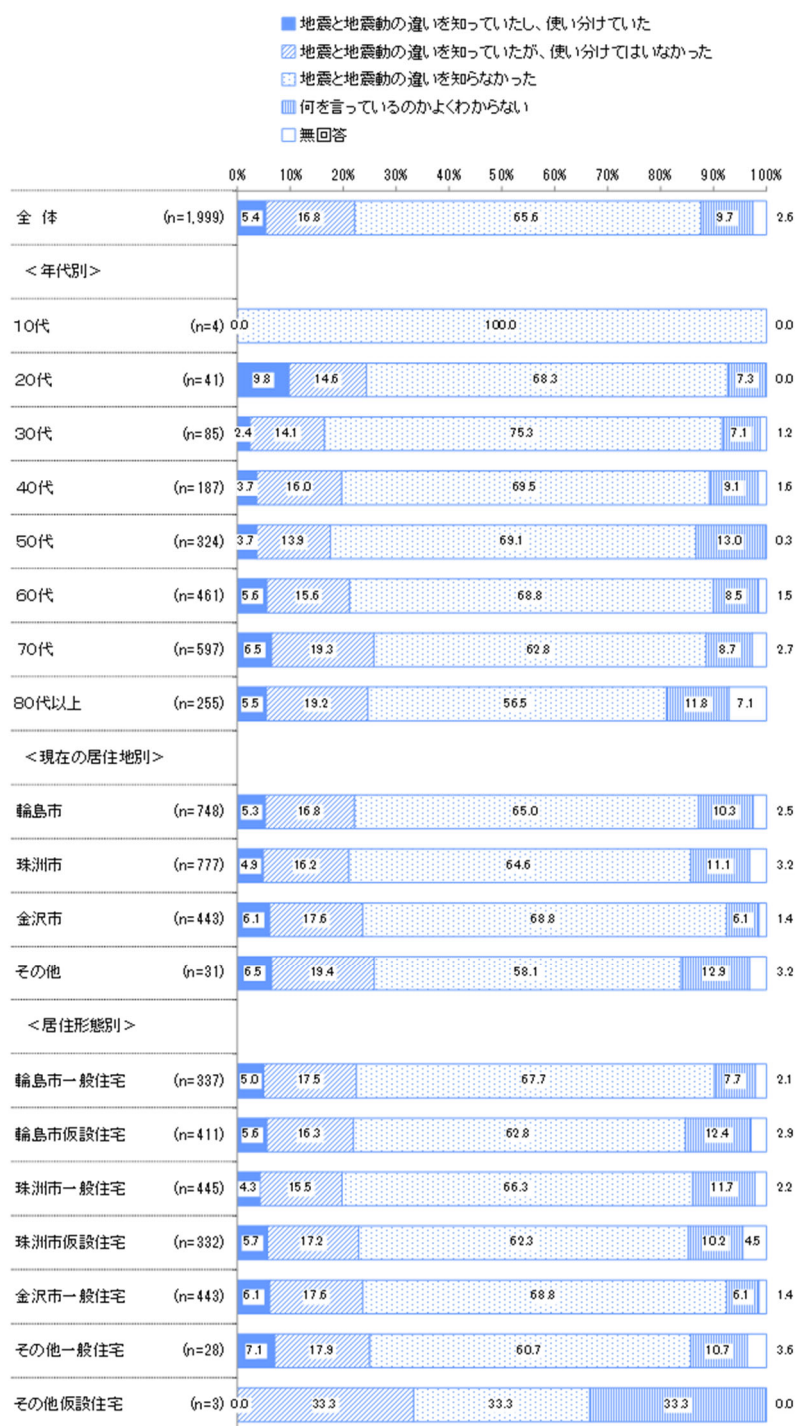
問16. 地震動予測地図は、何を示した地図だと思いますか。あなたの捉え方に、より近い方を1つお選びください



全体では、「日本のどの場所が、地震による激しい揺れにみまわれる可能性が高いかを示した地図」が66.3%、「日本のどの場所であっても、地震による激しい揺れにみまわれる可能性があることを示した地図」が29.0%となっている。

<現在の居住地別>でみると、「日本のどの場所が、地震による激しい揺れにみまわれる可能性が高いかを示した地図」は「金沢市」で高い。

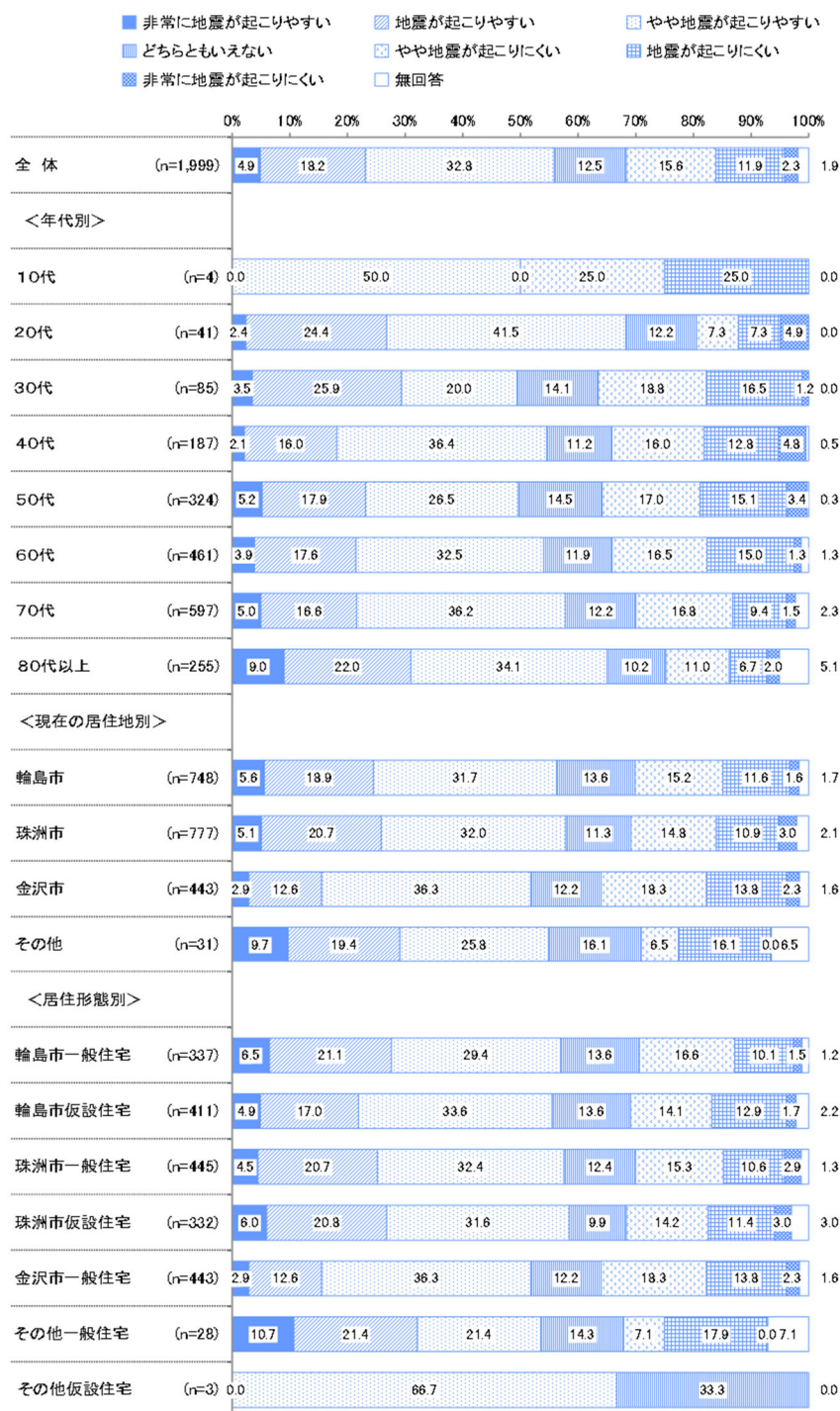
問17.「地震」と「地震動」についてお聞きます。地震は「地下で起こる現象」、地震動は「それ（地震）によって起こる揺れ」を指しています。あなたはそのことをご存知でしたか



全体では、「地震と地震動の違いを知っていたし、使い分けていた」が 5.4%、「地震と地震動の違いを知っていたが、使い分けてはいなかった」が 16.8%、「地震と地震動の違いを知らなかった」が 65.6%、「何を言っているのかよくわからない」が 9.7%となっている。

<年代別>でみると、「地震と地震動の違いを知らなかった」は[30代]で高い。

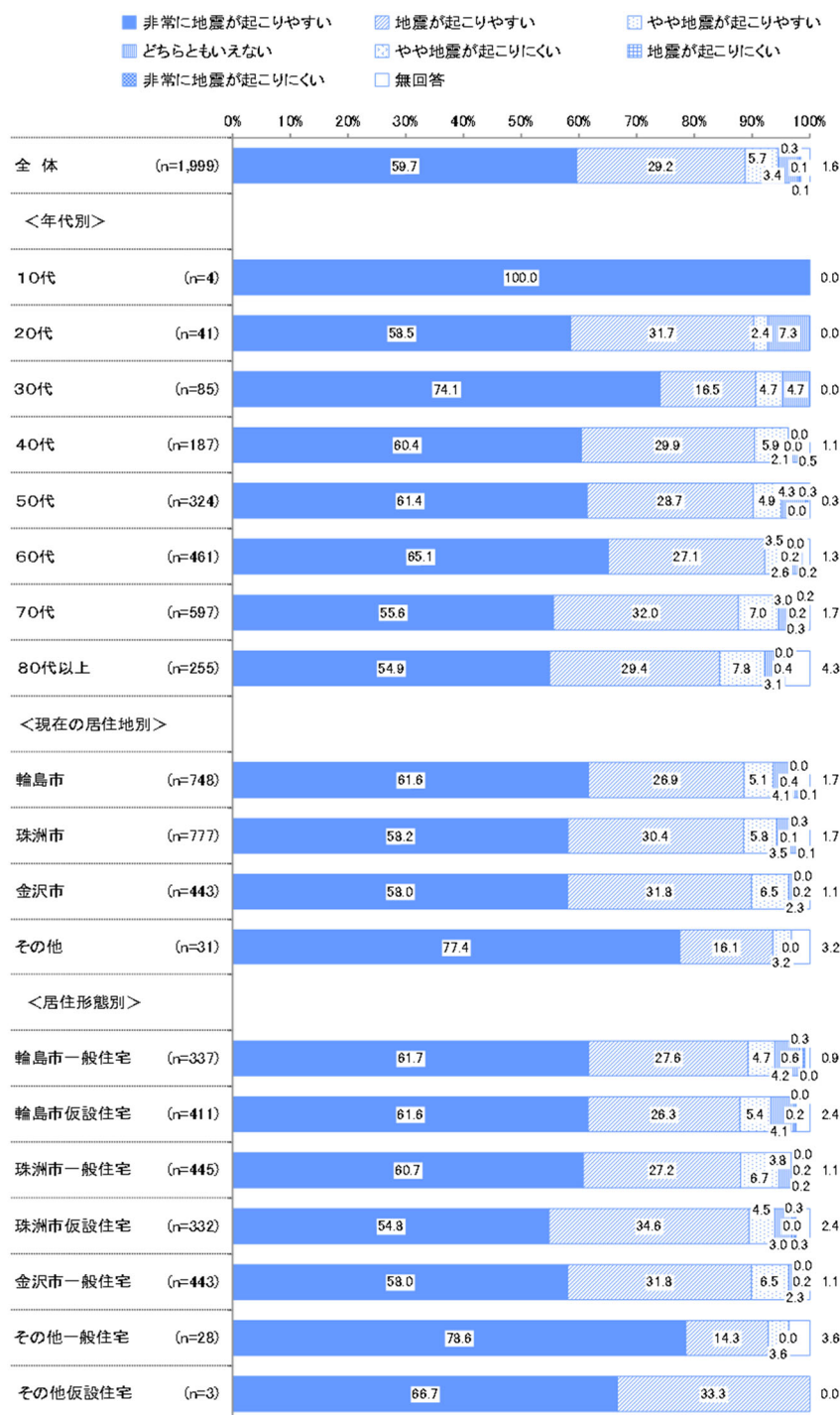
問18. あなたは、地図の中の黄色い部分について、どの程度、大きな地震が起こりやすいと思いますか



全体では、「非常に地震が起こりやすい」、「地震が起こりやすい」、「やや地震が起こりやすい」を合わせた『起こりやすい(計)』が55.9%となっている。

<年代別>でみると、『起こりやすい(計)』は[20代]、[80代以上]で高い。

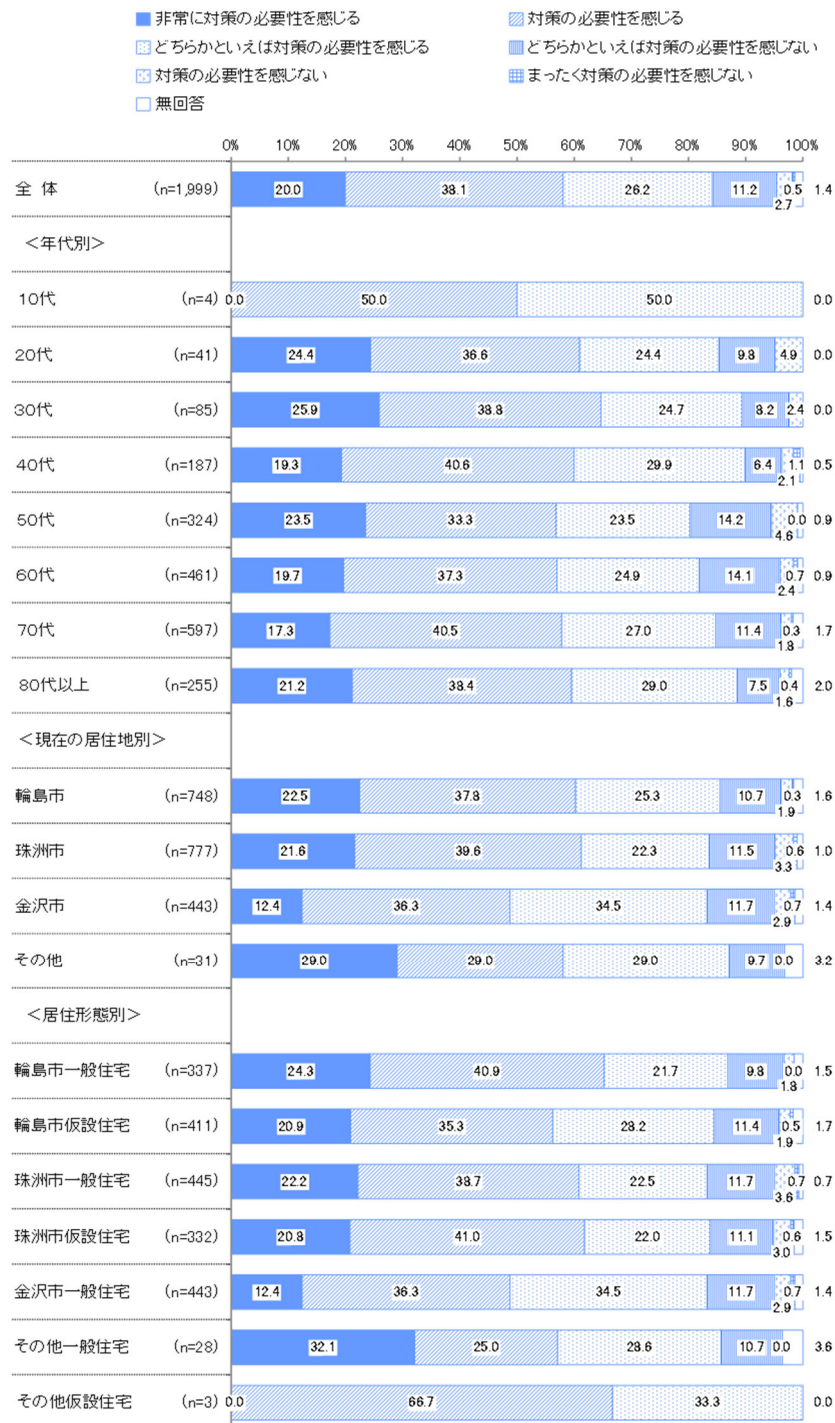
問19. あなたは、地図の中の赤色の部分について、どの程度、大きな地震が起こりやすいと思いますか



全体では、「非常に地震が起こりやすい」、「地震が起こりやすい」、「やや地震が起こりやすい」を合わせた『起こりやすい(計)』が 94.6%となっている。

属性別でみると、『起こりやすい(計)』はいずれの年代や居住地においても 95%前後となっている。

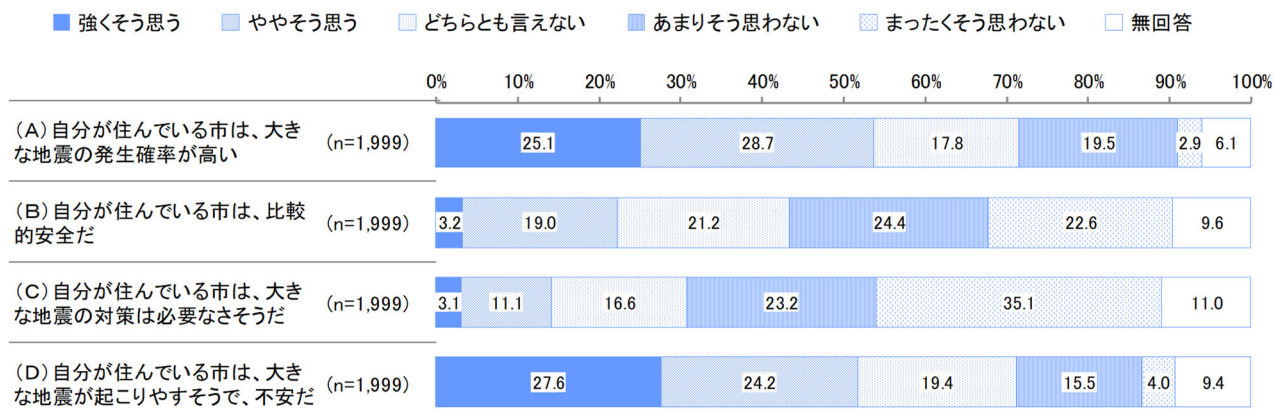
問 20. 地図の黄色い部分は、30年以内に震度6弱以上の地震の揺れにみまわれる確率が「0.1～3.0%」です。この確率をふまえて、あなた個人として対策が必要だと思いますか



全体では、「非常に対策の必要性を感じる」、「対策の必要性を感じる」、「どちらかといえば対策の必要性を感じる」を合わせた『必要性を感じる(計)』が84.3%となっている。

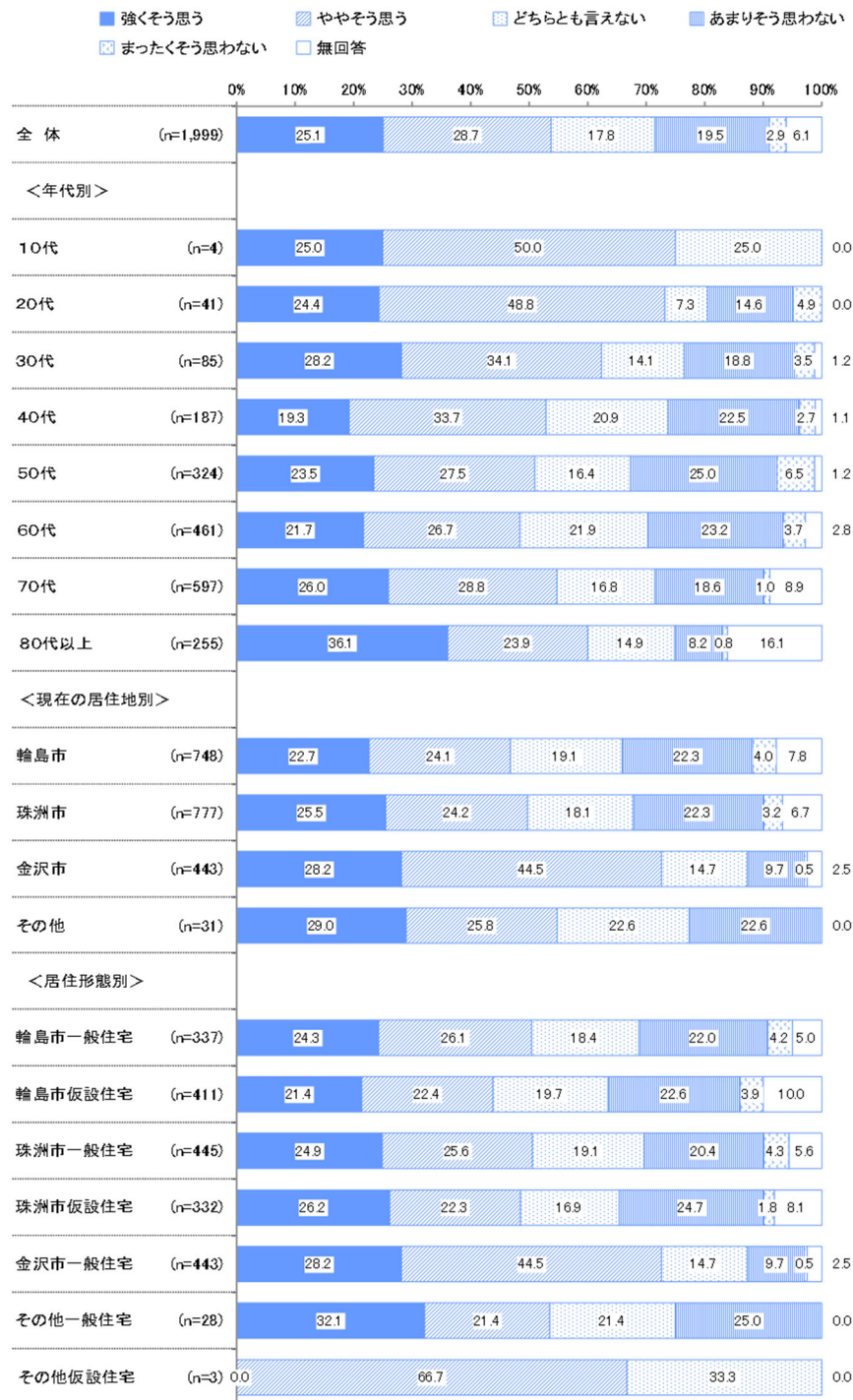
<年代別>でみると、『必要性を感じる(計)』は[30代]、[40代]、[80代以上]で高い。

問 2 1 . 地震動予測地図を見て、あなたはどのように思いますか。次の A ～ D の見方について、お考えをお聞かせください



「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う(計)』でみると、【(A)自分が住んでいる市は、大きな地震の発生確率が高い】が53.8%で最も高く、次いで【(D)自分が住んでいる市は、大きな地震が起こりやすそうで、不安だ】が51.8%となっている。

【（A）自分が住んでいる市は、大きな地震の発生確率が高い】

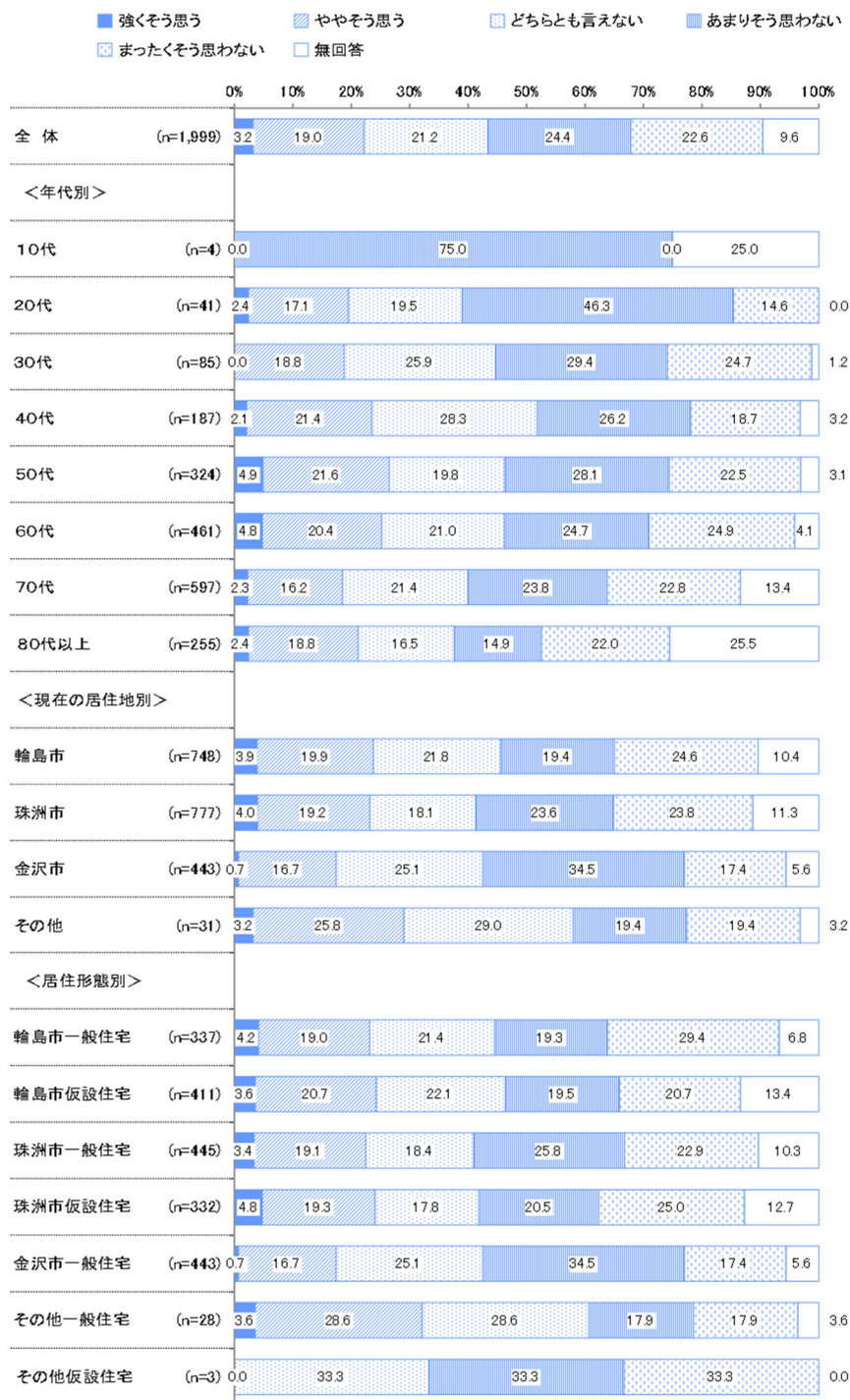


全体では、『そう思う(計)』は53.8%、『そう思わない(計)』は22.4%となっている。

<年代別>でみると、『そう思う(計)』は[20代]、[30代]、[80代以上]で高い。

<現在の居住地別>でみると、『そう思う(計)』は[金沢市]で高い。

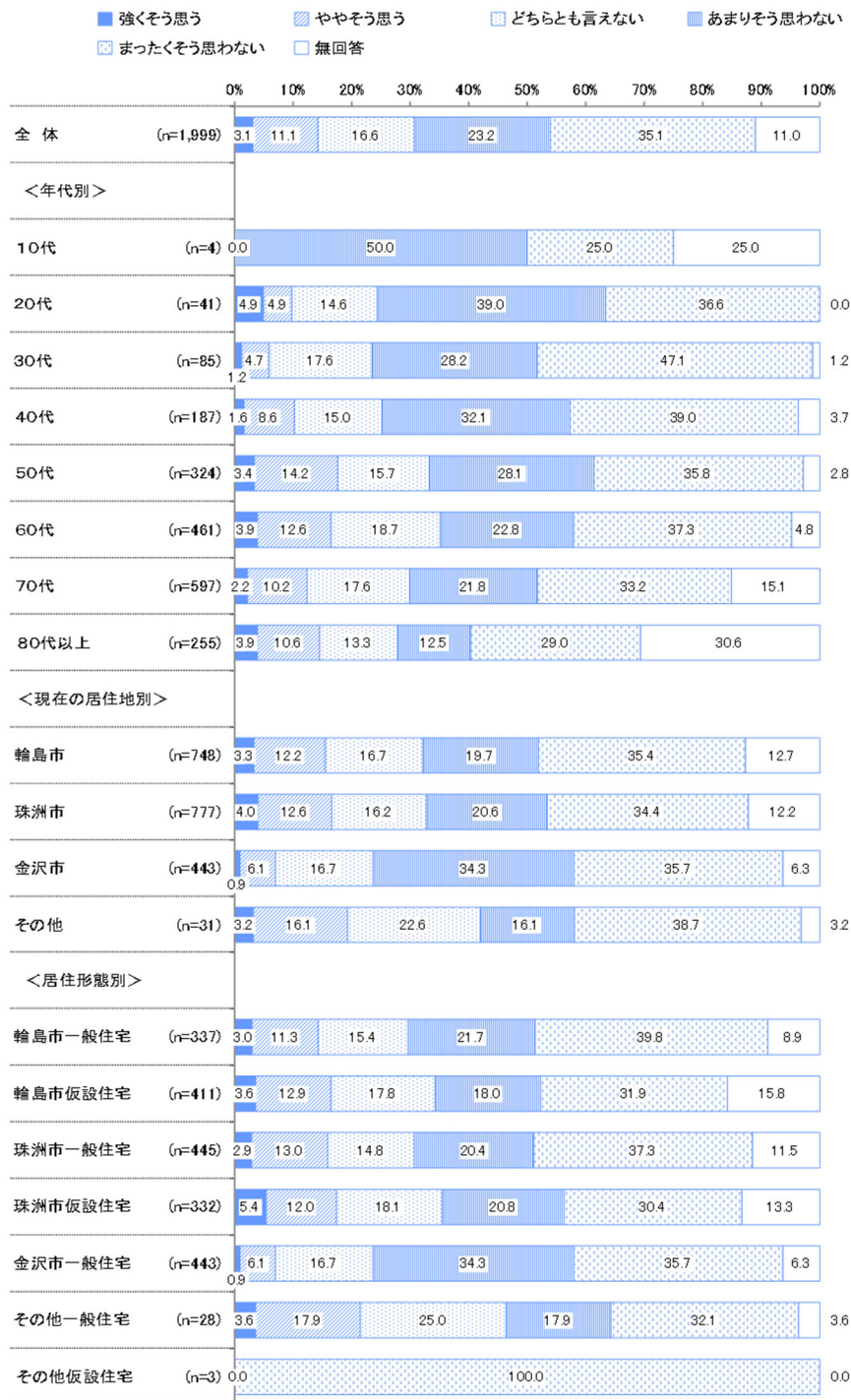
【(B) 自分が住んでいる市は、比較的安全だ】



全体では、『そう思う(計)』は22.2%、『そう思わない(計)』は47.0%となっている。

<年代別>でみると、『そう思わない(計)』は[20代]、[30代]で高い。

【(C) 自分が住んでいる市は、大きな地震の対策は必要なさそうだ】

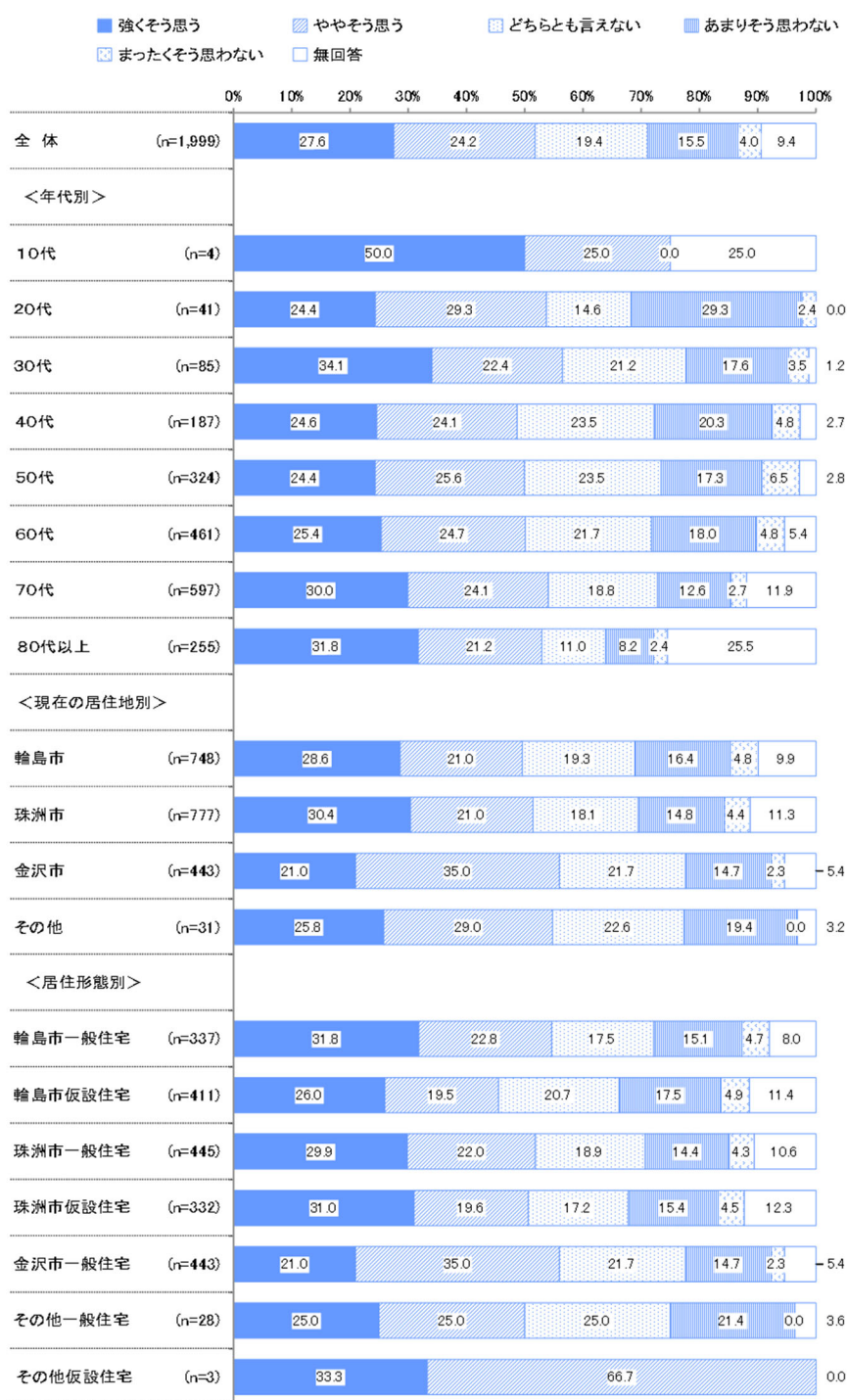


全体では、『そう思う(計)』は14.2%、『そう思わない(計)』は58.3%となっている。

<年代別>でみると、『そう思わない(計)』は年代が下がるにつれて高くなる傾向が見られる。

<現在の居住地別>でみると、『そう思わない(計)』は[金沢市]で高い。

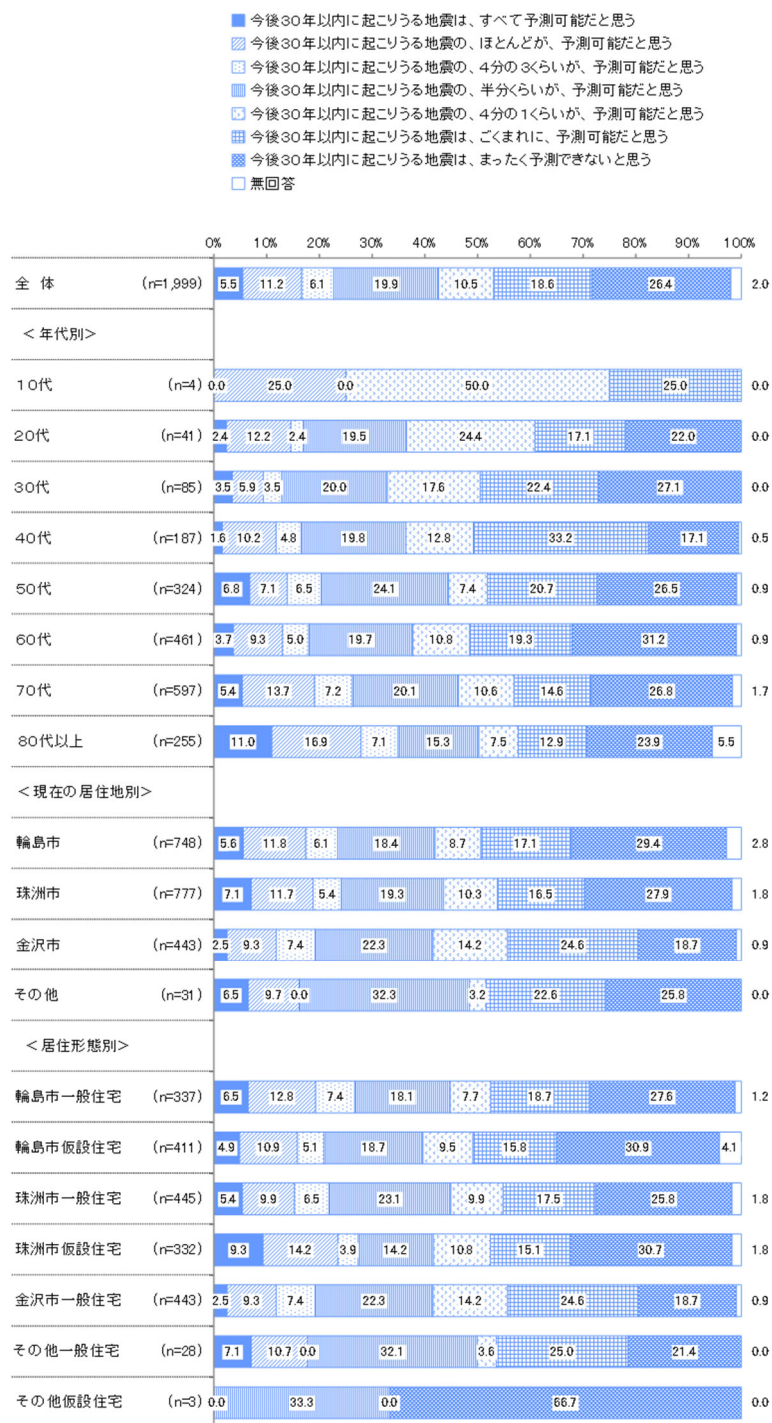
【(D) 自分が住んでいる市は、大きな地震が起こりやすそうで、不安だ】



全体では、『そう思う(計)』は51.8%、『そう思わない(計)』は19.5%となっている。

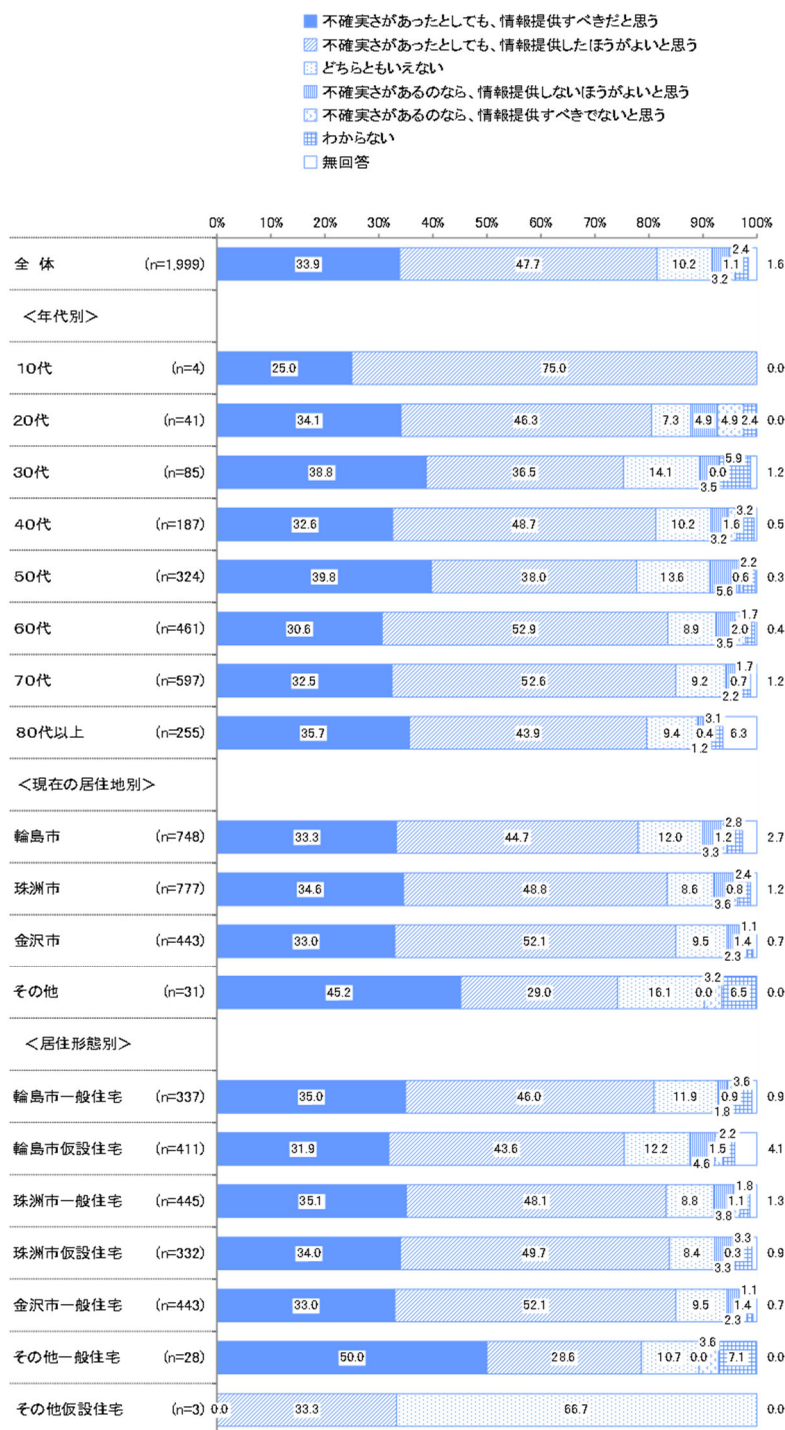
＜年代別＞でみると、『そう思う(計)』はいずれの年代でも50%前後となっている。「強くそう思う」は[30代]で最も高く、34.1%となっている。

問 2 2. 最新の地震学に基づけば、地震の予測は、どの程度可能だと思いますか



全体では、「今後30年以内に起こりうる地震は、まったく予測できないと思う」が26.4%で最も高く、次いで「今後30年以内に起こりうる地震の、半分くらいが、予測可能だと思う」が19.9%となっている。

問 2 3. 地震はいつ起こるかわからないものなので、そうした不確実さを伴う情報の提供についてあなたはどのようにお考えですか

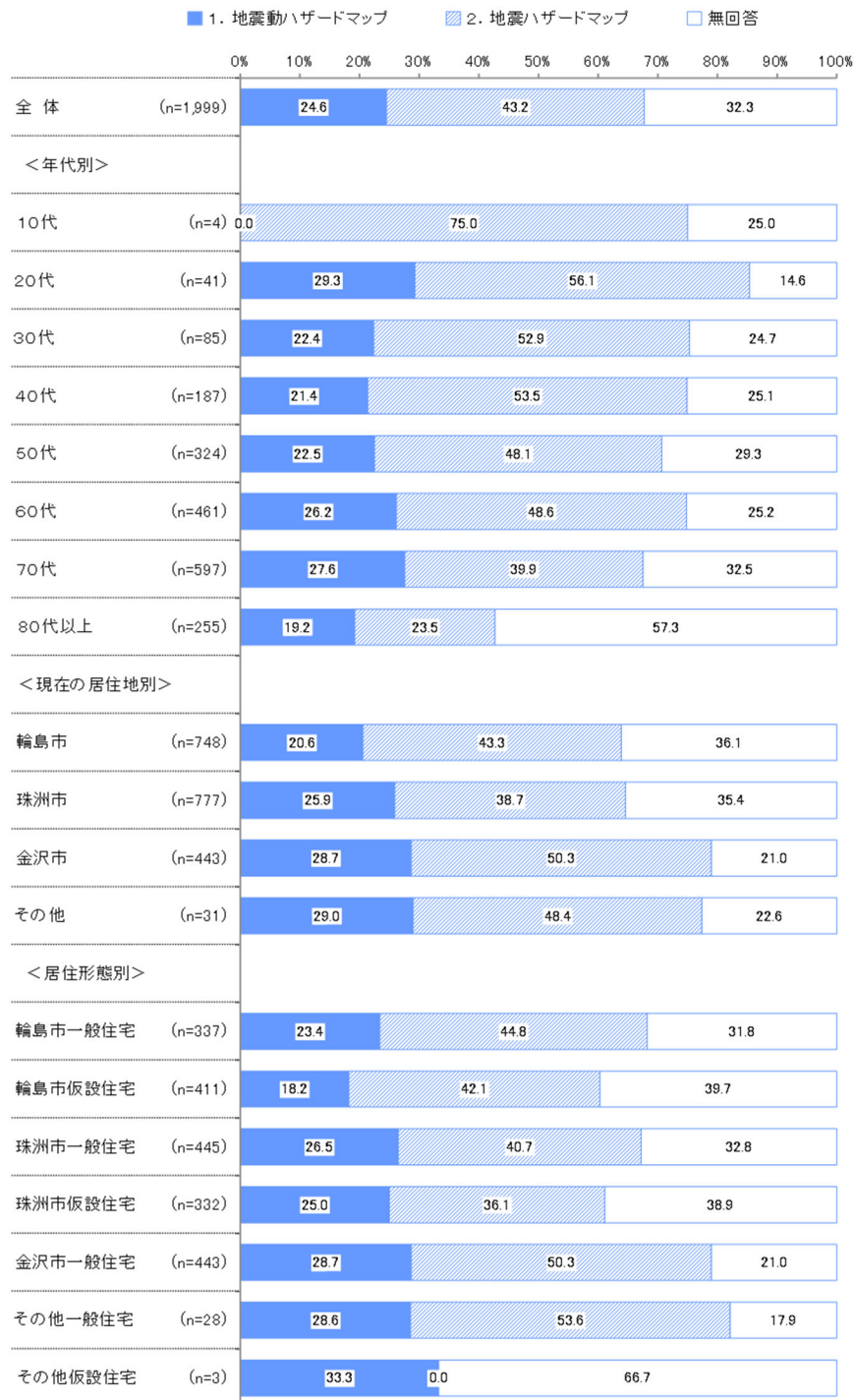


全体では、「不確実さがあっても、情報提供すべきだと思う」、「不確実さがあっても、情報提供したほうがよいと思う」を合わせた『不確実さを伴う情報を許容する(計)』は 81.6%、「不確実さがあるのなら、情報提供しないほうがよいと思う」、「不確実さがあるのなら、情報提供すべきでないと思う」を合わせた『不確実さを伴う情報を許容しない(計)』は 4.3%となっている。

<年代別>にみると、『不確実さを伴う情報を許容しない(計)』は[20代]で高い。

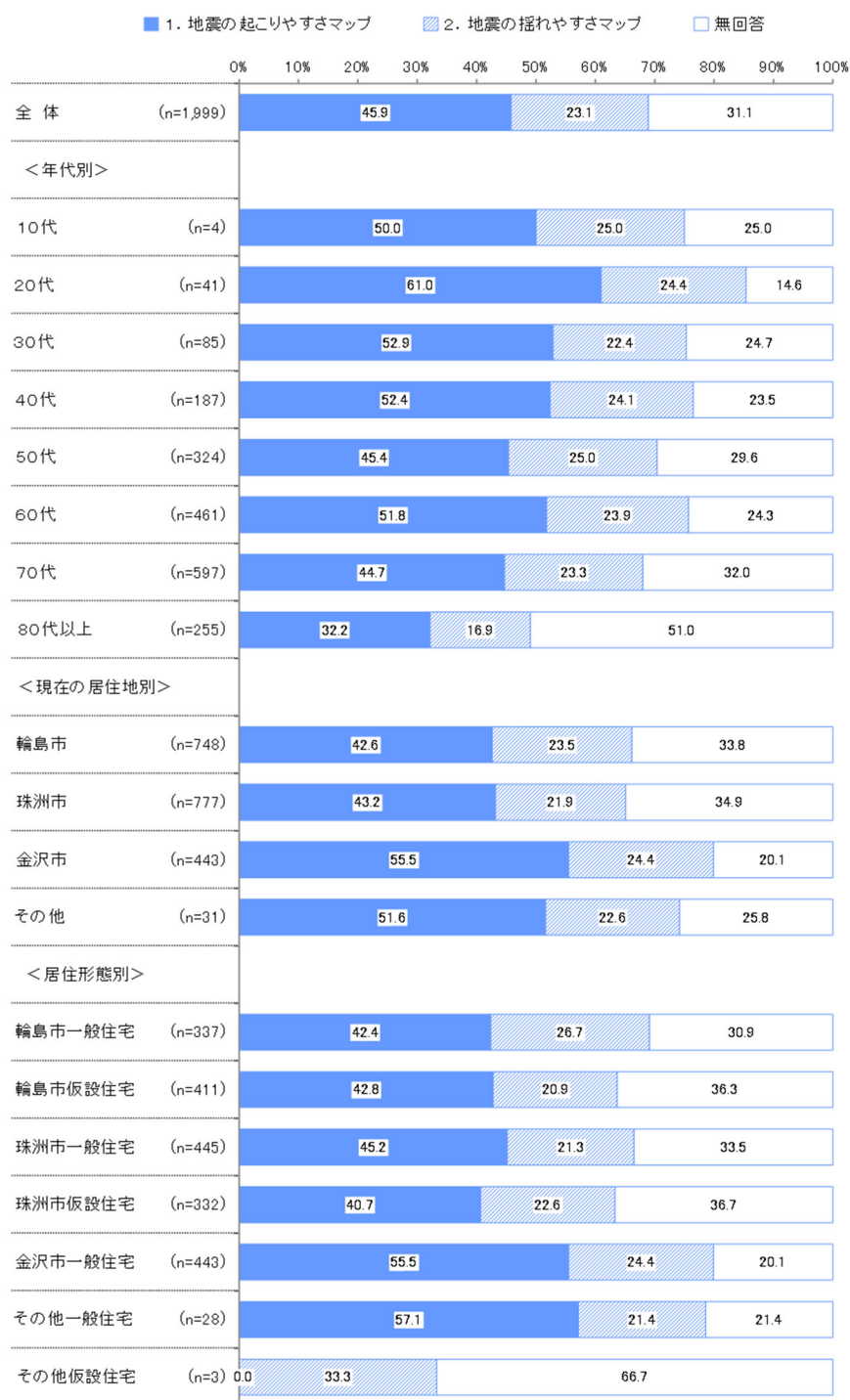
問 2 4. 地震動予測地図に改めて名前を付け直すとしたら、以下の（A）～（F）ごとに提示している「1」「2」の名称について、それぞれどちらがより適していると思いますか

【（A）「1. 地震動ハザードマップ」と「2. 地震ハザードマップ」】



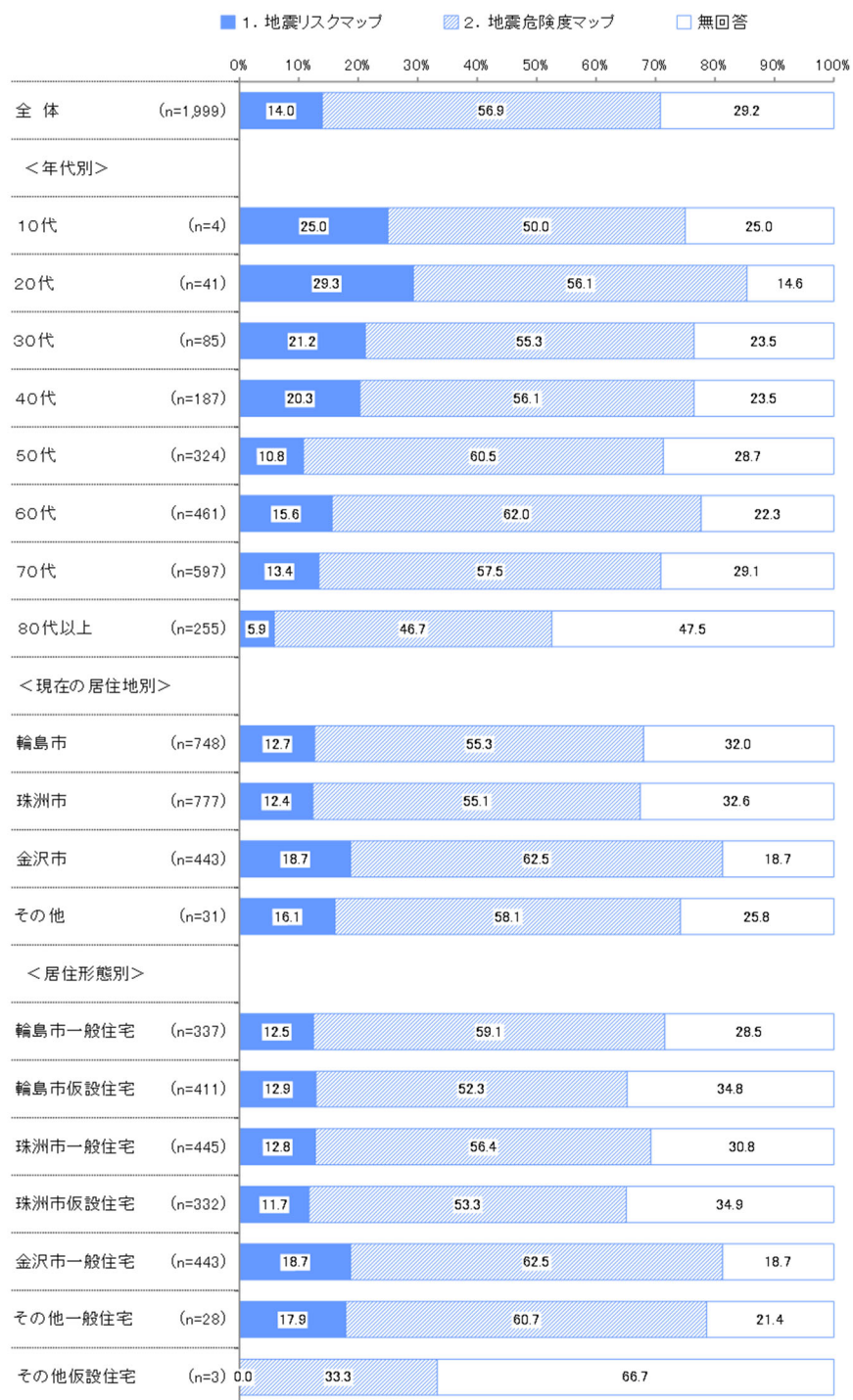
全体では、「1. 地震動ハザードマップ」が 24.6%、「2. 地震ハザードマップ」が 43.2%となっている。

【(B) 「1. 地震の起こりやすさマップ」と「2. 地震の揺れやすさマップ」】



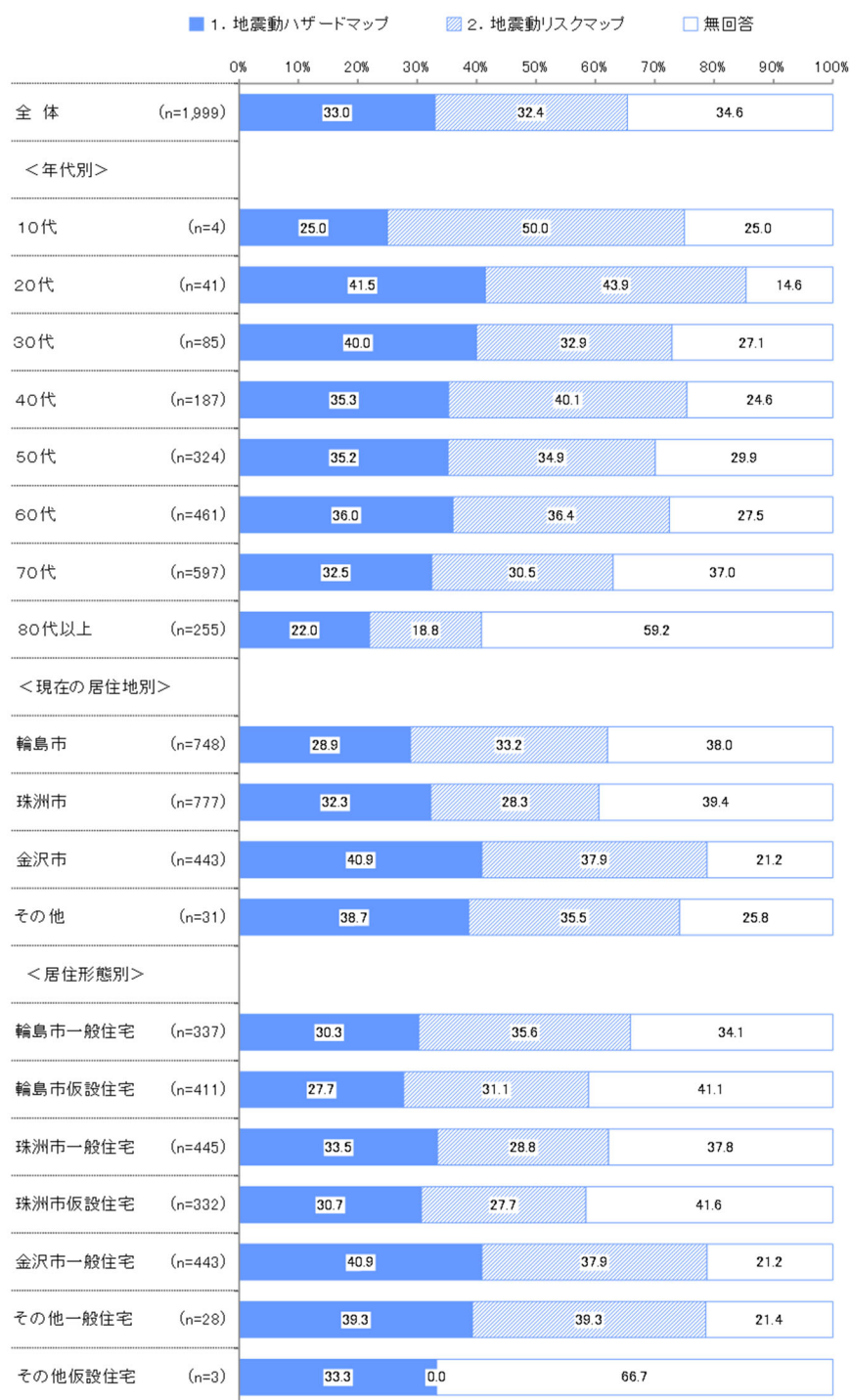
全体では、「1. 地震の起こりやすさマップ」が 45.9%、「2. 地震の揺れやすさマップ」が 23.1%となっている。

【(C) 「1. 地震リスクマップ」と「2. 地震危険度マップ」】



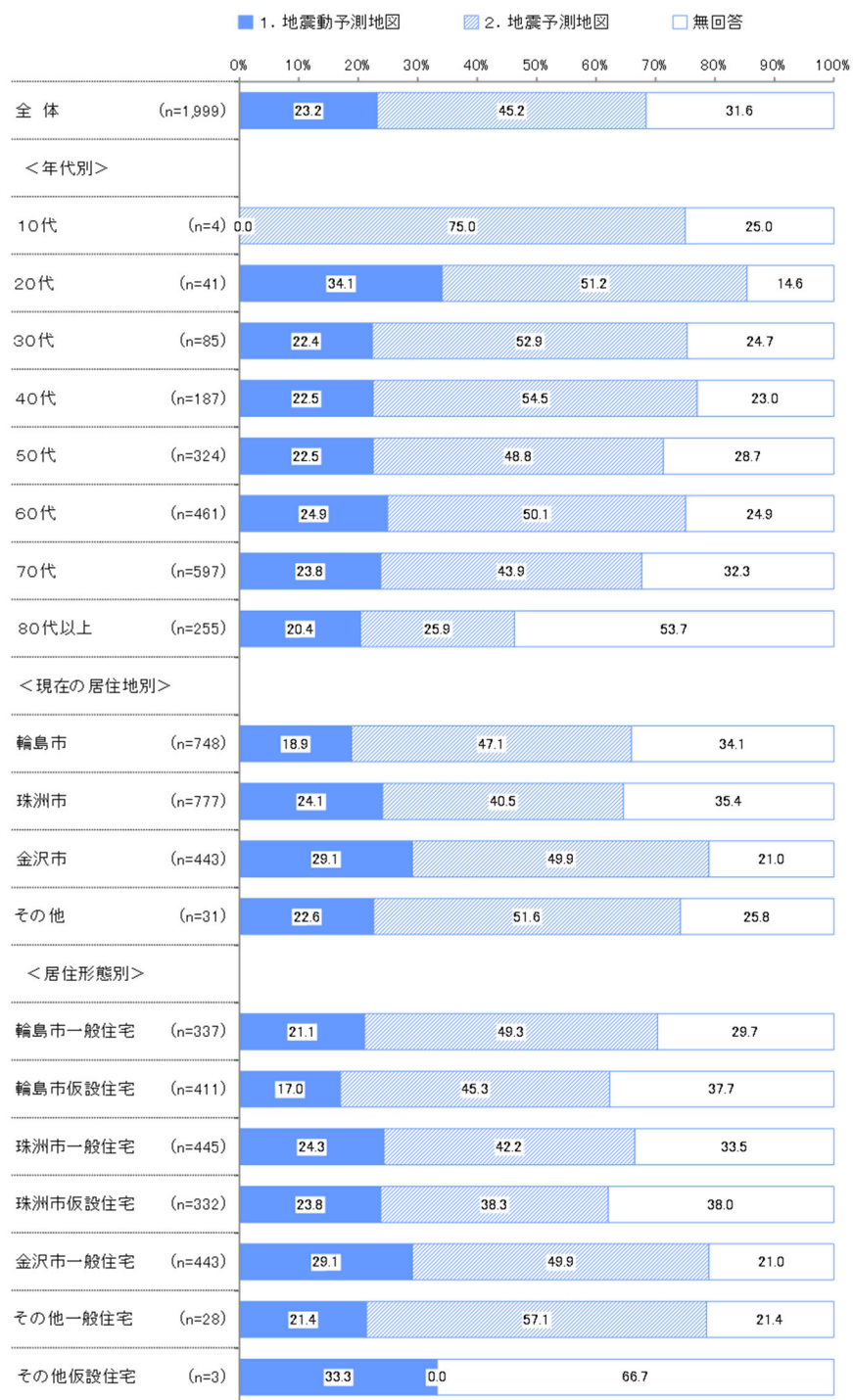
全体では、「1. 地震リスクマップ」が 14.0%、「2. 地震危険度マップ」が 56.9%となっている。

【(D) 「1. 地震動ハザードマップ」と「2. 地震動リスクマップ」】



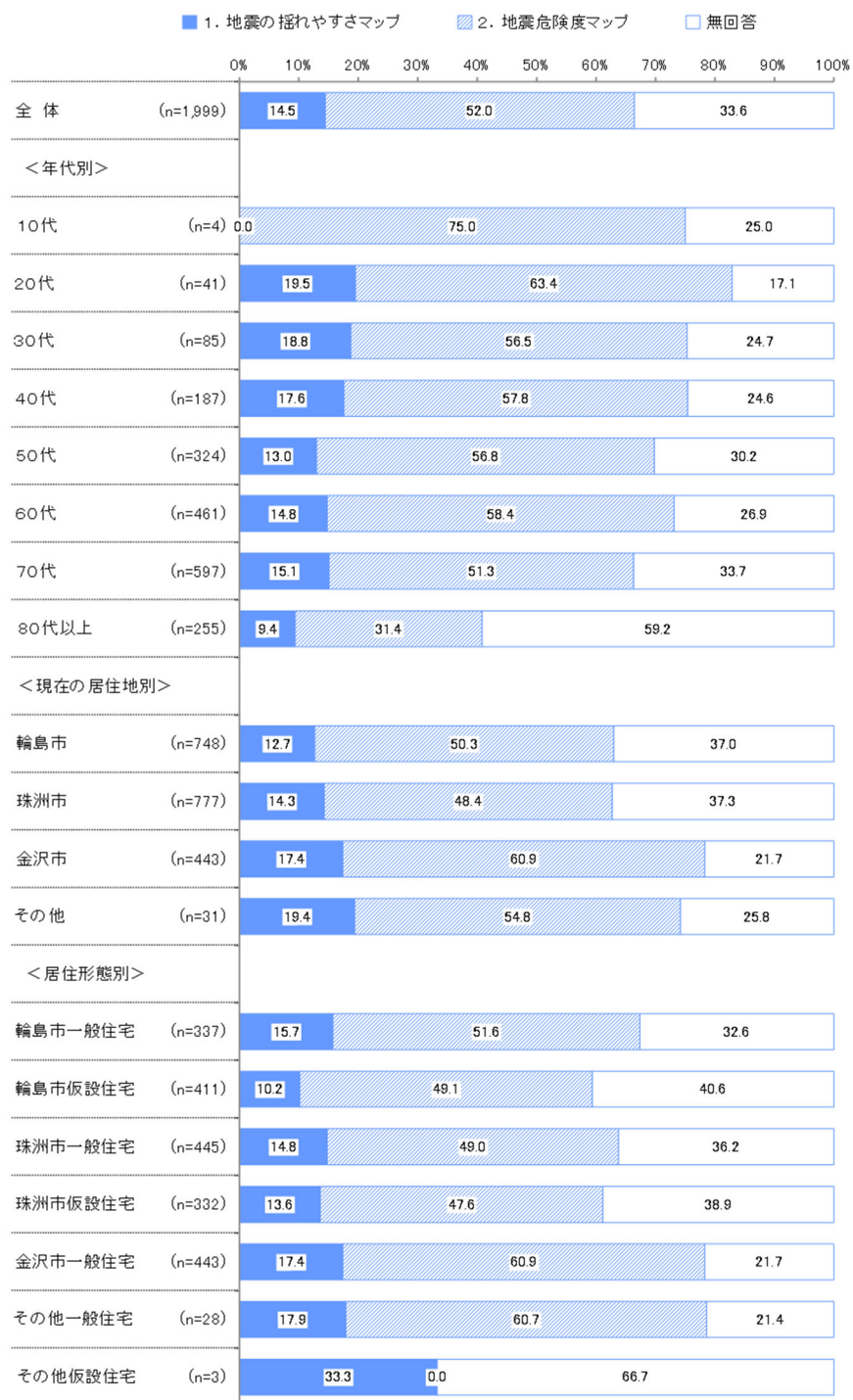
全体では、「1. 地震動ハザードマップ」が33.0%、「2. 地震動リスクマップ」が32.4%となっている。

【(E) 「1. 地震動予測地図」と「2. 地震予測地図」】



全体では、「1. 地震動予測地図」が 23.2%、「2. 地震予測地図」が 45.2%となっている。

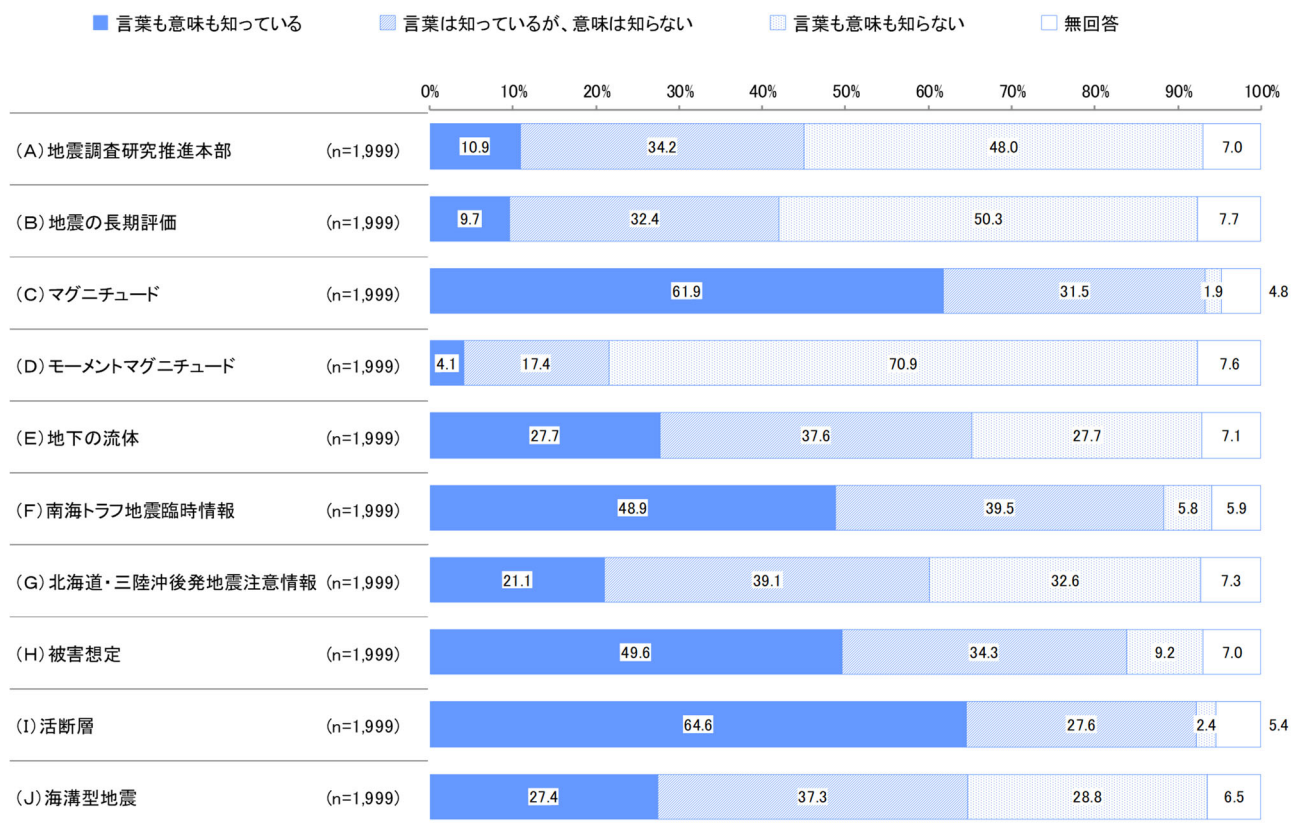
【(F) 「1. 地震の揺れやすさマップ」と「2. 地震危険度マップ」】



全体では、「1. 地震の揺れやすさマップ」が14.5%、「2. 地震危険度マップ」が52.0%となっている。

D. その他についてお伺いします。

問 2 5 . あなたは次の用語をご存知ですか



「言葉も意味も知っている」では、【(I)活断層】が 64.6%で最も高く、次いで【(C)マグニチュード】が 61.9%、【(H)被害想定】が 49.6%となっている。

「言葉は知っているが、意味は知らない」では、【(F)南海トラフ地震臨時情報】が 39.5%で最も高く、次いで【(G)北海道・三陸沖後発地震注意情報】が 39.1%、【(E)地下の流体】が 37.6%となっている。

「言葉も意味も知らない」では、【(D)モーメントマグニチュード】が 70.9%で最も高く、次いで【(B)地震の長期評価】が 50.3%、【(A)地震調査研究推進本部】が 48.0%となっている。

【（A）地震調査研究推進本部】



全体では、「言葉も意味も知らない」が 48.0%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 34.2%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[80代以上]で高い。

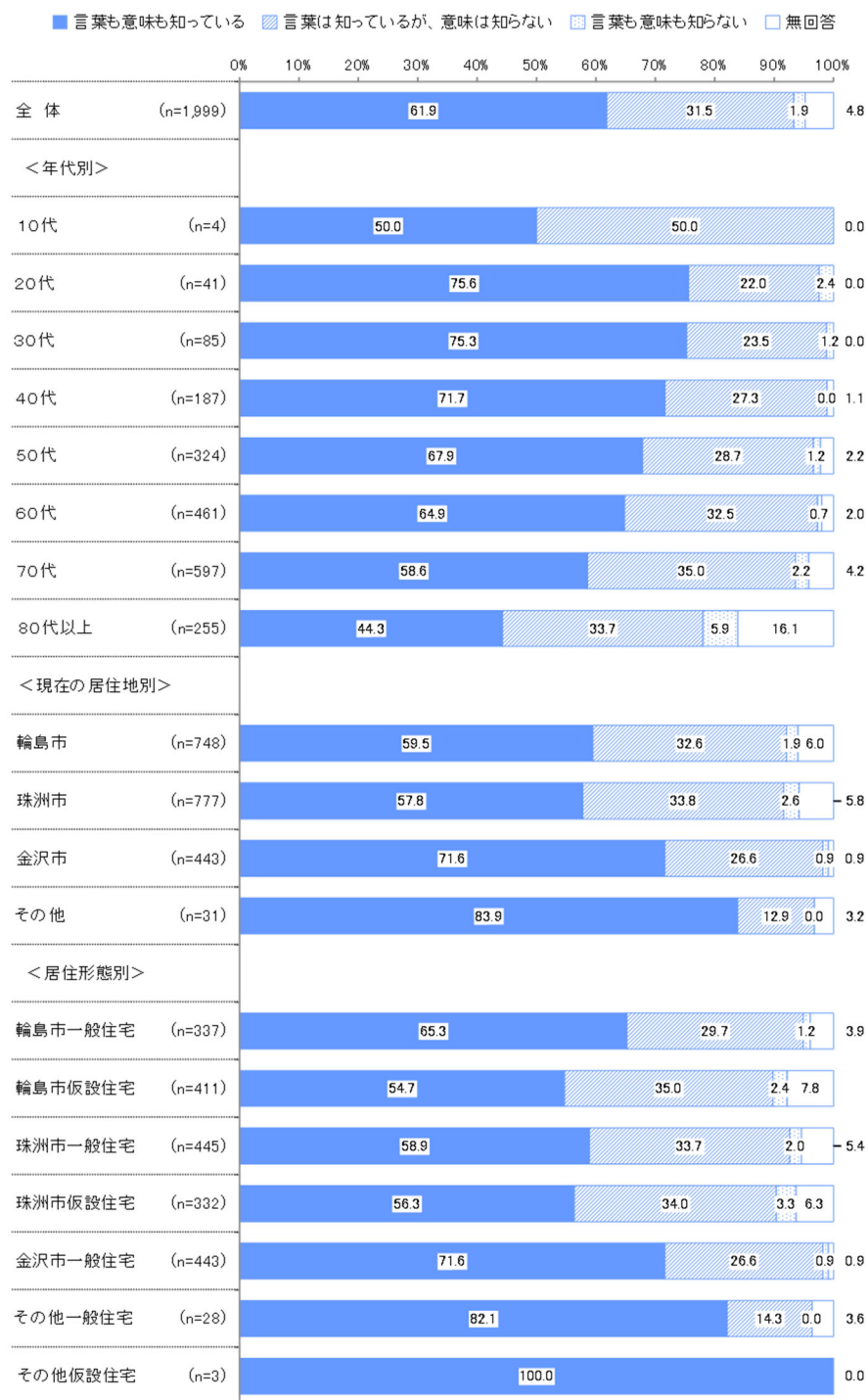
【（B）地震の長期評価】



全体では、「言葉も意味も知らない」が 50.3%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 32.4%となっている。

属性別でみると、「言葉も意味も知っている」は「30 代以降のいずれの年代や居住地においても 10%前後となっている。

【(C) マグニチュード】



全体では、「言葉も意味も知っている」が 61.9%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 31.5%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は年代が下がるにつれて高くなる傾向が見られる。

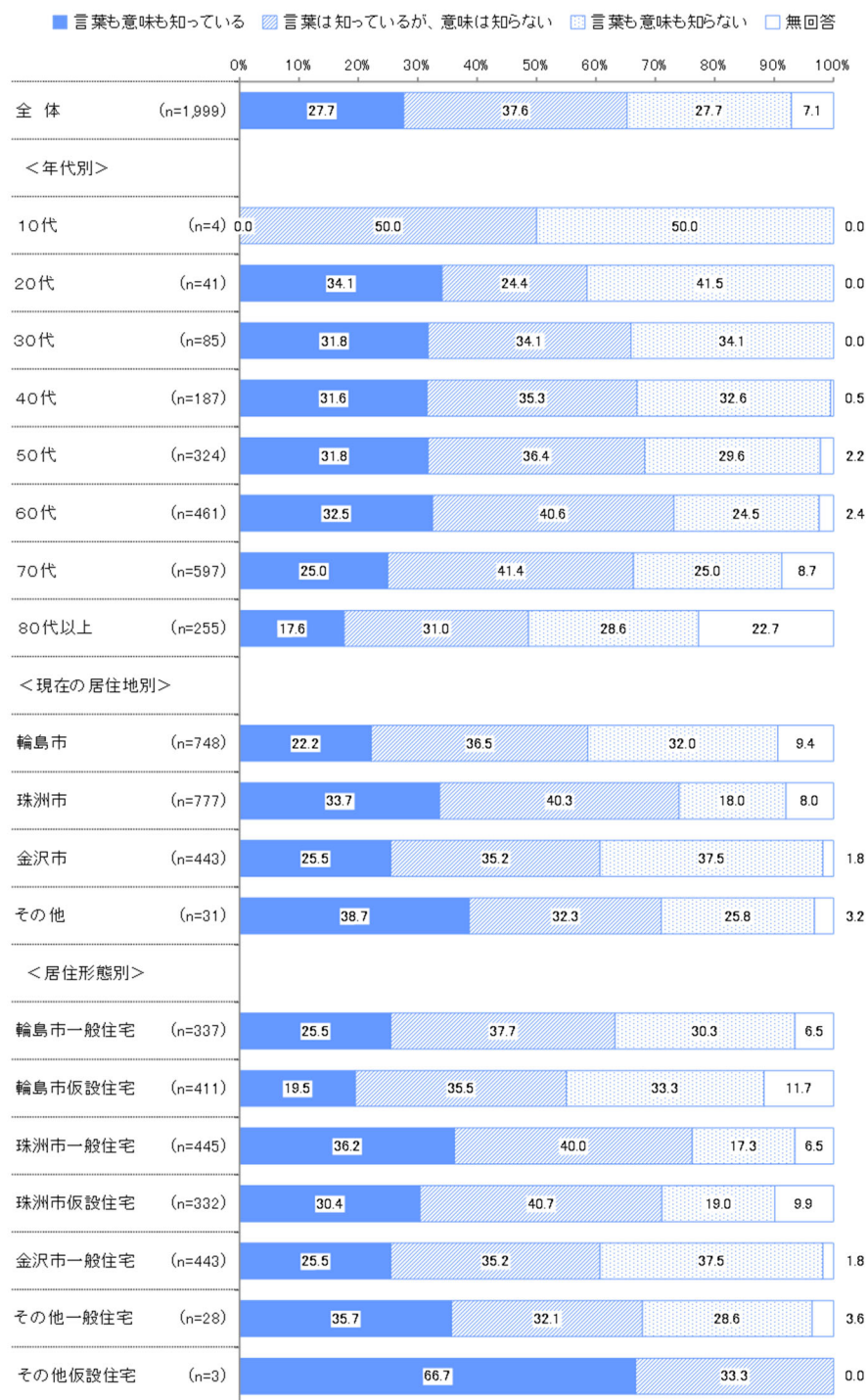
【(D) モーメントマグニチュード】



全体では、「言葉も意味も知らない」が70.9%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が17.4%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[20代]で高い。

【（E）地下の流体】

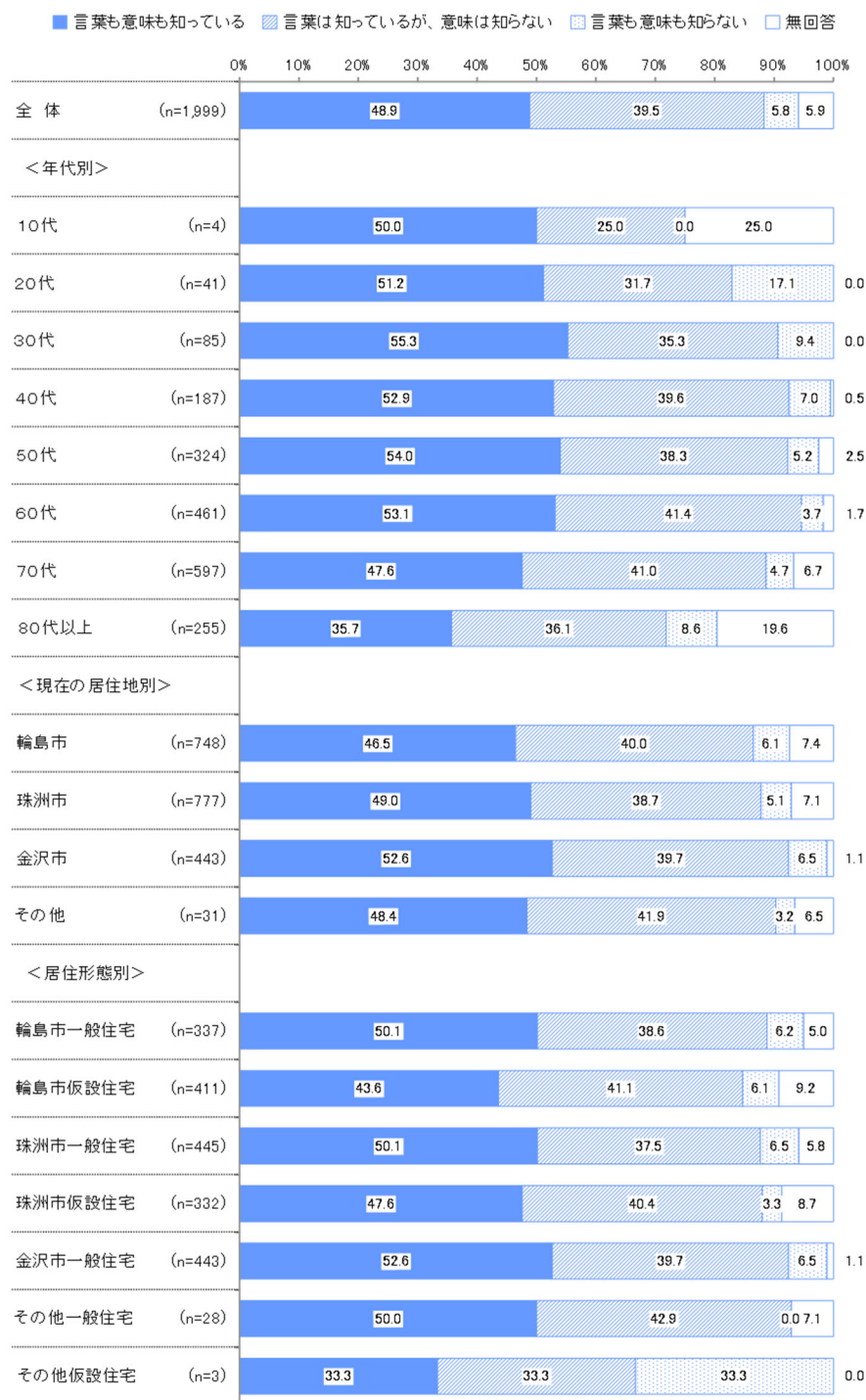


全体では、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 37.6%、「言葉も意味も知っている」「言葉も意味も知らない」が 27.7%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[20代]で高い。

<現在の居住地別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[珠洲市]で高い。

【（F）南海トラフ地震臨時情報】



全体では、「言葉も意味も知っている」が 48.9%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 39.5%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[30代]、[50代]で高い。

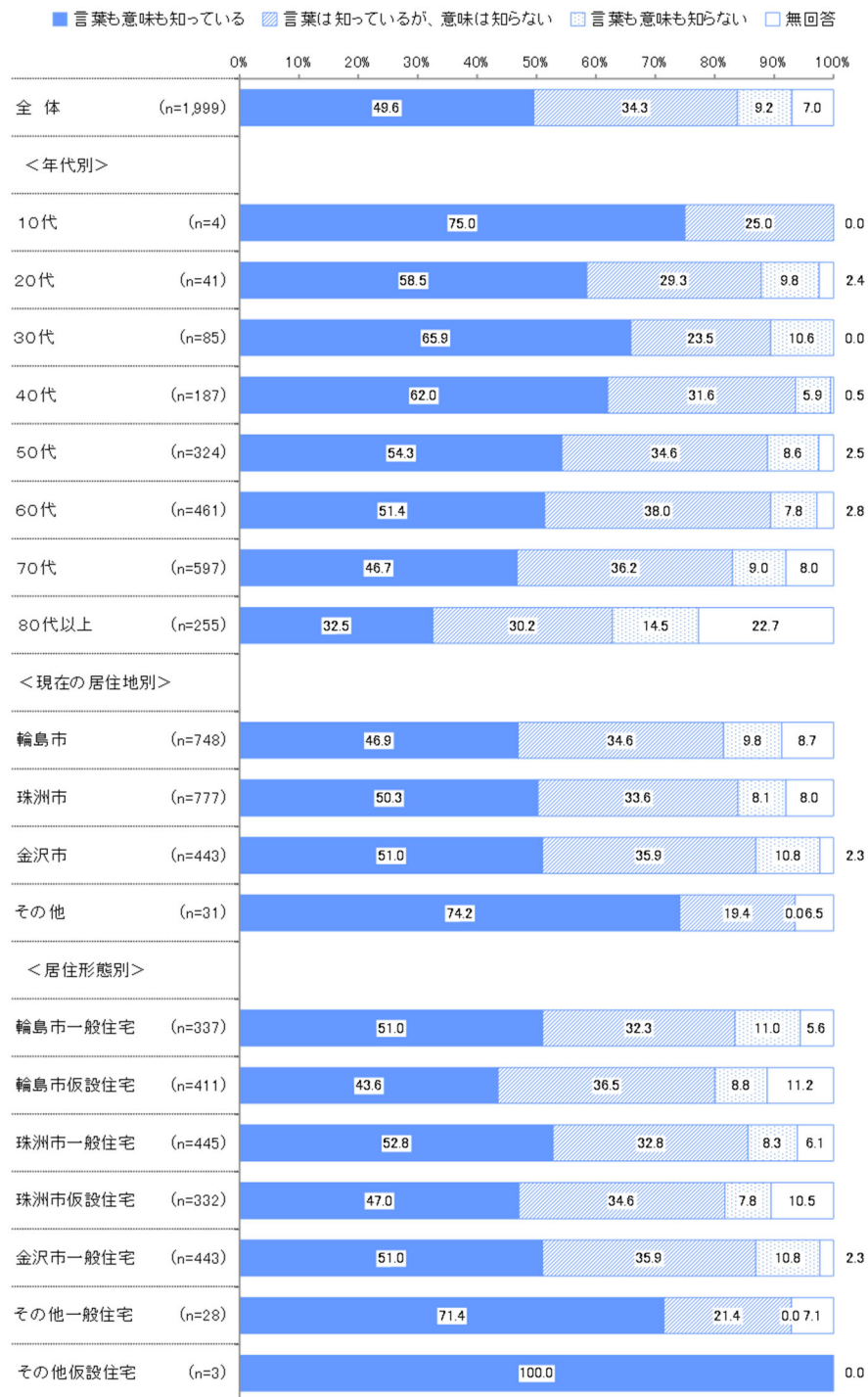
【（G）北海道・三陸沖後発地震注意情報】



全体では、「言葉は知っているが、意味は知らない」が39.1%、「言葉も意味も知らない」が32.6%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

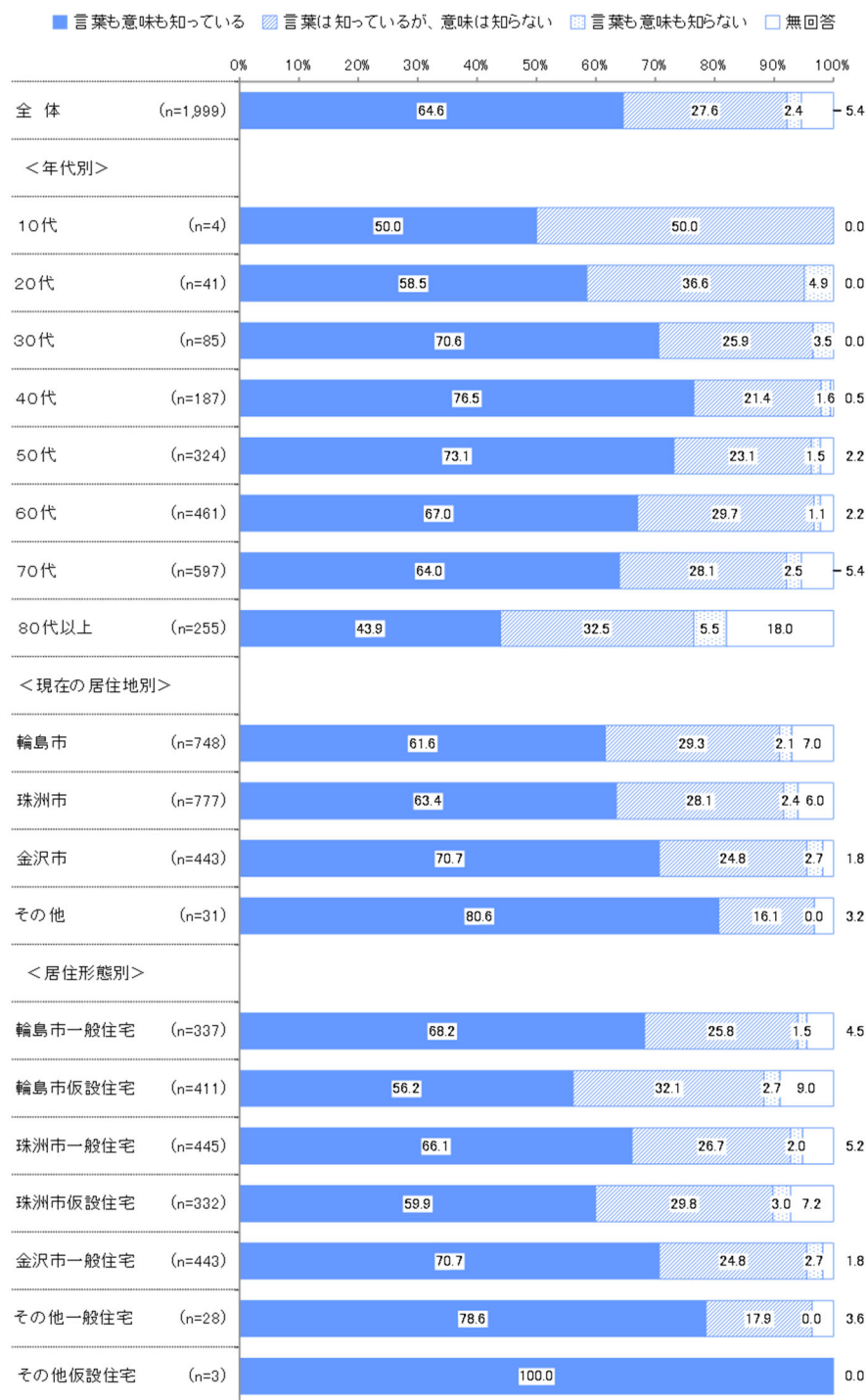
【(H) 被害想定】



全体では、「言葉も意味も知っている」が 49.6%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 34.3%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は、20代でやや低くなっているものの、概ね年代が下がるにつれて高くなる傾向が見られる。

【（Ⅰ）活断層】

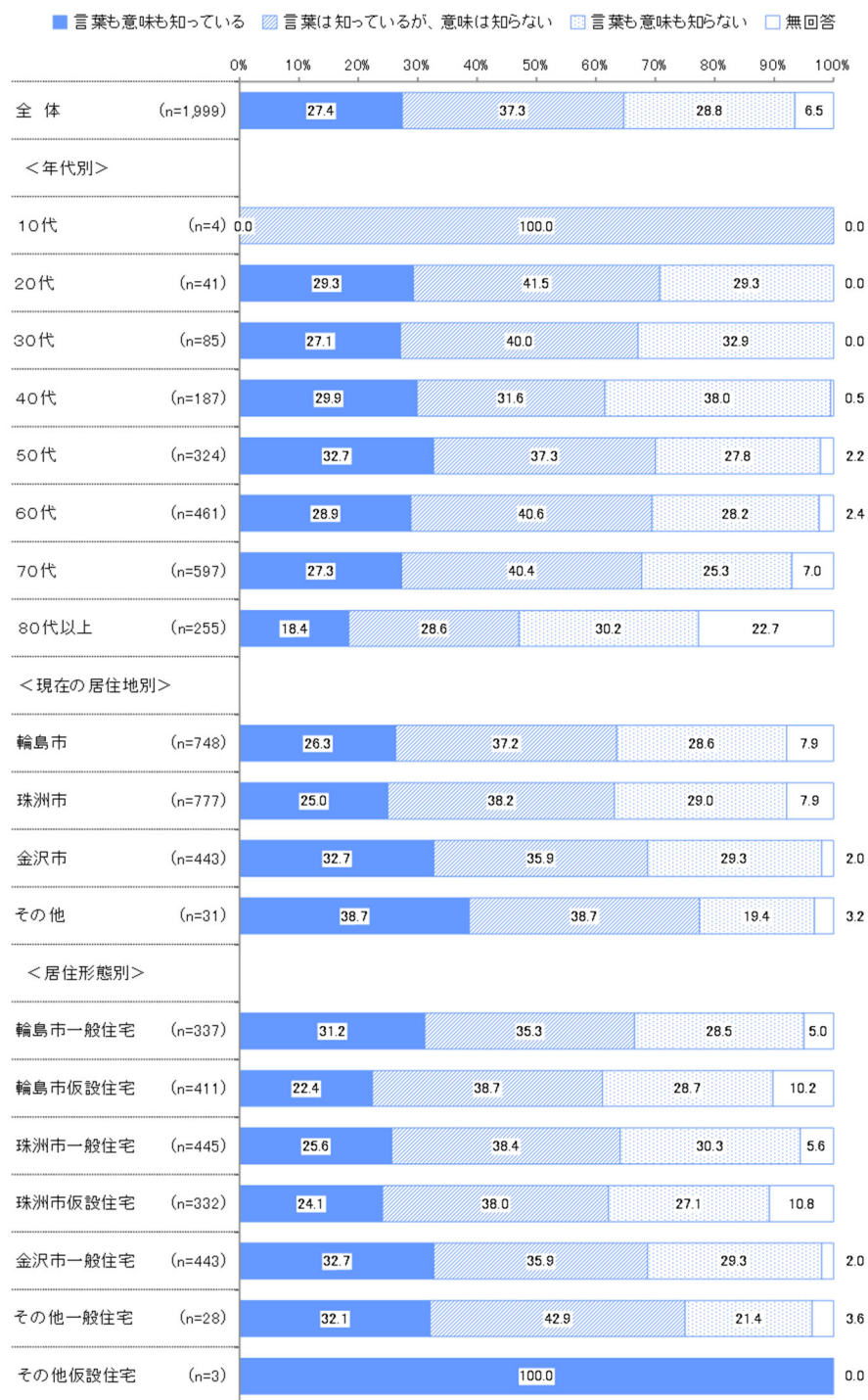


全体では、「言葉も意味も知っている」が 64.6%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 27.6%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[30代]、[40代]、[50代]で高い。

<現在の居住地別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[金沢市]で高い。

【（J）海溝型地震】



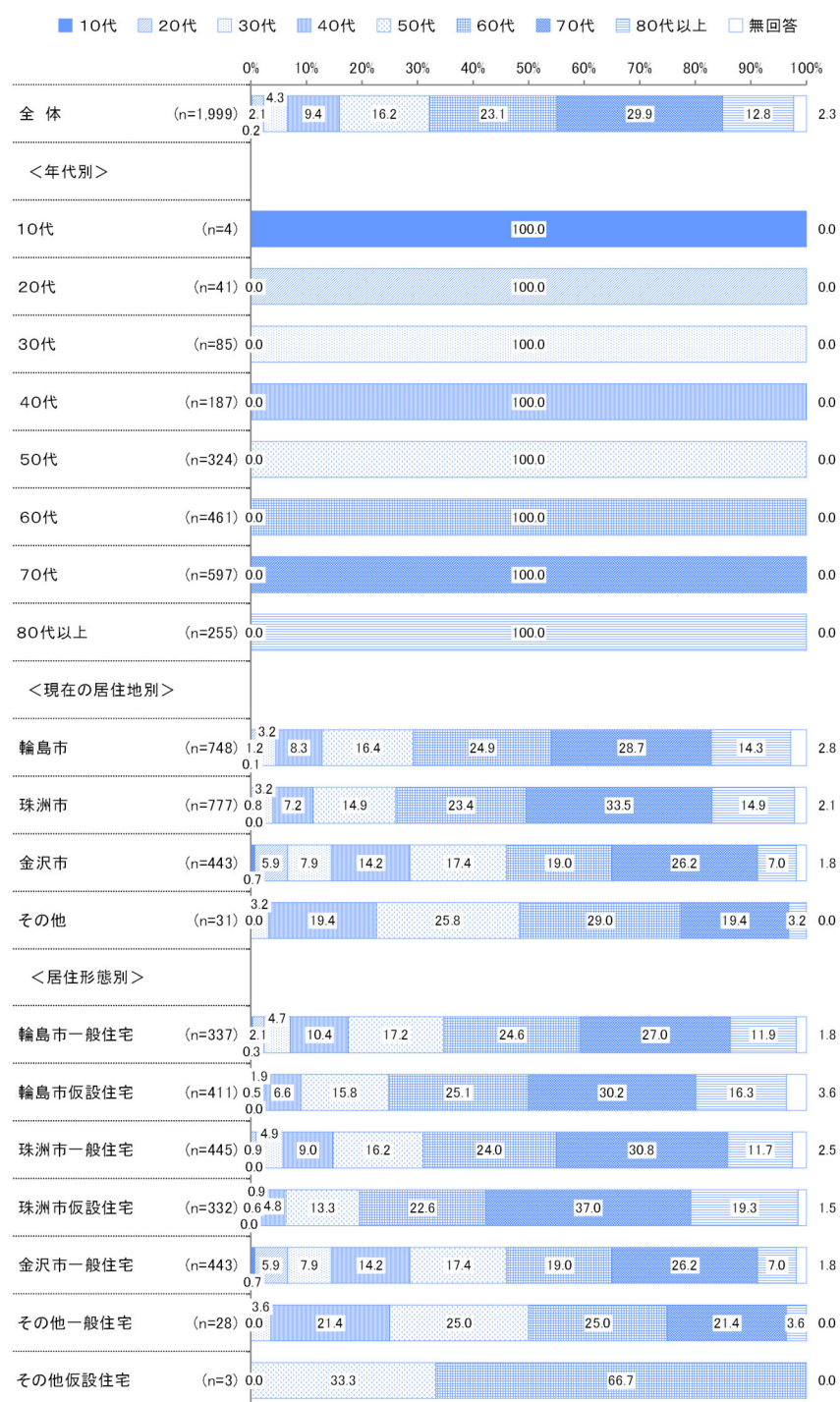
全体では、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 37.3%、「言葉も意味も知らない」が 28.8%となっている。

<年代別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[50代]で高い。

<現在の居住地別>にみると、「言葉も意味も知っている」は[金沢市]で高い。

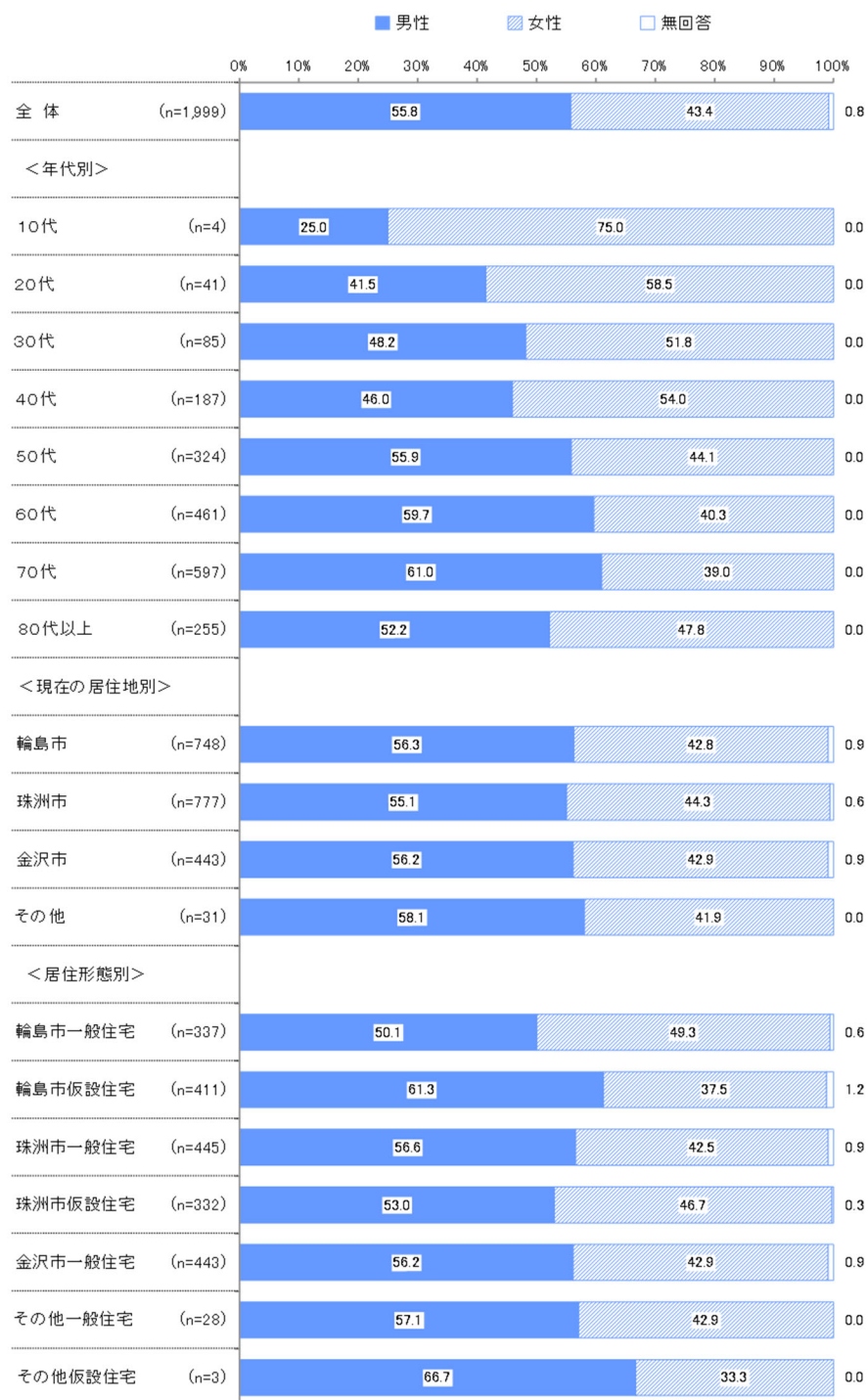
最後に、あなたご自身についてお伺いします。

F 1. あなたご自身の年齢を教えてください。



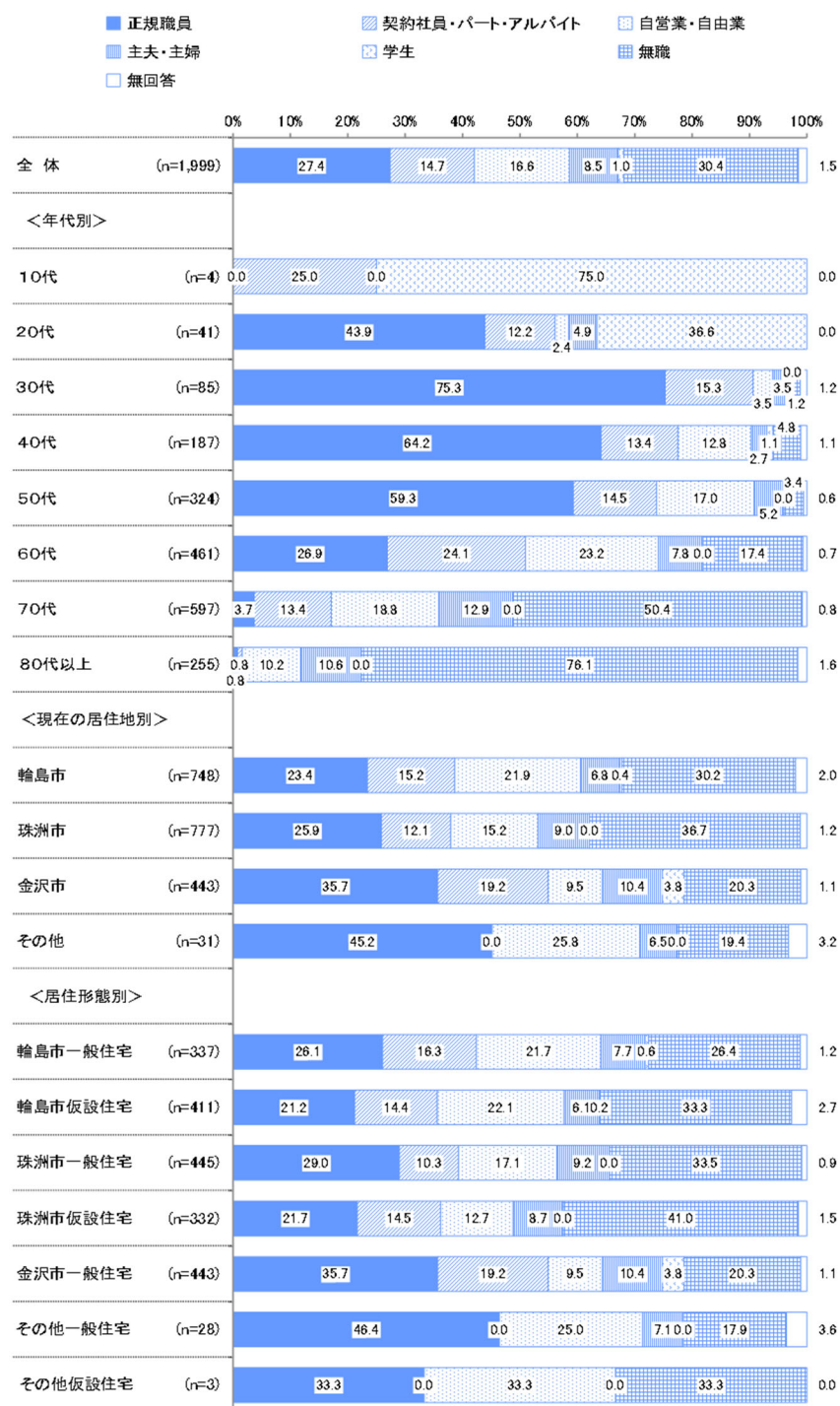
全体では、「70代」が29.9%で最も高く、次いで「60代」が23.1%、「50代」が16.2%となっている。

F 2. あなたご自身の性別を教えてください



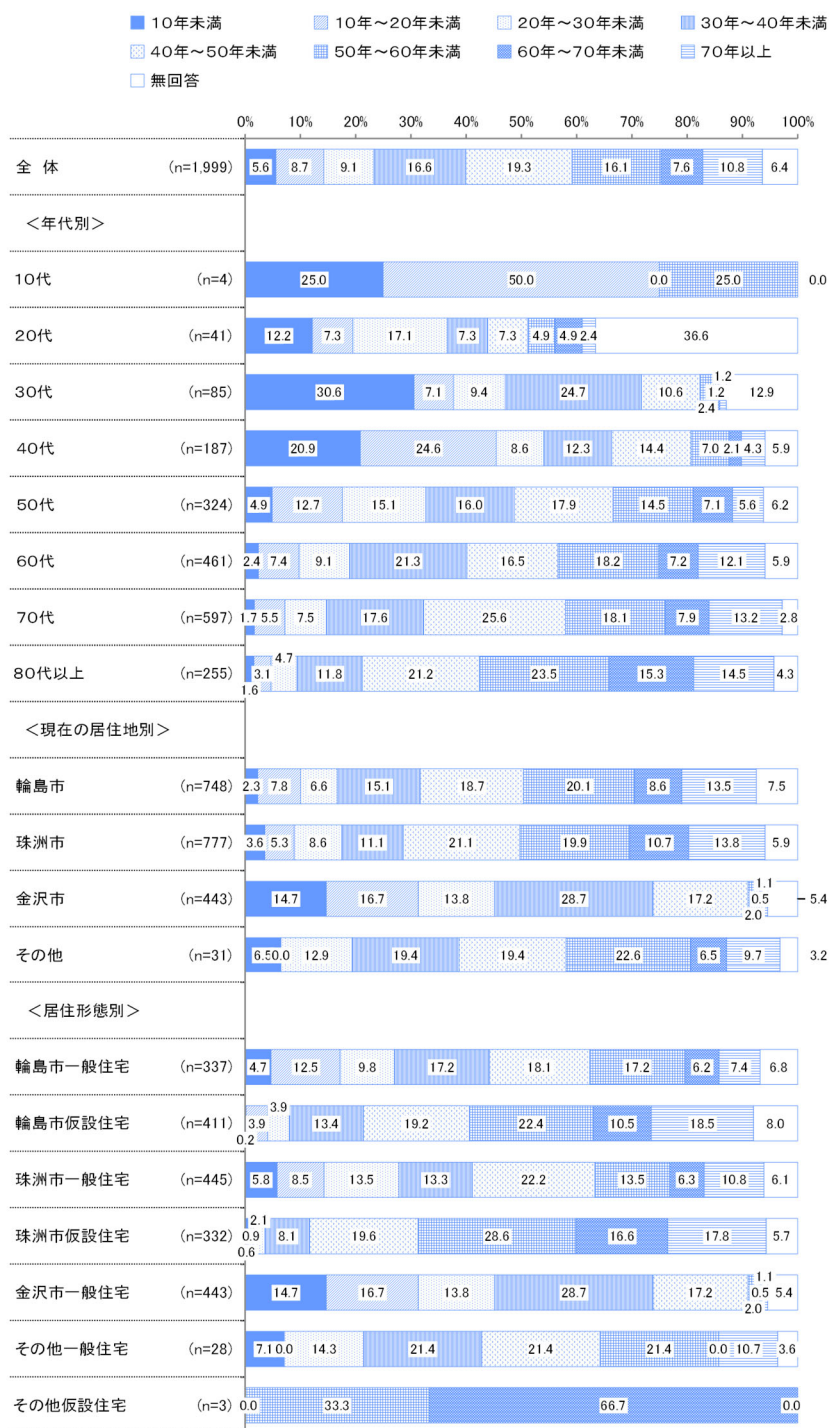
全体では、「男性」が 55.8%、「女性」が 43.4%となっている。

F 3. 2024年1月1日時点での、あなたご自身のご職業を教えてください



全体では、「無職」が30.4%で最も高く、次いで「正規職員」が27.4%、「自営業・自由業」が16.6%となっている。

F 4. 2024年1月1日時点での、あなたのご自宅は、築何年ですか。また、何年住んでいましたか。
【ご自宅の築年数】



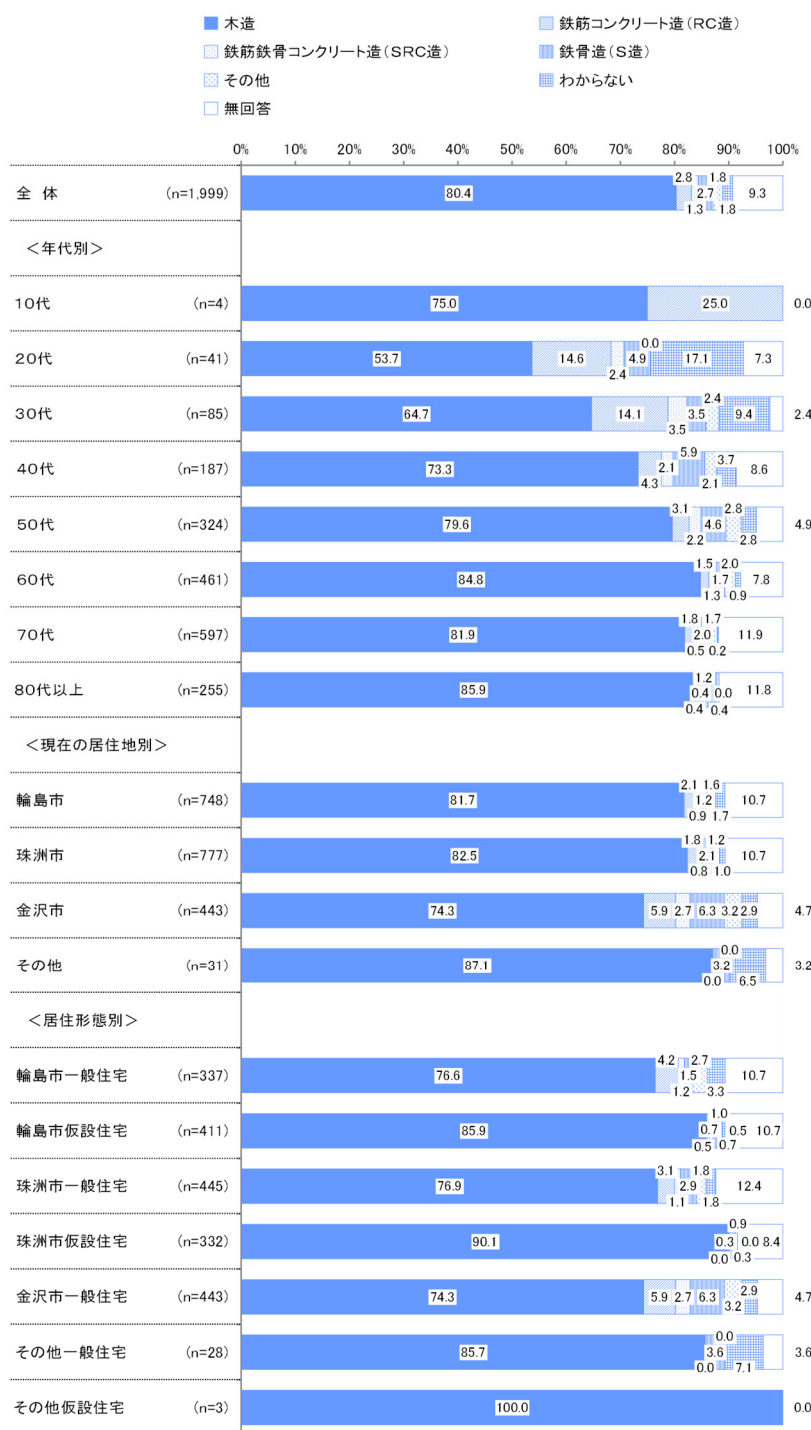
全体では、「40年～50年未満」が19.3%で最も高く、次いで「30年～40年未満」が16.6%、「50年～60年未満」が16.1%となっている。

F 4. 2024年1月1日時点での、あなたのご自宅は、築何年ですか。また、何年住んでいましたか。
【居住年数】



全体では、「40年～50年未満」が16.4%で最も高く、次いで「30年～40年未満」が15.1%、「50年～60年未満」が14.3%となっている。

F 5. 2024年1月1日時点での、ご自宅の建物の造りについて教えてください



全体では、「木造」が80.4%で最も高く、次いで「鉄筋コンクリート造(RC造)」が2.8%、「鉄骨造(S造)」が2.7%となっている。

IV. 添付資料

「令和6年能登半島地震時の輪島市大規模火災に関する調査」
調査票

令和6年能登半島地震に関する調査

文部科学省 研究開発局 地震火山防災研究課

ご記入にあたってのお願い

- 本アンケートは、世帯主またはそれに準ずる方おひとりにご回答をお願いします。
- 本アンケートが事業所に配布されている場合には、お手数ですがご回答せずに破棄いただきますようお願い申し上げます（事務所兼用住宅の場合はご回答をお願いします）。
- ご記入は鉛筆または黒のボールペンでお願いいたします。
- ご回答の方法は、あてはまる番号を選んで数字に○をつけていただくものと、具体的な内容や数字を書いていただくものがあります。
- あてはまる番号に○をつけていただく質問では、「1 つだけ○」「いくつでも○」など、回答数の指示に従ってください。
- 「その他」を選ばれた場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入下さい。
- 質問によっては、次に進む質問箇所が異なる場合がありますので、表示に従ってご記入ください。
- ご記入いただいたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れ、12月29日（日）までに郵便ポストにご投函ください。

A. 2024 年 1 月 1 日の能登半島地震についてお聞きします。

問1. あなたの地震発生当時のお住まいはどちらですか。(1つだけ○)

1. 輪島市
2. 珠洲市
3. 金沢市
4. その他（具体的に： ）

問2. あなたは、現在、どちらで生活されていますか。(1つだけ○)

1. 輪島市
2. 珠洲市
3. 金沢市
4. その他（具体的に： ）

問3. 2024年1月1日の地震発生時、あなたはどこにいましたか。(1つだけ○)

1. 石川県内にいた 2. 石川県内にいなかった → 問4へ

【問3で「1. 石川県内にいた」と回答した方へのご質問です】

附問3-1 石川県内のどこにいましたか。(1つだけ○)

1. 自宅
2. 親戚の家
3. 知人の家
4. 勤務先
5. 移動中の乗り物
6. 外出先（石川県内）

問4. あなたのお住まいは、2024年1月1日の地震で被害がありましたか。（1つだけ○）

1. 地震で被害を受けて住めなくなり、現在は仮設住宅に住んでいる
2. 地震で被害を受けて住めなくなり、現在は別の家に住んでいる
3. 地震で被害を受けて一時的に住めなくなったが、現在は元住んでいた家に住んでいる → 問5へ
4. 地震で多少被害はあったが、避難することなく、元住んでいた家に住んでいる → 問5へ
5. 地震による被害はほとんどなかった → 問5へ

【問4で「1. 地震で被害を受けて住めなくなり、現在は仮設住宅に住んでいる」「2. 地震で被害を受けて住めなくなり、現在は別の家に住んでいる」と回答した方へのご質問です】

附問4-1 被害で住めなくなった原因は主に何によるものですか。（1つだけ○）

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 地震の揺れ | 4. 火災 |
| 2. 液状化・地盤の被害 | 5. 津波の浸水 |
| 3. 土砂崩れ | 6. その他（具体的に： _____） |

問5. 2024年1月1日のような大きな地震に備え、事前に以下のような情報を、どの程度知りたかったですか。（（A）～（F）矢印の方向それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに○を1つずつ）

		1 とても 知りたかった	2 やや 知りたかった	3 どちらとも いえない	4 あまり 知りたく なかった	5 まったく 知りたく なかった
(A)	地震の規模 （どれくらい大きな地震が起こるのか） →	1	2	3	4	5
(B)	地震がくる時期 （いつ頃大きな地震が起こるのか） →	1	2	3	4	5
(C)	地震がくる場所 （どこで大きな地震が起こるのか） →	1	2	3	4	5
(D)	自宅付近の地盤のかたさ （自宅がどれくらい揺れやすいのか） →	1	2	3	4	5
(E)	自宅の耐震性 （自宅が倒れたり壊れたりしないか） →	1	2	3	4	5
(F)	地震が発生する確率 （どれくらいの確率で地震が起こるか） →	1	2	3	4	5

問6. あなたは、お住まいの地域で2024年1月1日の能登半島地震のような被害をおよぼす大きな地震が起こると思っていましたか。（1つだけ○）

1. 大きな地震が起こると思っていた → 附問6-1へ
2. 大きな地震が起こるとは思っていなかった → 附問6-2へ

【問6で「1. 大きな地震が起こると思っていた」と回答した方へのご質問です】

附問6-1. 「大きな地震が起こると思っていた」理由をお聞かせください。（いくつでも○）

1. 2022年6月や2023年5月に大きな地震があったから
2. 2020年12月頃から、群発地震が続いていたから
3. 2007年3月に、平成19年能登半島地震があったから
4. テレビや新聞で、大きな地震が起こる可能性があると言っていたから
5. 地震研究者や大学の先生など専門家が、大きな地震が起こる可能性があると言っていたから
6. 家族や知人・友人など身近な人が、大きな地震が起こる可能性があると言っていたから
7. 自治体の職員が、大きな地震が起こる可能性があると言っていたから
8. 地震動予測地図を見ていたから
9. 日本に住んでいれば、いつかは、大きな地震にあうと思っていたから
10. 理由はないが、何となく
11. その他（具体的に： _____）

【問6で「2. 大きな地震が起こるとは思っていなかった」と回答した方へのご質問です】

附問6-2. 「大きな地震が起こるとは思っていなかった」理由をお聞かせください。（いくつでも○）

1. 2022年6月や2023年5月に大きな地震があったので、大きな地震がもう起こると思わなかった
2. 2020年12月頃から群発地震が続いていたが、大きな地震が起こると思わなかった
3. 2007年3月に、平成19年能登半島地震があったので、大きな地震がもう起こると思わなかった
4. テレビや新聞で、大きな地震が起こるとは言っていなかった
5. 地震研究者や大学の先生など専門家が、大きな地震が起こるとは言っていなかった
6. 家族や知人・友人など身近な人が、大きな地震が起こるとは言っていなかった
7. 自治体の職員が、大きな地震が起こるとは言っていなかった
8. 地震動予測地図を見ていたので
9. 日本に住んでいるとはいえ、自分の住んでいる地域でこれほど大きな地震が起こるとは思っていなかった
10. 理由はないが、何となく
11. その他（具体的に： _____）

問7. 2024年1月1日の地震直後の1か月間、以下の時間は、地震発生前と比べて増えましたか。それとも減りましたか。（（A）～（E）矢印の方向それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに○を1つずつ）

		1 とても 増えた	2 少し 増えた	3 あまり 変わらない	4 少し 減った	5 とても 減った
(A)	テレビを見る時間 →	1	2	3	4	5
(B)	携帯電話やスマホを見る時間 →	1	2	3	4	5
(C)	ラジオを聞く時間 →	1	2	3	4	5
(D)	新聞を読む時間 →	1	2	3	4	5
(E)	電話やスマホで通話する時間 →	1	2	3	4	5

B. 耐震化や地震対策についてお伺いします。

問 8. 2024 年 1 月 1 日の地震が発生する前、地元にある大学の地震研究者が、能登半島における地震の注意を呼びかけていました。あなたは、このことをご存知でしたか。（1 つだけ○）

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. よく知っていた | 3. あまり知らなかった |
| 2. ある程度は知っていた | 4. まったく知らなかった |

問 9. 2021 年頃から 2024 年 1 月 1 日の能登半島地震の前まで、政府の地震調査研究推進本部地震調査委員会は定例記者会見において、能登半島における地震の注意を呼びかけてきました。あなたは、このことを、どの程度ご存知でしたか。（1 つだけ○）

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. よく知っていた | 3. あまり知らなかった |
| 2. ある程度は知っていた | 4. まったく知らなかった |

問 10. 2024 年 1 月 1 日の地震発生時点で、あなたのご自宅は、耐震化していましたか（1 つだけ○）

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| 1. 耐震診断を行い、耐震化していた | →附問 10-1 へ |
| 2. 耐震診断は行ったが、耐震化していなかった | →附問 10-2 へ |
| 3. 耐震診断も耐震化も、していなかった | →附問 10-2 へ |
| 4. 新耐震以降の建物なので、耐震診断や耐震化をする必要がなかった | →次ページ問 11 へ |
| 5. 耐震化していたかどうか、わからない | →次ページ問 11 へ |

【問 10 で「1. 耐震診断を行い、耐震化していた」と回答した方へのご質問です】

附問 10-1 ご自宅を耐震化した理由をお聞かせください（いくつでも○）

1. 過去の地震（平成 19 年能登半島地震や群発地震）で被害を受けて修繕していたから
2. 大きな地震（平成 19 年能登半島地震、東日本大震災、熊本地震など）があったから
3. 地震とは関係なく、リフォームし耐震化も行ったから
4. メディア（テレビや新聞、インターネットなど）を通して耐震化の必要性を感じたから
5. 自治体の説明会や勉強会に参加して耐震化の必要性を感じたから
6. 防災イベントや防災訓練に参加して耐震化の必要性を感じたから
7. 家族や知人・友人など身近な人が耐震化をしたから
8. 家族や知人・友人など身近な人に耐震化をすすめられたから
9. 地震動予測地図をみて耐震化した方がよいと思ったから
10. 何となくやった方がよさそうだったから
11. その他（具体的に： _____）

【問 10 で「2. 耐震診断は行ったが、耐震化していなかった」「3. 耐震診断も耐震化も、していなかった」と回答した方へのご質問です】

附問 10-2 ご自宅を耐震化しなかった理由をお聞かせください（いくつでも○）

1. 時間的余裕がなかったから
2. 金銭的余裕がなかったから
3. 自分の後に住む人がいないから
4. 面倒だったから
5. これほど大きな地震が起こると思わなかったから
6. 補助金の申請の仕方がわからなかったから
7. 耐震化しても、あまり効果はないと思ったから
8. 耐震診断で問題がないと言われたから
9. 地震動予測地図をみて耐震化しなくてもよいと思ったから
10. 何となく、やらなくてもよさそうだったから
11. どのような手順で行ったらよいかわからなかったから
12. その他（具体的に： _____）

問 11. 2024 年 1 月 1 日の地震発生時点で、あなたは耐震化以外の地震対策を行っていましたか。
(いくつでも○)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 非常用持ち出し袋の準備 | 9. ガラス飛散防止 |
| 2. 水の備蓄 | 10. ブロック塀転倒防止 |
| 3. 食料の備蓄 | 11. 転居 |
| 4. 家具の転倒防止 | 12. 地震に備えた家族の話し合い |
| 5. 地震保険への加入 | 13. ラジオの準備 |
| 6. 避難所・避難場所の確認 | 14. 寝袋や毛布の準備 |
| 7. 避難所・避難場所への道順の確認 | 15. その他（具体的：_____） |
| 8. 地震避難訓練・防災訓練への参加 | 16. 地震対策は行っていない → 問 12 へ |

【問 11 で、対策を行っていた方（「1」～「15」に 1 つ以上○がついた方）へのご質問です】

附問 11-1. 地震対策を行い始めた時期はいつですか。以下の中から、あてはまるものをいくつでもお答えください。(いくつでも○)

- | |
|---|
| 1. ずっと前（1995 年より前）から地震対策を行っていた |
| 2. 1995 年阪神淡路大震災後に地震対策を始めた |
| 3. 2007 年能登半島地震後に地震対策を始めた |
| 4. 2011 年東日本大震災後に地震対策を始めた |
| 5. 2016 年熊本地震後に地震対策を始めた |
| 6. 2020 年頃からの群発地震後に地震対策を始めた |
| 7. 2022 年 6 月の珠洲市を中心とする能登半島での地震後に地震対策を始めた |
| 8. 2023 年 5 月の珠洲市を中心とする能登半島での地震後に地震対策を始めた |
| 9. その他（具体的に：_____） |

問 12. 2024 年 1 月 1 日の地震が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに参考にしていましたか。(いくつでも○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 家族・親戚 | 6. 気象庁職員 |
| 2. 友人・知人 | 7. テレビなどのコメンテーター |
| 3. 町内会、自主防災組織のリーダー | 8. その他（具体的に：_____） |
| 4. 自治体職員 | 9. 参考にしていない |
| 5. 地震学者 | |

問 13. 2024 年 1 月 1 日の地震が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに情報源として参考に使っていたメディアはありましたか。(いくつでも○)

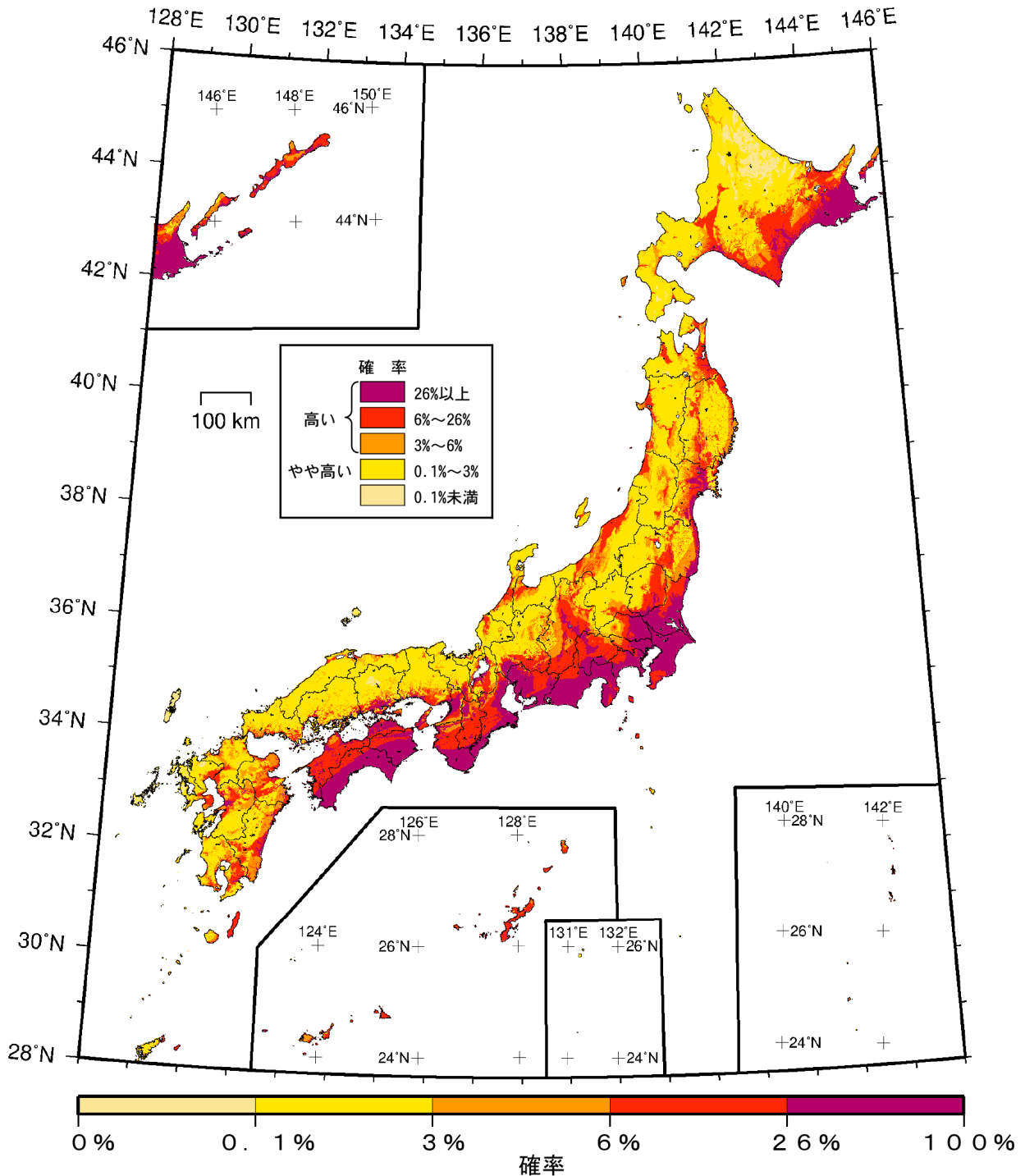
- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. テレビ（NHK） | 6. 雑誌 |
| 2. テレビ（民放） | 7. インターネット |
| 3. ラジオ | 8. SNS |
| 4. 新聞（地方紙） | 9. その他（具体的に：_____） |
| 5. 新聞（全国紙） | 10. 参考に使っていたメディアはない |

問 14. 2024 年 1 月 1 日の地震が発生する前、地震や地震対策のことを知るのに参考に使っていた国や自治体の情報はありましたか。(いくつでも○)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 自治体（市町）のハザードマップや防災マップ | 6. 地震動予測地図 |
| 2. 自治体（市町）の地域防災計画 | 7. その他 |
| 3. 自治体（市町）の防災情報 | （具体的に：_____） |
| 4. 自治体（県）の防災情報 | 8. 参考に使っていた国や自治体の情報はない |
| 5. 気象庁による地震の情報 | |

C. 地震動予測地図（確率論的地震動予測地図）についてお伺いします。

以下は、政府の地震調査研究推進本部が作成した地震動予測地図です。図を見て、質問にお答えください。



（モデル計算条件により確率ゼロのメッシュは白色表示）

確率論的地震動予測地図

今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

図 地震動予測地図

問 15. あなたは、図のような「地震動予測地図」を見たことがありますか。（1つだけ○）

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 見たことがある | 2. 見たことがない（今回初めて見た） |
|------------|---------------------|

問 16. 地震動予測地図は、何を示した地図だと思えますか。あなたの捉え方に、より近い方を1つお選びください。（1つだけ○）

- | |
|--|
| 1. 日本のどの場所が、地震による激しい揺れにみまわれる可能性が高いかを示した地図 |
| 2. 日本のどの場所であっても、地震による激しい揺れにみまわれる可能性があることを示した地図 |

問 17. 「地震」と「地震動」についてお聞きします。地震は「地下で起こる現象」、地震動は「それ（地震）によって起こる揺れ」を指しています。あなたはそのことをご存知でしたか。（1つだけ○）

- | |
|---------------------------------|
| 1. 地震と地震動の違いを知っていたし、使い分けていた |
| 2. 地震と地震動の違いを知っていたが、使い分けてはいなかった |
| 3. 地震と地震動の違いを知らなかった |
| 4. 何を言っているのかよくわからない |

問 18. あなたは、地図の中の黄色い部分  について、どの程度、大きな地震が起こりやすいと思えますか。（1つだけ○）

- | |
|-----------------|
| 1. 非常に地震が起こりやすい |
| 2. 地震が起こりやすい |
| 3. やや地震が起こりやすい |
| 4. どちらともいえない |
| 5. やや地震が起こりにくい |
| 6. 地震が起こりにくい |
| 7. 非常に地震が起こりにくい |

問 19. あなたは、地図の中の赤色の部分   について、どの程度、大きな地震が起こりやすいと思えますか。（1つだけ○）

- | |
|-----------------|
| 1. 非常に地震が起こりやすい |
| 2. 地震が起こりやすい |
| 3. やや地震が起こりやすい |
| 4. どちらともいえない |
| 5. やや地震が起こりにくい |
| 6. 地震が起こりにくい |
| 7. 非常に地震が起こりにくい |

問 20. 地図の黄色い部分  分は、30年以内に震度6弱以上の地震の揺れにみまわれる確率が「0.1～3.0%」です。この確率をふまえて、あなた個人として対策が必要だと思いますか。（1つだけ○）

- | |
|------------------------|
| 1. 非常に対策の必要性を感じる |
| 2. 対策の必要性を感じる |
| 3. どちらかといえば対策の必要性を感じる |
| 4. どちらかといえば対策の必要性を感じない |
| 5. 対策の必要性を感じない |
| 6. まったく対策の必要性を感じない |

問 21. 6 ページに掲載している地震動予測地図を見て、あなたはどのように思いますか。次の A～D の見方について、お考えをお聞かせください。((A)～(D) 矢印の方向それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに○を1つずつ)

		1 強く そう思う	2 やや そう思う	3 どちらとも 言えない	4 あまりそう 思わない	5 まったく そう思わない
(A)	自分が住んでいる市は、大きな地震の発生確率が高い →	1	2	3	4	5
(B)	自分が住んでいる市は、比較的安全だ →	1	2	3	4	5
(C)	自分が住んでいる市は、大きな地震の対策は必要なさそう →	1	2	3	4	5
(D)	自分が住んでいる市は、大きな地震が起こりやすそうで、不安だ →	1	2	3	4	5

問 22. 最新の地震学に基づけば、地震の予測は、どの程度可能だと思いますか。(1つだけ○)

1. 今後 30 年以内に起こりうる地震は、すべて予測可能だと思う
2. 今後 30 年以内に起こりうる地震の、ほとんどが、予測可能だと思う
3. 今後 30 年以内に起こりうる地震の、4 分の 3 くらいが、予測可能だと思う
4. 今後 30 年以内に起こりうる地震の、半分くらいが、予測可能だと思う
5. 今後 30 年以内に起こりうる地震の、4 分の 1 くらいが、予測可能だと思う
6. 今後 30 年以内に起こりうる地震は、ごくまれに、予測可能だと思う
7. 今後 30 年以内に起こりうる地震は、まったく予測できないと思う

問 23. 地震は、そもそも規則的に起こるものではなく、いつ起こるかわからないものなので、将来の地震については確率であらわす必要があります。また、地震動予測地図は活断層をすべて捉えきれていない、過去の地震のデータが不十分であるというモデルやデータの不確実性が含まれています。そうした不確実さを伴う情報の提供について、あなたはどのようにお考えですか。(1つだけ○)

1. 不確実さがあっても、情報提供すべきだと思う
2. 不確実さがあっても、情報提供したほうがよいと思う
3. どちらともいえない
4. 不確実さがあるのなら、情報提供しないほうがよいと思う
5. 不確実さがあるのなら、情報提供すべきでないと思う
6. わからない

問 24. 6 ページに掲載している地震動予測地図は、各地が今後 30 年以内に震度 6 弱以上の地震の揺れにみまわれる確率を、色分けして示しています。あなたがこの地図に改めて名前を付け直すとしたら、以下の(A)～(F)ごとに提示している「1」「2」の名称について、それぞれどちらがより適していると思いますか。((A)～(F)それぞれについて、○を1つずつ)

	「1」が名前としてより適している	「2」が名前としてより適している
(A) →	1. 地震動ハザードマップ	2. 地震ハザードマップ
(B) →	1. 地震の起こりやすさマップ	2. 地震の揺れやすさマップ
(C) →	1. 地震リスクマップ	2. 地震危険度マップ
(D) →	1. 地震動ハザードマップ	2. 地震動リスクマップ
(E) →	1. 地震動予測地図	2. 地震予測地図
(F) →	1. 地震の揺れやすさマップ	2. 地震危険度マップ

D. その他についてお伺いします。

問 25. あなたは次の用語をご存知ですか。((A)~(J)矢印の方向それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに○を1つずつ)

		1 言葉も意味も 知っている	2 言葉は知っているが 意味は知らない	3 言葉も意味も 知らない
(A) 地震調査研究推進本部	→	1	2	3
(B) 地震の長期評価	→	1	2	3
(C) マグニチュード	→	1	2	3
(D) モーメントマグニチュード	→	1	2	3
(E) 地下の流体	→	1	2	3
(F) 南海トラフ地震臨時情報	→	1	2	3
(G) 北海道・三陸沖後発地震注意情報	→	1	2	3
(H) 被害想定	→	1	2	3
(I) 活断層	→	1	2	3
(J) 海溝型地震	→	1	2	3

最後に、あなたご自身についてお伺いします。

F1. あなたご自身の年齢を教えてください。

F2. あなたご自身の性別を教えてください。(1つだけ○)

F3. 2024年1月1日時点での、あなたご自身のご職業を教えてください。(1つだけ○)

F4. 2024年1月1日時点での、あなたのご自宅は、築何年ですか。また、何年住んでいましたか。

【ご自宅の築年数】

【居住年数】

F 5. 2024 年 1 月 1 日時点での、ご自宅の建物の造りについて教えてください。（1 つだけ○）

1. 木造
2. 鉄筋コンクリート造（RC 造）
3. 鉄筋鉄骨コンクリート造（SRC 造）
4. 鉄骨造（S 造）
5. その他（具体的に： _____）
6. わからない

F 6. あなたご自身の最終的な学歴を教えてください。（1 つだけ○）

※現在学生の方は、最後に卒業した学校をお答えください。

1. 中学卒
2. 高校卒
3. 専門学校卒
4. 短大・高専卒
5. 大学卒
6. 大学院卒
7. その他（具体的に： _____）

F 7. 差支えありませんでしたら、2024 年 1 月 1 日時点のあなたのご住所をお聞かせください。

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

令和 6 年能登半島地震被災地等における
全国地震動予測地図の認知度等に関する調査
調査結果報告書

令和 7 年 3 月

文部科学省研究開発局地震火山防災研究課
(調査実施：株式会社サーベイリサーチセンター)